

第7次江別市総合計画策定に係る えべつの未来づくりミーティング開催結果

会議概要編

令和4(2022)年9月
江 別 市

目 次

I	えべつの未来づくりミーティングについて.....	1
1	えべつの未来づくりミーティングの実施について.....	1
2	開催一覧.....	2
3	テーマについて.....	3
II	会議概要.....	4
1	一般社団法人 江別青年会議所.....	4
2	江別市自立支援協議会.....	7
3	公益社団法人 江別市シルバー人材センター.....	10
4	社会福祉法人 長井学園の利用者の皆さん.....	13
5	NPO法人 江別手をつなぐ育成会.....	16
6	まちづくり関係団体.....	19
7	江別SOGIの会.....	22
8	江別聴力障害者協会.....	25
9	江別空色クラブ.....	28
10	市内企業の経営者の皆さん.....	30
11	市内企業に勤務する若手社員の皆さん.....	33
12	江別市女性団体協議会.....	37
13	市内各大学の学生の皆さん.....	41
14	介護予防サポーターの皆さん.....	46
15	社会福祉法人 江別市社会福祉協議会の若手職員の皆さん.....	49
16	江別認知症の人の家族を支える会（かけはしの会）.....	53
17	J A道央・J A道央青年部.....	57
18	江別市私立幼稚園PTA連合会.....	61
19	市内各高等学校の生徒の皆さん（1回目）.....	64
20	経験豊富な農業者の皆さん.....	67
21	野幌地区自治会連絡協議会.....	71
22	子育て支援センターすくすく利用者.....	75
23	江別地区自治会連絡協議会.....	78
24	江別視覚障害者福祉協会.....	81
25	市内各高等学校の生徒の皆さん（2回目）.....	83
26	市内各中学校の生徒の皆さん.....	86
27	地域の医療・介護に携わる方.....	90
28	保育園の利用者.....	95
29	大麻地区自治会連絡協議会.....	97
30	江別身体障害者福祉協会.....	101
31	江別市PTA連合会.....	104

I えべつの未来づくりミーティングについて

令和6年度（2024年度）を初年度とする「第7次江別市総合計画」の策定に向けた市民参加の取組の一つとして、「えべつの未来づくりミーティング」（以下「ミーティング」といいます。）を実施しました。

1 えべつの未来づくりミーティングの実施について

令和2年当初から続く新型コロナウイルスの感染拡大の影響を考慮し、少人数から成るグループを複数設定して、グループごとに、江別市の未来について語り合うミーティングを行うこととしました。

実施に当たっては、はじめに、大区分として、七つのカテゴリーを設定し、さらに、小区分として、実施するグループを設定しました。

また、ミーティングには、将来の江別市を担う市の若手職員も一参加者として出席しました。

番号	カテゴリー	趣 旨	グループ
1	子ども・若者	子どもたちや若い世代の意見を把握する。	市内中学生
			市内高校生
			市内大学生
2	子育て世代	子育て世代の意見を把握する。	子育て中のパパ・ママなど
3	シニア世代	シニア世代の意見を把握する。	元気な高齢者
			働く高齢者
			認知症の高齢者の家族
4	地域福祉に関わりの深い方	地域福祉、地域医療、障がい福祉や当事者の意見を把握する。	ボランティア団体・支援団体
			障がい者関係・当事者団体（身体・知的・精神）
5	地域産業に携わる方	地域産業に携わる方の意見を把握する。	市内事業者
			市内企業の従事者
			農業に携わる方
6	市民活動に関わりの深い方	地域活動、まちづくり活動を支えている方の意見を把握する。	自治会
			女性団体
			まちづくりに関わる団体等
7	その他	1から6まで以外の方からの意見を把握する。	LGBTQの支援等に関わる団体

2 開催一覧

ミーティングは、令和4年1月から7月までの約半年間にわたり実施しました。

なお、1月27日から3月21日まで、北海道における「まん延防止等重点措置」の期間となり、新型コロナウイルスの感染拡大を防止する観点から、開催を控えました。

【単位：人】

番号	実施日	グループ	出席者	若手職員	合計
1	1月26日	一般社団法人江別青年会議所	6	1	7
2	3月22日	江別市自立支援協議会	5	1	6
3	3月28日	公益社団法人江別市シルバー人材センター	4	1	5
4	3月28日	知的障がい当事者（長井学園）	4	0	4
5	3月30日	NPO法人江別手をつなぐ育成会	5	0	5
6	4月25日	まちづくり関係団体	4	2	6
7	4月25日	江別SOGIの会	5	1	6
8	4月27日	江別聴力障害者協会	4	1	5
9	4月28日	精神障がい当事者（江別空色クラブ）	3	1	4
10	5月16日	市内企業の経営者	6	0	6
11	5月18日	市内企業の若手従業員	5	1	6
12	5月20日	江別市女性団体協議会	6	1	7
13	5月21日	市内各大学の学生	8	1	9
14	5月23日	介護予防サポーター	5	1	6
15	5月24日	社会福祉法人江別市社会福祉協議会	4	1	5
16	5月30日	江別認知症の人の家族を支える会 （かけはしの会）	6	1	7
17	6月 9日	J A道央・J A道央青年部	5	1	6
18	6月13日	江別市私立幼稚園PTA連合会	4	1	5
19	6月14日	市内各高等学校の生徒（1回目）	8	0	8
20	6月29日	経験豊富な農業者	6	1	7
21	7月 6日	野幌地区自治会連絡協議会	5	1	6
22	7月 8日	子育て中のパパ・ママ （子育て支援センターすくすく利用者）	4	1	5

番号	実施日	グループ	出席者	若手職員	合計
23	7月12日	江別地区自治会連絡協議会	5	1	6
24	7月19日	江別視覚障害者福祉協会	4	0	4
25	7月19日	市内各高等学校の生徒（2回目）	10	0	10
26	7月21日	市内各中学校の生徒	8	0	8
27	7月21日	地域の医療・介護に携わる方	6	1	7
28	7月24日	子育て中のパパ・ママ（保育園の利用者）	4	1	5
29	7月25日	大麻地区自治会連絡協議会	5	0	5
30	7月27日	江別身体障害者福祉協会	4	1	5
31	7月29日	江別市PTA連合会	3	1	4
合 計			161	24	185

※ 令和4年1月27日から3月21日まで、北海道におけるまん延防止等重点措置の適用期間

3 テーマについて

ミーティングでは、「江別市の強み・弱み」と「人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野」を共通のテーマのほか、グループ特有のテーマを設定して、さまざまなご意見をお聞きしました。

なお、全31回のミーティングのうち、26回でグループ特有のテーマを設定して意見交換を行いました。

Ⅱ 会議概要

1 一般社団法人 江別青年会議所

令和4年1月26日（水） 江別市民会館3階37号室
午後7時～午後9時

（１）江別市の「強み」は

- ・札幌市と比べて土地が安く、家を建てやすい。札幌市南区や手稲区に比べると、ＪＲ１本で札幌まで行けるという、アクセスの良さも感じる。
- ・ちょっと行けば遊ぶところ、買い物をするところなどがいろいろあって、基本的には過不足なく生活できる。
- ・イオン、ホームックが市内に２か所あり、エブリなど江別市のものを推している店もある。野幌公園、飛鳥山公園、四季のみちもあり、子育て世代には良い環境だと思う。
- ・丁度いい田舎が魅力的。ちょっと行けば畑があって、美味しい新鮮な野菜を食べることができる。
- ・文教都市という一面もあり、大学が四つと短大が一つあり、学生が入れ替わることで若い人々の柔軟な考えがうまく循環している。新たな考え方が生まれるのも強み。
- ・大学があり、若者が確実に来る。大学時代を江別市で過ごした記憶がずっと残る。酪農学園大学や北海道情報大学など専門的な大学があることも強み。
- ・どこにでもアクセスできる主要な道路が多く交わっている。北海道内でもあまりないアクセスの良さ。地理的、物流面でとても良い。



（２）江別市の「弱み」は

- ・商業施設は結構あるが、江別市の観光はここだ、という明確なところがない。
- ・大学で江別市に来て、札幌市に出ていってしまうことが多い。惹きつける力が若い世代にとっては少し弱いと思う。
- ・大学生は多いが、卒業後、札幌市や道外に行ってしまう。もう少し札幌市や道外に負けないような企業があれば、離れていく大学生を抑えられると思う。
- ・江別市内にいろいろなものが過不足なくあることは強みだが、それらが繋がっていないように感じる。江別市内には、就活生への企業説明会などが、充実していないように感じる。
- ・江別市への企業の新卒枠が多分少ない。工業団地などで行っている新卒者への企業説明会にもっと多くの企業が参加できるような体制づくりが必要だと思う。
- ・大学はあるが、江別市に留まってくれる人が少ない。地元企業の二代目・三代目は、江別市を離れても戻ってくるが、そうではない人は江別市に親が住んでいても戻ってこない。
- ・人手不足。江別市で働き手を残せない、若い人を保てない。

- ・若い世代は市政に興味がないのでは。このミーティングのような取組があることを、私たち世代や、もっと若い世代にきちんと伝えて、関わってもらうことが必要だと思う。
- ・情報発信は、アナログとデジタルを織り交ぜるべき。若い人と高齢者の橋渡しとなる情報を積極的に発信していかなければならない。
- ・江別市で出産できるところが、江別市立病院1か所しかない。
- ・自分の家族も市内の医院では分娩できず、少し残念だった。

(3) 江別市における将来の地域経済の活性化策

- ・市外から来る車が多い国道275号を観光で生かせないか。
- ・リモートワークが増加しているので、設備の整った場所を増やしていくのが良いのではないか。
- ・DX（デジタルトランスフォーメーション）を江別市でも推奨すること。北海道情報大学等と連携できるメリットも生かせるのではないか。
- ・江別市に会社がなくとも江別市で働けることを支援する。そうすれば、江別市に住み続けられるようになる。
- ・遠隔地から接客するロボットの開発も重視して基盤づくりを進める。
- ・札幌市では、札幌商工会議所が、起業支援を行っている。江別市内でも起業支援により企業の数が増えてくると、企業説明会に参加する企業も増えると思う。
- ・江別市内の中小企業などで働いている江別市民の支援を行ってはどうか。
- ・除雪や水道事業などによって、生活が便利になっていることを発信する。それにより、子どもや若者にそれらの仕事の魅力が伝わり、働きたい人が増える。体験や交流イベントなどの機会もあれば良い。
- ・最近、副業や兼業が話題になっているが、これからは、一つの仕事だけではなく、複数の仕事に従事する人が増えると思う。そういったことを見据えて、若い人たちが、仕事の内容や魅力を知る機会を設けることができれば良い。
- ・企業用の土地が不足しており、土地を確保したくても資金力の違いから市外の事業者に勝てない部分も多分ある。市内の業者への優遇制度などがあると良い。
- ・江別市には酪農学園大学や酪農地域もあるので、農業をやりたい若い人に、農業を辞めた後の土地を優遇して譲渡する施策があっても良いのではないかと思います。

(4) 将来に向けて、江別市が力を入れるべき分野について

- ・江別青年会議所では「協働」に取り組んできた。いろいろな人の知恵を繋げていかなければならない。自ら率先してやってみようと思う大人が増え、姿勢を示すことで、子どもたちもついて来る。
- ・人が少なくなりがちな地方では、連携や協働を積極的に推進しなければならない。いろいろなものはあるが独立しているので、連携や協働により、個ではなく、市全体として成長できれば



良い。

- ・デジタルを活用し、仕事を効率化することで、人的な余裕が生まれ、人手不足の解消につながると良い。そのためには、デジタルの活用をもっと進めていかなければならない。
- ・今の高齢者は元気なので、働ける環境を整えてほしい。高齢者にもっと活躍してもらわないと人材不足は解消されない。
- ・これからのまちづくりは、若い世代に積極的に取り組んでほしいと思う。
- ・江別市内は下請業者が多い。若い人が起業して事業者が増え、市内の工事は市内の事業者でできるようになってほしい。起業支援の情報などを伝わりやすくしてほしい。
- ・人が訪れ、にぎわうまちを目指し、観光に取り組んでいくなど、アンケート調査結果で数字が低い箇所を大きく改善してはどうか。また、江別市は健康都市宣言をしているので、何か抜きん出たスポーツ事業やスポーツ交流などにも力を入れてほしい。
- ・若い人たちが住む場所や環境づくりに力を入れているが、江別市に来たい方はまだ多いと思うので、引き続き進めてほしい。土地がなくて住めないということがないようにしてほしい。
- ・ネームバリューが弱いと感じている。もっとブランド力を強めてほしいと思うが、アンケート調査結果を見ると、ブランド力よりも、高齢者や子どもたちが安心して暮らせることを求めているので、そちらに力を入れていくべきなのかとも思う。

2 江別市自立支援協議会

令和4年3月22日（火） リモートで開催
午後3時～午後4時30分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、コンパクトなところ。ほどよい広さで、業務上必要な手続きで市役所に行きやすい。障がい福祉の事業者は、お互いの顔も見えやすく、ネットワークをつくりやすいと感じている。一方、隣に札幌という、いろいろな資源が揃ったまちがあるので、困った時に札幌市に行けば事足りることも多いため、江別で独自のものが育ちにくく、江別になくてもいいという感じになってしまう。「札幌市に近い」ことは、江別市にとって、強みでもあり、弱みでもある。
- ・札幌から就職で江別に来た時、調べると、江別は「レンガ」「風」「小麦」のまちだと学んだ。小麦はパン屋さんが多いので、レンガや小麦をもっとアピールしたら良いと思う。風の強さは、引っ越してきて実感している。風力発電で利用できないかなとったりしている。
- ・産業に関する資料を見ると、一次産業や二次産業の割合が、石狩管内の他市と比べると高くないのが意外だったが、いろいろな産業があると、仕事の選択肢が増えて、障がいのある方の働く先の選択肢の広さにもつながると思う。ただ、札幌に近いことはメリット・デメリットがあって、江別で働いてほしいと思っても、札幌で就職するという選択をする人も多いので、難しいところだと思う。
- ・江別の強みは、コンパクトでシンプルなまちであることだと思う。街並みが一定なので、住んでいると落ち着く。その一方で特色が薄いとも思う。特色って何だろう？と考えないと出てこない。住民がそう思うということは市外の人はおそらくだと思う。北海道内の人口が同規模の小樽市や北見市であれば、小樽は歴史のまち、北見は焼肉のまち、と印象がはっきりしている。そういうものが江別市にないと思う。
- ・強みと感ずるのは、自立支援協議会で携わっていると、住んでいる方々は、明るくて意見が活発に出て、課題の抽出がうまいと感じる。
- ・江別には、大きな公園が多いことが強み。いろいろな遊具があったり、水で遊べるような公園がいっぱいある。札幌市にもあるが、札幌はとても混んでいる。江別は適度に空いているので、順番待ちをしなくても子どもを遊ばせることができる。弱みは、四つの大学があるが、卒業すると市外に転出してしまうこと。
- ・大学の先生との話の中で、自宅から通っている学生が多く、就職は自宅から通勤しないと収入の中でやりくりできないので、実家に戻って就職するのが当然のものとして就活していると聞いた。福祉施設などは寮を整備したり家賃補助をしないと人材が集まらないとも聞く。江別に人を留めるには、いろいろな策を講じる必要があるのではないかと思った。



(2) 江別市の障がい福祉の現状について

- ・先ほど、江別市の強みで「顔が見えやすい」という話があったが、自分が仕事を始めた十数年前は、とても顔が見える関係だったと思う。最近は事業所が増えてきて、障がいをお持ちの方にとっては選択肢が増えて良いことだと思うが、それと同時に、少しずつ、分からない、気付けない部分が増えている気がする。そのような中でも、ネットワークやつながりがある地域だと思いながら、日々、仕事をしている。
- ・グループホームの新棟を建てる際、その地域の自治会の総会にお邪魔して、増設の説明をしたが、快く歓迎してくれた。グループホーム完成後は、地域の方を招いて、グループホーム内で焼肉パーティーをしたり、地域合同で避難訓練をしたりしている。地域の皆さんには、日頃、利用者の生活面も細かくサポートしていただいている。障がい者や高齢者への理解が非常に深いまちだと感じる。
- ・精神障がい、発達障がいの方が、人口が減っても増えてきていると感じる。相談支援業務で市役所の障がい福祉課に行くが、一人一人のケースについて相談すると、親身になって聞いてくれるので心強く思っている。一方、身体障がいの方は数が一定で、そのためか、バリアフリー化が進んでいないと感じる。歩道が微妙に斜めになっていて、車いすや歩行器では車道のほうに寄ってしまうなど。また、仕事の受入れ先がなかったり、送迎がない札幌の通所に行かなければならないこともある。そういうところが少し弱いと思う。
- ・市の障がい福祉課から各事業者聞くことも多い。そのようなつながりが市としても非常に助かっている。事業者間の横のつながりも強いと思う。(市職員)
- ・自立支援協議会で出ている話題を聞いていると、他の自治体と同様の課題を抱えていると感じる。医療的ケアや相談支援事業者の業務のひっ迫具合など。

(3) 将来に向けて、江別市が重視すべき考え方や視点、力を入れるべき分野について

- ・江別市の特徴は、大きな川や広い土地があること。一次産業に向いている。酪農学園大学もあるので、酪農と畜産を盛り上げて、焼肉のまちにならないか。江別市内には、北見市の5分の1しか焼き肉屋がないらしい。牛の皮はグローブに使えばSDGsにつながらないか。
- ・障がい福祉事業所が増えると、障がいのある人は障がい福祉事業所に通所するのが当然というような流れになるのが少し心配。私たち事業者が押し出すのも当然だが、地域が引っ張ってくれるような空気になっていくといいなと思っている。最近は高学歴の発達障がい者も増えており、障がい者の受入れ枠にあてはまらず、行き場がないことが気になっている。健常者の中に障がい者が入り込んでいけるような場所や環境が増えていくと、皆さんの選択肢がもっと増えていいと思う。
- ・学生のうちに起業する人が増えていると聞いた。起業支援などでできないか。金銭的な支援だけでなく、有識者からのアドバイスなど。企業の方から聞いたが、起業する際に、札幌で起業するより江別で起業するほうが初期投資が安く済むとのことだった。
- ・自立支援協議会での課題から、権利擁護や、「親亡き



後」を見据えた地域生活支援拠点の整備などに取り組んでいただけたらと思う。

- ・約1,600人の市内大学生が就職する中、江別市内で就職する人は二十数名という話を聞いて驚いた。もう少し学生に市内に残って活躍してもらう魅力を江別市が持つことが大事ではないか。子ども食堂では、北翔大学の学生も毎年入れ替わりで来ている。子どもだけでなく、家で一人で食事をされている障がいのある方も利用しているが、大学生は4年生になると卒業して来なくなるので、「仲良くなったけど卒業でいなくなるんだよね」と寂しそうに言っているのを見ると、卒業しても学生を江別に引き留められないだろうかと考えてしまう。
- ・他の自治体の事例で見たことがあるが、「ドラマのロケ地として使ってください」と、まちをPRして、ロケを誘致しているところがあった。そういう取り組みも積極的に行ってはどうか。
- ・スポーツ合宿の誘致ができないか。ラグビーワールドカップの時にも、学校訪問などで盛り上がっていた。留萌市は合宿に助成をして誘致していたと思う。
- ・現在も学生のスポーツ合宿は、今でも江別市に結構来ているのではないか。

3 公益社団法人 江別市シルバー人材センター

令和4年3月28日（月） 江別市民会館3階37号室
午前10時～午後0時

(1) 江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みとして、ごみの収集が徹底されていると思う。カラス除けも設置されており、きれいに収集してくれる。医療機関も近くにあり、充実している。弱みは、東野幌小学校の近くに住んでいるのだが、バスが1日に1本しかないこと。近所には高齢者が多いが、バスの本数が少ないので、結局ハイヤーを使っている。交通費に対する市の援助がないのも残念。高齢者支援に力を入れてしてほしい。



- ・強み・弱みは裏表になるが、札幌が近いので、札幌と比較してしまう。札幌市にアクセスしやすいので、札幌市になびいてしまう。ただ、元札幌市民だが、江別に住んでいると穏やかさを感じる。過ごしやすさは強みだと思う。子どもがいる友人は、公園もあり、子育て環境が良いと言っている。一方、小さな子どもを産める病院が江別市立病院しかなく、札幌で産んでいる人も多い。そのほか、雪が多いと移動にデメリットを感じることもある。
- ・強みは、環境が良く住みやすいこと。私は満足している。弱みは、働く場。義理の息子が江別市内で就職先を見つけようとしたが、見つからず、結局、札幌市内で就職した。
- ・強みは、自然が豊かなこと。札幌市に近いので、大きな病院やデパートも、自家用車で出かける人にとっては便利。弱みは、雪対策。昨日の自治会の会議でも、話題は雪対策のことばかり。歩道の除雪も間に合っていなかったほか、時間の制約があるため、除雪の途中でも帰ってしまうこともあった。
- ・除雪については、市民のマナーも悪いと思う。冬、車を運転していると、家の前の道路に平気で雪を捨てている人がいる。特に2番通り。その結果、バスが通れなくなってしまう。
- ・ネズミ、カラス、キツネ、アライグマの対策も、本州に比べて遅れている。捕まえて持って行くと、交付金がもらえる自治体もあるが、江別ではもらえない。ネズミについては、ネズミから感染する病気もあり、これから問題になってくると思う。
- ・雪道は、鉄東線の交差点がすり鉢状になっており、通るのをあきらめて遠回りした。店の人が、店の前の道路に雪を捨てるので、そうになってしまう。とはいえ、日中の除雪は難しいと思う。道路がすり鉢状なのは、どこもそうだった。大型車による事故もあった。
- ・現在、排雪を請け負っている会社の掃除の仕事をしているが、従業員は、今年は大変そうだった。そのような状況を見ると、除排雪が悪いなどと文句は言えないと思った。従業員は、夜やってきて働いて、しばらく休んで再び、長時間にわたって働くなどし

て、本当に大変だったと思う。

- ・市のホームページに排雪状況が載っているが、雪捨て場が午後5時で閉鎖するし、閉鎖の状態が続いていることもあった。捨てる所もなかったとすると、今年は異常だったと思う。

(2) 元気に働き続けるために必要な環境について

- ・日ごろの健康管理が大事だと思う。シルバー人材センターでは、85歳を超えても元気に働いている人もいて、個人差を感じる。仕事があるから健康でいなければいけないという気持ちも重要だと思う。自分は野菜中心の食生活や運動などを心掛けている。
- ・自宅の庭で、自分で作った野菜を採って食べる生活を実現するために、江別に引っ越してきた。新型コロナウイルス感染拡大によってシルバー人材センターでも交流する機会が減り、ここ2年間はいろいろなことをできていないのが現状。
- ・外で働くことが元気に働き続けることにつながるという話があったが、高齢者の就職の間口が狭いのではないか。企業も定年を延長する流れにあり、60歳で定年退職をする人が少なくなる中で、新たに上の年齢層を受け入れるのは難しいと思うが、多少なりとも間口を広げていくことが必要だと思う。
- ・現役で勤めている時に体調を壊して入院を経験し、つくづく健康のありがたみを感じた。シルバー人材センターで先輩に教えてもらいながら仕事を覚えて、今は庭木の剪定や冬囲いなどを行っているが、仕事をするのが一番の健康法だと思う。自分だけで歩いたり運動したり体を動かそうとすると、億劫で腰が重いのが、依頼が来たよ、と言われると、早起きして、準備して、仕事して帰ってくる。これが一番の健康法。気持ちも適度に張り詰める。自分の体調を気遣って「ゆっくりやっていいよ」と言ってくれた先輩の存在もありがたかった。お客さんに喜んでもらえることが、自分の働きがいにもなっている。
- ・仕事は二の次で、週3回の卓球が一番の健康法。仕事については、新型コロナウイルス感染拡大中は、高齢者宅に行く際に、「この状況ですが、お伺いしてもよろしいですか？」と確認をとりながら訪問し、掃除の仕事を行った。80歳代、90歳代の方のお宅に行くと、掃除に加えて、話し相手をしてほしいという状況であった。
- ・地域の健康推進のイベントに昨年初めて行ったが、割と、仕事を持っている人が多かった。このような取組に積極的に出たいという状況をつくれないだろうか。また、行きたいと思ってもらえるような工夫があると良いと思う。行っている人は楽しみにしているが、まだ行っていない人にどう参加してもらおうかが重要だと思う。
- ・江別市蒼樹大学に参加していたが、今年卒業したので、今度は聚楽学園に入学する。新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催が延びるなどしていたが、いろいろな話を聞くことができて結構楽しかった。地区ごとに班が決まっていて、「ここに住んでいるの？」と近くに住んでいる知り合いも増えた。
- ・聚楽学園は自主運営。自分も6年間参加したが、とても面白かった。



(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・子どもを産むときに江別市立病院しかないので、若い人が安心して子どもを産める環境、産科を増やすことが人口減少に歯止めをかけることになるのではないだろうか。江別市は住むにはとても良いところだが、孫の保育園を見つける時に苦労した経験がある。子どもを産んで育てる環境も大事だと思う。高齢者にとっては割と住みやすいまちだと思っている。
- ・庭木の剪定で高齢者宅に行くと、あれもしてほしい、これもしてほしいと、いろいろなニーズがあるようだ。ただ、シルバー人材センターに電話しづらいようで、シルバー人材センターと上手くマッチングできると、シルバー人材センターの仕事にもつながり、お客さんの要望にも応えられるのではないだろうか。それから、自治会に参加しながら人にどう参加してもらうかも課題だと思う。社会参加の魅力をもっとアピールしながら、参加しやすい環境を整えることが大事だと思う。
- ・市広報やインターネットからの情報が届かない高齢者が増えている。そのような人にどう伝えるか。自治会でも連絡網の整備が必要ではないかという話があった。市広報の内容について、高齢者が情報を得やすいように改善してほしい。また、これからは高齢者もインターネットを使うようになるので、検索しやすくするなど、知りたい情報を探しやすいようにしてほしい。
- ・子どもを産める環境を整えることが、子育て世帯の定着につながり、高齢化が進む中でも、若い世代が減少していくことに少しでも歯止めがかかるのではないと思う。市のホームページも、国全体でデジタル化の流れがある中で、どう活用していくのが重要だと思う。
- ・自分が住んでいる地域の自治会は小規模で、高齢になると施設に入所する人が結構多いが、結局、家を売って、子どもが住んでいる場所に転居してしまう。去年もそのようなことが2回あり、これが人口減少につながるのだと思った。その一方で、空き家になった場合、一角が80坪ぐらいあるので、そこを二つに分割して分譲すると、住む人が増えるのではないだろうか。
- ・高齢化が進んで、単身で一軒家に住んでいる方が増えている。そのような方の情報はシルバー人材センターであまり持っていないが、地域包括支援センターと連携して対応できたらいいのではないと思う。ただ、個人情報の取扱いがネックになってくる。拒否する人もいるので入って行きづらい。
- ・自分の自治会では、インターネットを活用してホームページを閲覧できる人が少なく、この間、大雪でごみの収集が中止になったことなどは、伝わらなかったのも、ごみステーションなどへの貼り紙で対応した。
- ・将来は、高齢者もインターネットを使える割合が増えると思うが、今、インターネットを使えない独り暮らしの高齢者の情報がつかめないことが問題だと思う。将来的に解消されていくと思うが、各地域でも、見守りができているのか心配。

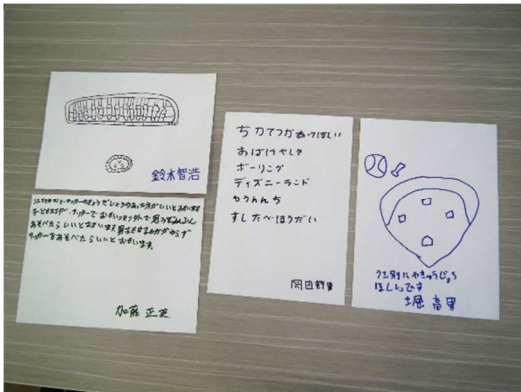


4 社会福祉法人 長井学園の利用者の皆さん

令和4年3月28日（月曜日）

江別市民会館3階37号室
午後2時～午後3時

今回のミーティングでは、事前に「あなたが望む未来のえべつ」について、画用紙に絵や文字を記載していただき、それをもとに意見交換を行いました。



【皆さんが記載した未来のえべつ】



（1）江別市の未来について ～あなたが望む未来のえべつ～

ちかてつがあてほしい
あばけやしき
ボーリング
ディズニーランド
やうれんち
すしたべほうだい



【「地下鉄」「お化け屋敷」「ボウリング」「ディズニーランド」「遊園地」「食べ放題の寿司屋」】

→家族のもとに帰省して食事や買い物をしたり、友人と遊ぶときに、札幌に行くことがあるので、地下鉄があると便利です。

→お化け屋敷は、以前、中島公園（で開催されたまつり）にあったとき、入ったら、とても楽しかったです。

→新型コロナウイルス感染症で、今はあまり行きませんが、ボウリングは友人と行くことがあります。最高スコアは190ぐらい。回転寿司屋も、外出のときに行きます。



【 江別に野球場がほしいです 】



→野球が好き。自分でも野球をすることがありますが、最近^{さいきん}は、プロ野球を観^みるのが好き。当然^{とうぜん}、日ハムファン！ドーム型^{がた}の野球場がほしいです。

◎ 以前^{いぜん}は、社会福祉法人長井学園^{しゃかいふくしほうじんながいがくえん}の利用者^{りようしゃ}でチームを作^{つく}って支援者^{しえんしゃ}の方々と野球^{かたがた やきゅう}をしていたこともあるようです。

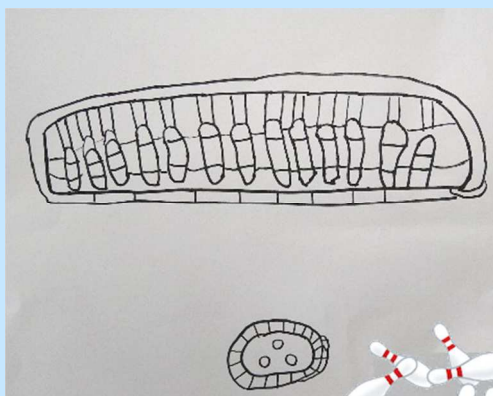
江別市内でサッカーのきょうぎじょうのあった方がいいとおもいます
子どもたちが、サッカーでおもいきり外で思う存分
あそべたらいいとおもいます。男子も女子もかかわらず
サッカーをあそべたらいいとおもいます。



【 サッカーの競技場があったらいいな 】

→自分の家の近くにある小学校^{しょうがっこう}の子どもたちが、思う存分^{おも ぞんぶん}、サッカーで遊^{あそ}べたらいいなとおもいました。鉄棒^{てつぼう}やすべり台^{だい}で遊^{あそ}んでいる子どももいますが、男^{おとこ}の子も、女^{おんな}の子も、サッカーで遊^{あそ}べたらいいなとおもいました。

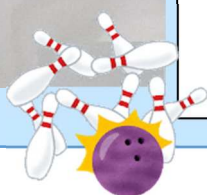
→サッカーを観^みるのが好き。ゴールが入^{はい}ると、みんな盛りあ^{もあ}がるところが楽しい！



【 ボウリング場がほしいです！ 】

→休日^{きゅうじつ}は、友人^{ゆうじん}と札幌^{さっぽろ}のボウリング場^{じょう}に行^いって、ボウリングをしに行くことがあります。

→ボウリングの後^{あと}には、ご飯^{はん}を食^たべて帰^{かえ}ってくることがあります。ボウリング場^{じょう}は、江別^{えべつ}市内^{しんない}の駅^{えき}の近く^{ちか}にあるといいなとおもいました。



◎ そのほかの意見^{いけん}

- ・ユニクロがあったら便利^{べんり}だと思う^{おも}。
- ・いろいろなところに行けるから、J R 江別^{えべつ}駅に特急^{とっきゅう}が停^とまってほしい。
- ・以前^{いぜん}は、商店街^{しょうてんがい}の中に交流^{なかにこうりゅう}する場^ばがあったので、みんなで交流^{こうりゅう}する場^ばがあるといい。

(2) 江別^{えべつ}の印象^{いんしょう}、好き^すなところについて

- ・江別^{えべつ}蔦屋書店^{つたやしよてん}が好き^すです。本屋^{ほんや}も、そのほかの店^{みせ}も、全部^{ぜんぶ}好き^すです。ブックオフにも行きます。本^{ほん}や漫画^{まんが}が好き^すなので、休み^{やす}の日に気分転換^{ひきふんてんかん}に出かけます。コンビニエンスストアやイオン、ドラッグストアなどに出かけるのも好き^すです。

- ・江別市^{えべつし}の住^すみ心地^{ごこち}は、都会^{とかい}なのか、田舎^{いなか}なのか、よくわかりませんが、いいと思^{おも}います。

- ・江別市^{えべつし}は、以前^{いぜん}住^すんでいた札幌市^{さっぽろし}と比べると、あまり街^{まち}がないと思^{おも}う。札幌市^{さっぽろし}や釧路市^{くしろし}のようになってほしいです。地下鉄^{ちかてつ}やデパートなどがあるといいと思^{おも}いますが、江別市^{えべつし}の住^すみ心地^{ごこち}は、まあまあかな。



5 NPO法人 江別手をつなぐ育成会

令和4年3月30日(水) 江別市民会館2階21号室
午後2時15分～午後3時40分

(1) 江別市の「強み」「弱み」は

- ・自分が住んでいる錦町は人口が増えているが、先日、野幌地区に住んでいる友人から、農家の人口がとても減っていると聞いた。小学生もわずかで、登校時にはタクシーが迎えに来ると聞いた。JR江別駅前、銀座通りだったのに、今はシャッター街になっている。江別地区は住宅街ばかりで、住んでいる人の大半は、仕事は札幌市に行っているのだろうか。自分が卒業した学校もなくなるなど、ここ何年かで地域の変化を感じる。



- ・以前、JR野幌駅の近くに住んでいたが、今は、いずみ野に引っ越して住んでいる。JR野幌駅付近と比べると、とても静かで、当初は静か過ぎて眠ることができなかったぐらいであった。同じ市内なのに、こんなに違うのかと感じている。



- ・幸町に住んでいるが、住み始めた当初は、猛吹雪の時に辛かったり、バスも通っておらず大変だったけど、今はバスもあり、交通面は便利。江別市では、最近子どもが増加し、認定保育園が増えているが、先日、大麻地区の友人宅に行くと、戸建ての家がたくさん建っており、これが若い世代が増えている理由なのかと感じた。ただ、宅地がいっぱいになっているのであれば、また人口減少などの問題が出てくるのだろうかと考えた。
- ・文京台に住んでいる。森林公園がすぐそばで、毎日散歩もできて、住環境としてはとても静かだいいと思っている一方で、大麻地区は、おじいちゃん、おばあちゃんばかりになってしまっている。店も少なくなっているが、医療機関は新札幌が近く、そちらのほうが充実しているので、どうしても新札幌の病院に行ってしまう。とはいえ、江別市立病院の赤字のことが新聞に載っており、これは策を考えないと大変なのではないかと心配している。
- ・市内で障がいのある方を、親切に診てもらえるような医療機関がないと感じる。歯科も知的障がいのある方の口腔医療を専門にしているところはあまりない。江別市立病院でも、以前、障がいを理由に検査を断られたことがある方もいる。また、江別市立病院は新型コロナウイルス感染者専用病床を設置していると聞いたが、そのことが市民に浸透していないのではないかと。浸透していれば、もっと利用したい方もいたのではないだろうか。障がい者の入所施設で感染しても入院させることができないという社会の事情があり、また、障がい者が感染したら、できれば施設で見てほしいという話が国や道からあったとも聞いた。必要な人に必要な医療を届ける市民のための病院は一体どこにあるのかと、憤りを感じたこともある。最近は、市広報で、こんな検査もできます、特定健診にもどんどん来てください、という江別市立病院の明るい話題を見ることもある。医療面で困っている方たちを支えていただけるような江別市立病

院であってほしい。

(2) 今後、江別市が力を入れるべき分野について

- ・子どもたちの障がいを見ると、この先、親もだんだん年をとるため、心配。今は施設で楽しく暮らしており、定期的に家に帰ってきて、親との交流もあるが、施設の職員もなかなか集まらない中、今後、子どもたちが満足できる支援をしていただけるか不安がある。
- ・障がいのある方たちの一生を考えると、江別市の教育は充実しているものの、卒業後の就労の段階で、就職先が市内で見つからない。障がいのある方たちも働ける産業振興を、どんどん進めていただけるとありがたい。農福連携で福祉就労をしているところがあり、江別市でもサポートしていると思うが、いろいろな産業の中で障がいのある方が働けるように工夫していただくことを切に願っている。また、就労のための教育を含めた高等養護学校の設立を当団体としてもお願いしている。
- ・これまで、家族を含め、江別市立病院に行ったことはなかったが、去年患った病の経過観察のために、札幌市内の病院から江別市立病院への紹介状を書いてもらい、今年の5月から江別市立病院に通うことになった。雪の多い中、札幌の病院に行くのは大変で、これからは江別市立病院なのでほっとしているが、周囲の人に話を聞くと、多くの方が札幌の病院に通っており、江別市立病院に通院するというと、「大丈夫なの？」と言われた。「江別市立病院に通院するの？良かったね！」と言われるような病院になってほしいと思う。
- ・江別市立病院には、子どもたちがずっとお世話になっており、良い先生がいる。自分のお子がお世話になった看護師は親切だった。その人その人の対応が大事なのだと思う。設備もきれいになっている。



(3) 今年の大雪に関連して感じたこと、今後の対応について

- ・JR大森駅の近くに住んでいるが、大雪で除排雪が進まず、バスが運休したことには驚いた。また、バスが通る道路は、普通車がすれ違うこともできなかった。母の介護のために札幌の真駒内まで、いつもは片道1時間弱のところ、3時間半かけて行った。でこぼこの道ですれ違うとぶつかりそうで怖かった。その状況は札幌市も同じだったが、札幌市との境目で、道幅が違ったり、改善状況に差があったりした。せめて幹線道路、特にバスが運行する道路だけでも、路面のでこぼこを直してもらえると改善すると思った。・大雪の時期にちょうど3回目のワクチン接種に行くことになり、道路の除雪状況を見ながら、道路を選んで行った。雪に関しては、札幌市に行って分かったが、札幌の雪道の状況はもっとひどく、江別はまだいいほうだと思った。
- ・間口の除雪を業者に委託しているが、この冬は10回来てくれる予定のところ、5回しか行けないと言われた。どこの業者も同様で、誰が悪いわけではないので仕方ないと思った。道路は除雪が入ると、車が通ることができるようになるものの、十分排雪していないため、でこぼこになっており、埋まっている車がいっぱいあった。2番通りは除雪されていたが、3番通りの冬の道路幅の狭さは、毎年だが、何とかならないのだろうか。バスが停まったら、後続が全部渋滞になる。冬に3番通りを通るたびに

思う。

- ・ 夫が、シルバー人材センターに加入している。今年はこれまで以上に、高齢者の方から間口の除排雪を頼まれることが多かった。独りで住んでいる高齢者はゴミ出しにも行けなかったのではないだろうか。
- ・ 市役所では最近、窓口でとても親切にしてもらっている。転勤族だったので、以前はあっちへ行って、こっちへ行ってと他の自治体でも言われたような記憶があったが、最近、ワンストップサービスとまではいなくても、親切に対応してもらい、良くなったと感じている。

6 まちづくり関係団体

令和4年4月25日（月） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後4時5分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、大学生が多いこと。一方、統計データから見ると、良い悪いは別として観光系が弱いと思う。
- ・強みは、商業施設が点在しているほか、交通渋滞が比較的少なく、車で買い物がしやすいこと。また、住宅を購入したが、その際、比較的広い住宅地を確保しやすかった。弱みは、大雪への対応。また、市内の各地区の駅周辺に格差を感じることがあり、JR 江別駅付近は店が少ないと感じる。



- ・強みは、子育て環境が充実していること。子育てひろば「ぽこあ ぽこ」などの施設もあり、子育て世帯には良いのではないかと。弱みは、学生が卒業後、市外に転出してしまふこと。江別市に残って定住するにはどうすれば良いかが課題。
- ・強みは、市民活動がしやすい規模であること。自分の事務所も市役所の近くにあつて、何かあつたら、すぐに市役所に行くことができる。市の活動支援もチャレンジしやすい枠組みで、市民活動団体相互の連絡もとやすく、交流しながらいろいろな活動ができる。弱みは、高齢者が多いので、その方々に、どのように情報を伝えるかが課題であること。広報えべつの役割が非常に大事だと感じている。
- ・強みは、札幌市に近いこと。買い物がしやすく、地価も比較的安く、緑もあつて、転入者が多い。また、若い人が多く、チャレンジすることに寛容で、いろいろな活動をしやすい。弱みは、札幌市に近いゆえに、江別市に愛着がないと、札幌市に目が向いてしまいがちなところ。江別市の魅力度があまり高くないことが、観光面の弱さにもあらわれていると思う。
- ・強みは、人口規模がちょうどよく、江別・野幌・大麻と地区が並び、真ん中に市民活動センターがあつて、相談できる仕組みになっていること。子育て世帯からは、のんびりしていて過ごしやすいという声を聞く。保育園が増えており、日曜日に子どもを預かってもらえるところも増えている。弱みは、放課後児童クラブ。今いる子どもたちがこれから大きくなるので、放課後児童クラブの受入れを整えていくことが課題だと思う。そのほか、自家用車がないと不便。車を持たない保護者からは、バスで行ける範囲が限られているという声を聞く。
- ・大学生が一度江別市から出ていって、各地で活動することは良いことだと思う。結婚や転職など、人生の転機に江別市に戻ってきてもらえるような意識づけをして卒業してもらうことが必要ではないだろうか。
- ・観光面が弱いという話があつたが、昨年度試行で行ったレンタサイクル事業では、市外の人々が江別蔦屋書店や町村農場に行く



ために利用されていた。江別市の観光ポイントをインターネットなどで探して、江別市に来てくれて、レンタサイクル事業を利用して観光していた人が結構いたことは明るい話題だと思う。

(2) 10年前と現在の、各団体の意識と市民の意識の変化について

- ・10年前と今を比べて、所属する団体の数に変化はない。今、60歳代は退職ではなく、趣味も多様化しており、活動に参加しない人も多く、参加者の高齢化が悩みという団体は多い。特にこの数年は新型コロナウイルス感染拡大もあり、次の世代に移行できていない状況も見られる。負担が代表に集中して、耐えられなくなっている状況もある。一方で、市民活動団体という枠組みではなく、個々のグループで活動している人も増えている。また、農家のお母さん方が農作物を作るだけではなく、販売にも関わるなど、多様化の中で変化している状況も見られる。若い人たちも活動しやすい土壌づくりや、もっと気軽に参加できるように情報を発信していくことが必要だと感じている。
- ・市民活動団体を対象としたアンケート調査によると、人材、費用、活動場所の課題は、ほとんどの団体が抱えている。
- ・ごみの有料化や分別方法の変更などもあり、10年前から、ごみを出さずにお譲りするという観点でフリーマーケットを始めた。最近はSDGsの普及もあり、リサイクルやごみに対する関心や意識が高くなっていると思う。最近は、インターネット上で売買することが増えているが、フリーマーケットならではの対面の良さがあり、開催に対する要望も多い。
- ・10年間で若い世代が地域に入り込めるようになってきたと思う。地域の中の一員として、コミュニティのつながりを求めている若者が増えているように思う。支え合わないと生きていけないという意識を若者と共有できるようになってきた。ただ、このような若者の意識の変化に対して、地域の受け皿がまだ十分ではないと思っている。若者が求めるつながり方と、地域が若者に求めるものとは違っていて、このミスマッチをどのように解消していくのかを考えながら活動している。
- ・10年前は、働いていない母親が多かったが、今は働いている母親が非常に多く、つながるのが大事だと思いながらも、つながることが難しくなっていると感じている。一方で、学生のボランティア活動が盛んになってきており、そのような活動に引っ張られて、大人も参加しやすくならないかと思っている。多世代交流サロンをしていると、世代に関わらず「誰かのために何かをしたい」という声は多い。



(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・どの分野も、若い人への投資が必要。若い人に何が必要か、どのようなまちに住みたいかを把握し、若い人に選ばれるまちになっていくことが必要。次の世代の人の意識は確実に変わってきている。意見をどのように言えばいいのか分からない若い人もいる。手間がかかっても聞きに行くことが必要。また、若い人たちが活動しやすいまちになることも必要。ふるさと納税でNPO等による地域活動等を支援している佐賀県のような取組があってもよいのではないかなと思う。
- ・札幌市などからの転入が多いが、このような状況が続くと良いと思う。また、子育て

ひろばのような活動への支援が増えて、市内の各地で地域に密着した子育ての取組が増えたら良いと思う。

- ・市内の交流人口をもっと増やしていくことが大事だと思う。まちに興味を持ってもらい、いろいろな人に活動の楽しさを伝えて参加してもらう。間口を広げて入口をたくさんつくれば、多くの人にまちへの興味を持ってもらうことができこそ、助け合いや協働のまちづくりの実現につながっていくのではないかなと思う。それらの活動が盛り上がったまちには、市外から人も来るし、定住や観光にもつながると思う。内側（市内）に「楽しい」を沢山つくる必要があると思う。
- ・子育て環境が整っているにもかかわらず、合計特殊出生率が低いことが課題だと思う。産むための環境づくりも充実させていくことが必要なのではないか。
- ・少子高齢化が進む中で、救急需要が高まっていくことが懸念される。地域の見守り制度をより一層整えていくことが大事だと思う。また、DX（デジタル・トランスメーション）に関する事業が進められているが、市内の4大学と連携して教育体制の充実につながるような取組が進められれば、全国的に江別市が注目されて、明るいニュースにつながるのではないかなと思う。
- ・大胆な発想だと思うが、取組を行いやすい都市の規模なので、いろいろな都市宣言をしてはどうか。「見守り都市宣言」「みどりの都市宣言」「子育てにやさしい都市宣言」など。まず、宣言をしてから、市民や企業などと連携して市を育てていくことにしてはどうか。
- ・自分の団体に関して言えば、副業を解禁している。働いているうちに、つながりを持ってもらうことが必要だと思う。一つの団体だけではなく、いろいろな団体に参加することを勧めている。
- ・地域の見守りについては、見守らなければならない方々に、地域に出てきてもらうことも大事だと思う。そのための場所づくりは苦勞するが、それを解決して進めていくことも必要だと思う。
- ・今は、元気な長寿の方が多い。これからも健康寿命を延ばしていくことは大事だと思う。
- ・多世代交流サロンをしている中で、自治会とつながっていくことが大事なのではないかと感じている。また、ただサロンを開いているだけではなく、何かとつなげられたら、高齢者などの参加者がもっと増えるのではないかなと思っており、今、模索しているところである。
- ・江別市には戸建てが多いが、隣人との交流が少ない方もいるのではないだろうか。日頃から近所とのつながりを持てるようにしていくことが、住みやすいまちづくりにつながっていくのではないかなと感じている。



7 江別SOGIの会

令和4年4月25日（月） 江別市民会館2階21号室
午後6時～午後8時

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、ないものがないところ。大体ものが揃っている。スーパーマーケット、病院もあり、住みやすい。札幌市のベッドタウンなので、JRを利用して少し移動すると、デパートにも行ける。土地の値段も札幌より安い。弱みは、札幌市に行けばあるのに江別にないものがあることで、例えばホームレス、引きこもりの支援団体など。いろいろな意味で札幌市に依存しているので、いざという時に頼れるところが身近にない。その結果、LGBT、高齢者への支援についても、知らないまま過ごしてしまう部分が非常に多くあるのではないかと。
- ・弱みは、自分が保育園を利用していた当時、保育料が他市に比べて高いと思ったこと。また、障がい者（児）の支援窓口が少ないこと。学習障がいの疑いがある子どものスクリーニングも札幌市に行くことになり、学習支援も、札幌市の事業所に通わなければならない、保護者の負担になる。LGBTの学習会も札幌市では積極的に行われているが、江別市ではない。まずは、児童生徒ではなく学校の先生を対象に学習会を行ってほしい。また、先生が知識を持っていたとしても、保護者が知識を持っていなければ、家庭で辛い思いをする子ども（当事者）がおり、保護者への普及も必要。強みは、学校選択制のほか、ジャージで通学できること。また、お菓子がおいしい。江別産の小麦は素晴らしいと思う。
- ・強みは、地域ごとの特徴がはっきり分かれているところがユニークだと思う。日本全体の人口が減っている中で地域のスポンジ化現象が起こってくる。独居世帯が増えており、町内会との連携が必要だと思う。空き店舗でカフェをオープンし地域の状況を把握しようとしている町内会もある。江別市も各地域で、自発的な活動によりコミュニティを持続できるように促していくことが必要だと思う。LGBTの面では、個室ではない男子トイレを使うことが苦手な子どもがいる。学校でも子どもが快適に過ごせるように、男子トイレであっても、家と同じくすべて個室にするのが良いのではないかと。強みは、札幌よりも空が広いこと。どこにでも緑があって、落ちついて過ごせる環境がある。面積的にもゆとりがあって過ごしやすい。交通アクセスは良いと思う。この状態を人口が減っても維持してほしい。
- ・強みは、子育て世帯にとって、子どもを育てやすい環境だと思う。一方、弱みとして、高齢者にやさしくないまちだと思う。個人的には、江別市は老後に住みたくないと思う。他の市と比べると、高齢者の権利擁護への意識が低いと感じる。危険が予測される方には施設入所を勧めているが、ひとりでも生活できる高齢者に対して、生活上困っていることをサポートする取組が少ない。今年の大雪の状況下での除雪など誰も頼れないという、独り暮らしの高齢者がいた。新型コロナウイルスの感染拡大もあり、民生委員が来ることも減り、施設入所を断ったら、それ以降誰も来なくなったということだった。独り暮らしの高齢者の権利擁護に力を入れてほしい。地域での見守り体制を強化することも大切だと思う。



- ・強みは、学問が優秀な学校、スポーツの成績が良い学校があるなど、若い世代が入ってくる環境が整っていること。若い人たちが市政に関わってくれば、若い感覚でいろいろなことに取り組んでくれるのではないだろうか。弱みは、高齢者にはやさしくないまちだと思う。高齢者が増えている一方、路線バスの乗車人数は減っている。バス交通が不便になっているのではないか。高齢者が車を運転せざるを得ない状況になっている。今年の大雪の時などは大変だったのではないだろうか。どう高齢者を助けるか、若い世代に参画してもらって、新たな取組ができれば良いのではないだろうか。
- ・弱みとしては、車が必須のまちであること。細長いまちなので、中心から遠い地区に住んでいる方は不便で、だんだん衰退して、バス路線も減ってきている。除雪の問題もある。除雪を競う大会をやっている自治体もある。イベントや情報共有などを通して、除雪について地域ぐるみで考えたり取り組んだりしていくことができれば良いと思う。強みは、江別産の小麦の質が良いこと。自分で麺を打ったことがあるが、他の地域の小麦を使った麺と比べておいしかった。本州でも、江別産の小麦を取り寄せて使っているパン屋さんがある。そのほか、大麻東中学校、自動車学校のあたりからの、札幌方面を見た景色がとてもきれいだと思う。写真を撮りに来る方もいる。

(2) 江別市パートナーシップ宣誓制度を機に変わったこと、今後、期待すること

- ・パートナーシップ宣誓制度により、一つのシンボルができた。一自治体ができる範囲は限られるが、今できることを制度として位置づけたことは、大きなことだと思う。



- ・まだ周知活動が足りないと思う。札幌市では地下鉄にポスターが貼ってあるなど、周知活動を積極的に行っている。子どもたちの目に止まるところに貼れば、当事者も未来予想図が描けると思う。江別市は誰にもやさしいまちだということが分かってもらえるような、市からのアプローチが必要だと思う。江別市が取り組むことで日本全体に広がっていくことにもつながる。

- ・パートナーシップ宣誓制度ができたことは、喜ばしいことだと思う。政令指定都市以外の自治体では、北海道内で第一番目で、政令指定都市よりも充実した内容の制度である。暮らしやすさを大いにアピールしている。江別にどうぞ、という気持ちも感じる。近年、パートナーシップ宣誓制度を取り入れている自治体が全国で増えており、現在国内人口のカバー率52%になった。江別市では、まだ宣伝が足りないと感じている。予算の都合もあると思うが、周知活動がもう少し必要なのではないだろうか。関東地方では、パートナーシップ宣誓制度の内容がより良い地区に引っ越す事例があると聞く。もしかすると、札幌市から、あるいは、パートナーシップ宣誓制度がない自治体から、江別市に引っ越してくるカップルも出てくるのではないか。そのためにも対外的に周知していくことが必要だと思う。公共施設や学校、駅などにパンフレットを置く、インターネットで発信するなど地道に努力していくべきだと思う。



- ・男女共同参画の取組の関係者でもパートナーシップ宣誓制度を知らない人がいる。制度ができたことで、今まで知らなかった、知ろうとしなかった世代も、調べてみよう、勉強してみようというきっかけになるのではないだろうか。若い世代は、当たり前に見たり耳にしたりしているので、割と容易に受け入れられる環境にあると思うが、そうではない世代も受け入れるきっかけになると思う。宣誓書をもらうことで、婚姻し

ている夫婦と同様の権利を市内で受けられるようになって、やっとパートナーとして、市民として参加できるのではないかな。

- ・パートナーシップ宣誓制度を要望してから、できるまで、足掛け4年かかった。もう少し早く創設されても良かったのではないかなという気持ちはあるが、できたことはまず良かった。江別市男女共同参画審議会でも、何度も制度の必要性を述べてきた。その結果、同審議会の意見を受けて、より良い内容になった。江別商工会議所でアンケート調査を実施した時、LGBTを知っているか、どう考えているかを聞いたことがある。パートナーシップ宣誓制度については聞いたことがない人がほとんどで、自由記載には、果たしてそれを制度化しなければいけないのかという意見もあった。今は市民への周知が進んで、そのような意見は少なくなっていると思う。
- ・江別市にパートナーシップ宣誓制度ができたことが大きな一歩だと思う。一歩前進できた。周りの自治体にも広がっていくと良いと思う。

(3) 今後、江別市が力を入れるべき分野について

- ・LGBTの理解普及という視点からは教育が重要。学校教育だけではなく、多世代への教育として大事で、マイノリティの存在が当たり前になっていくことがゴールだと思う。もう一つは協働。計画に示す際に、協働という項目一つに示すのが良いのか、全分野に横断して示すのが良いのかは悩ましい。
- ・LGBTも、高齢者も、さまざまな困りごとを知ることが大事。民生委員、保護司、子どもたちのホットラインを担っている人も、LGBTのことを知らない人がいる。実情を知って手を差し伸べることができる体制づくりが必要だと思う。
- ・高齢者が増える中においては、福祉が大事。高齢者が健康な状態で、住み慣れた地域でできるだけ長く暮らせることが、より良い人生を送ることにつながるのではないかなと思う。調子が悪くなっても、医療体制が整っていたり、地域の連携ができていれば、安心して住めると思う。また、LGBTやSDGsなど、カタカナが多いとなかなか頭に入ってこないという人もいると思うが、生涯学習などで普及してほしい。市民の積極的な行動力につながっていくと思う。
- ・全部の分野に共通して言えるのは、命を守ることが大事ということ。人の命を最優先にすることが重要。除排雪の遅れで救急車が通れないことはもちろん、障がい者、高齢者、LGBTの方が孤立していたら、命の危険につながる。災害時に避難所に行けないLGBTの方がいれば、それも命の危険にさらされることとなる。命を守ることが大事。
- ・札幌市を除く石狩管内や近隣の市町村で、江別市がイニシアチブをとってほしい。各自治体の考えもあると思うが、パートナーシップ宣誓制度で言えば、創設したのは札幌市の他には江別市だけなので、連携して広域でも通用するものにしていくなど。また、他の政策も、江別市が他市町村を引っ張っていく形になってほしい。
- ・周知という点からは、デジタル化が大事だと思う。そして、それぞれの分野の情報共有も必要。デジタル弱者もいるので、その部分も考えながら進めていくことが重要だと思う。



8 江別聴力障害者協会

令和4年4月27日（水） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後4時10分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、JR野幌駅が新しくなって、バスの乗り換えが以前よりもしやすくなったこと。また、大雪でバスの運行が中止された際には、乗り場に見やすく表示されており、以前よりも運行に関する情報が伝わりやすくなった。改善してほしいことは、除排雪。もっと力を入れてもらえたら、バスもスムーズに運行できるのではないだろうか。除排雪については、江別聴力障害者協会の他の人からも同様の声があった。



- ・自分は札幌市生まれで、長女が小学生の時に江別市に引っ越してきた。強みは、江別市は緑が多くて、広々としており、子育て環境が良いこと。引っ越してきた当時（25年前）、店は少なかったが、今は店が増えて、買い物が便利になった。弱みは、大雪のためバスが運休することや、それにともなって仕事が休みになったりすること。今年の4月にはバスの便数がさらに減ったので、雪の影響を受けない地下鉄があれば良いと思う。



- ・強みは、札幌市に近いこと。札幌市内に通勤していたので、便利だった。しかし、定年退職後、江別市のどこに何があるか分からず、証明写真が必要だった時も、江別市内のどこで撮影できるか分からなかった。結局、札幌市まで撮りに行った。このように、江別市内の店などの情報が分からず、困ることが多い。それから、バスの便数が少なくて困る。運転免許証を返納する方がこれから増えてくると思うが、返納後、今の状況だと困ると思う。
- ・雪の問題は自分も感じる。若い時は自分で除雪できたが、今は難しい。大雪の時には、車道と歩道の段差をなくして、平らにしてほしい。強みは、病院が近くて便利であること、札幌が近くて、いろいろな用事を済ませやすいところだと思う。
- ・強みとして、災害が少ないところが良いと思う。断水や停電の経験はあるが、比較的大きな災害にはこれまで遭っていない。ただし、災害が起こった時に避難するところが足りないのではないかと心配である。
- ・四つの大学があることは強み。手話講習会にも大学生が参加してくれている。札幌市から転入してきたが、江別市はほどよく田舎で、ほどよく都会だと思う。子どもを育てやすい環境だと思う。一方、卒業後、大学生が江別市外に転出し、定住しないことは弱みだと思う。また、札幌市と比較されることが多く、例えば、障がい者への各種助成は札幌市に比べると手厚いとは言い難い。そのほか、雪が多く、独居や障がい者の方の命に関わることににつながることも心配される。
- ・交通費の助成について、タクシーチケットとガソリンチケットの二つの交付方法があるが、ガソリンチケットの助成額がタクシーチケットに比べると安いと感じる。同じ

ようにしてほしい。

(2) 江別市手話言語条例制定後の状況について

- ・江別市役所でも、手話ができる（覚えようとしている）職員が増えており、うれしい。自分の意識の変化としては、条例制定後、仲間同士や手話サークルなどで、積極的に手話を行うようになった。これまでは、健聴者に対して、自分から積極的に手話を用いることは少なかったが、例えば、お店のレジで店員さんに、あるいはバスやタクシーの運転手さんに「ありがとう」を手話で伝えている。



- ・江別市手話言語条例制定後、新型コロナウイルスが感染拡大してしまい、小学校や大学からの出前講座の依頼が減るなど、人に教えるために集まる機会が減っていることが残念。これからに期待したいと思う。そのほか、最近、テレビを観ていると、会見時などに手話通訳が同時に行われていることが多くなったと感じている。手話への関心がもっと高まると良いと思っている。江別市でも、会見時などに手話通訳を行ってほしい。

- ・（手話に関する基本条例を全国の町村として初めて施行した）新得町では、手話を広めようと（右のような）ポスターを作っている。このような、ちょっとした手話の仕方を表したものを、目に留まるところに貼ってほしい。
- ・新型コロナウイルスが感染拡大したことの影響は大きいと思うが、条例の普及がまだまだだと感じている。今後は、障がいの有無に関わらず、市民の皆さんに、江別市手話言語条例をより一層普及させるとともに、手話を学ぶことができる講習会や活動が広がれば良いと思っている。手話普及のためのポスターを、学校や病院、店などに貼ってもらう活動ができればと思っている。
- ・小学校だけではなく、校長会などでも手話に関する基本条例や手話を普及することができたら、児童・生徒にも伝わるのではないだろうか。



- ・江別市役所に入庁した時には、すでに江別市手話言語条例が制定されていたので変化は分からないが、入庁前は条例を知らなかった。江別市では、手話に関する職員研修が行われているほか、昨年からは毎月一つ、（左のような）市民向け手話教室動画を公開している。応用編の動画作成も検討している。もっと周知していかなければならないと思っている。（市職員）

- ・江別市手話言語条例を普及させるためにも、手話に関する相談窓口や、関係団体や関係課、障がい者支援に関する知識を持った人が集まって、話し合えるような場があれば良いと思う。
- ・本条例を制定する際に、障がい者と江別市職員が実際に話し合う場が生まれたことで、障がい者を取り巻く現状への共通理解ができたと思う。手話のできる人がもっと必要なことも分かったと思う。小学校で、子どもたちに手話を教えているが、本当は、子どもたちから家族の皆さんにも伝えてほしいと思っているものの、子どもたちで止ま

っているのではないかと感じている。例えば、朝、学校の先生が手話で挨拶するなど、もっと手話が広まるようになってほしいと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・札幌市に近いという強みを生かすために、地下鉄を整備すれば、人口が増えるのではないだろうか。そのほか、医療費の支援拡大、また、独りで家に住んでいる聴力障がい者も多いので、みんなで集まって話ができる場所があれば良いと思う。
- ・手話をできるスタッフがいるような、聴力障がい者用の入所施設もつくってほしい。江別市外にある、そのような施設は、満室で入所することができない。
- ・緊急通報装置は通話が必要なので、協力者が必要となるため、他の市町村でも聴力障がい者がひとりで利用できないことが問題になっているようだ。電子メールで119番通報を受け付ける「メール119番通報システム」もあるが、障がいの有無に関わらず、スマートフォンを使うことが苦手な人もいる。
- ・江別聴力障害者協会の他の人から、福祉バスを復活させてほしい、市民への広報については、できるだけFAX番号を入れてほしい、江別市立病院に手話通訳者が常駐するようにしてほしいという声があった。
- ・人口減少を抑制するには、卒業した大学生の就職先が江別市内にあったら良いのではないかなと思う。
- ・人口が減少する中でも、障がい者は増えている。そのような中、障がい者の雇用促進、アクティブシニアの活動促進、農福連携の推進などを進めていくべきだと思う。
- ・災害が発生した時には、手話通訳をできる人は限られているので、聴力障がい者が避難する場所を、一つにまとめて設置してもらえたら良いと思う。ただ、そのような緊急時は手話通訳者にも家族がいるので、手話通訳者に支援してもらうことは難しいとも思っている。手話通訳者への配慮が必要だと思う。
- ・手話通訳者の方は非常勤の市職員だが、待遇を良くしてほしい。正職員として雇用されることが望ましいと思う。正職員の手話通訳者は、全国でも少しずつ増えているようである。



9 江別空色クラブ

令和4年4月28日（木） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後3時40分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、札幌市に近くて、札幌市までの交通アクセスが良いこと。また、江別市内に大学が多くあること。大学生にやさしいまちになってほしい。大学生が住んでいる地域に大きなスーパーマーケットをつくってほしい。弱みは、除雪。



- ・強みは、札幌市に近いこと。
ただ、札幌市に近いことは、同時に弱みでもあると思う。例えば、大学生は札幌市に近いので、新札幌で買い物をよくしている。そのような大学生をどう江別市にとどめる（市内で買い物をしてもらう）のかも、今後の課題になってくると思う。他の強みとしては、人口の割には重犯罪が少ないこと。新聞配達で早朝に住宅街をまわることが多いが、治安が良いので全然怖くない。それから、札幌市に比べると物価が安いと思う。大麻地区や野幌地区には、量販店もある。
- ・強みは、犯罪が少なく、優しい人が多いこと。大麻地区は高齢者の方が多くて、助け合いがあり、特に優しさを感じる。



- ・強みは、都心への交通アクセスが良いこと。江別市内には高速道路のインターチェンジがあり、快速が停まるJR駅もある。新千歳空港にも近い。野幌地区にあるイオンの近くに住んでいた時は、店も近く、いろいろなものがあり、住みやすいと思った。コルクえべつもオープンし、高齢者と交流できる所もできた。弱みは、有名なイベントや店など目玉となる名物が少ないこと。江別蔦屋書店やEBRIがオープンしたが、インパクトに欠けていると思う。それから、子どもを産むことができる病院が江別市内に1か所しかないこと。子どもを産める病院が増えたら、子育て世帯がもっと江別市に転入してくるのではないかな。

（2）身近な生活で不便に思うこと

- ・精神障害者保健福祉手帳1級を持っている人はタクシーチケットをもらえるが、2級の人にはもらえない。病院に通っていても、自分は2級なのでもらえないため、2級も対象にしてほしい。
- ・個人的には、江別市は生活の利便性が良く、自分の住んでいる地域の除雪状況も悪いとは思っていないが、他の障がい種別に比べて、精神障がい者は冷遇されていると思う。例えば、バスに乗る際に、身体障がい者は100円で済むところを、精神障がい者は200円かかるのは、差別ではないだろうか。タクシーチケットについても、せめて2級まで拡大してほしい。石狩管内で交通費の助成が全くないのは、江別市のみ。交通が不便な地域に住んでいる人への支援を考えてほしい。

- ・江別市の特産品はいっぱいあるが、目にする機会はあまりない。北海道内には、道の駅がたくさんあるが、江別市でも設置を検討してほしい。それから、江別市の庁舎がかなり古い。市民が利用する場でもあるので、建替えも検討してはどうか。建て替えれば、江別市のPRにもなるのではないかな。
- ・通院や買い物が困難な人たちの支援を考えてほしい。交通費の助成のほかに、コミュニティバスを運行しているところもある。
- ・身体障がい者用のトイレが一つしかない時に困ることがあるという声を聞いた。江別市の庁舎を建て替える際には、このような声があることを踏まえて検討してほしい。



(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・子どもを連れた若い家族が札幌市から移住してきているケースが多い。大麻中町では、古い家が新しい家に建て替えられている状況が多く見られる。他の地域でも多いようだ。原っぱだったところが、住宅地になっているところもある。そのような中、子育て支援は重要だと思う。医療費助成の拡充など。中学生まで医療費が無料の自治体もある。子育て世帯が転入しやすいまちづくりが必要。若い世代が江別市に転入してくると、江別市もより一層活気が出ると思う。全国的に大学生の数が年々減っていく中で、大学生を当てにする政策は難しいのではないだろうか。
- ・一戸建てが増えているので、子育てに税金を使ってほしい。高齢者にもデマンド型乗合タクシーなどを検討してほしい。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により、江別市の地域産業は打撃を受けていると思う。地域経済を持ち直させることが、まず必要だと思う。その次に、今住んでいる方に、これからも江別市に住み続けてもらうことが重要だと思う。そのためには、子育てや福祉を充実させることが必要だと思う。また、除雪やインフラなど、多くの人が関わる分野を充実させて、市外に情報発信をしていくことや、江別市の住み良さを、江別市外に住む、移住を考えている世代に情報発信をしていくことが必要だと思う。
- ・江別市は、学園都市、札幌市のベッドタウンというイメージを持たれているが、これらのイメージからの脱却が必要ではないだろうか。
- ・江別市には産業がたくさんあるが、有名なものが少ない。農業も盛んであるが、小麦以外の特産品があまり知られていない。江別産の農作物やその加工品などのPRが必要ではないだろうか。そのためにも道の駅が必要だと思う。企業誘致はだいぶん進んでいるのではないかな。



10 市内企業の経営者の皆さん

令和4年5月16日（月） 江別市民会館2階23号室
午後2時～午後4時10分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

・一軒家の建設ラッシュが見られる。その多くは江別市外から引っ越してきているのではないだろうか。他の自治体が定住策を行っている中で、江別市は恵まれている。近隣の他市と比較しても札幌市に近い。江別市を定住場所として選んでいる中、住んで良かったと思っただけではない。弱みは、移って来た人に、住んで良かったと十分に思ってもらえていないこと。江別市の住環境が恵まれていることに、あまり気付いていないのではないだろうか。



東西にまちが広がっている中で公共交通機関のアクセスが悪くなっていることも弱み。車を使うことが前提のところに家が建っている。駅前に駐車場の整備が進んでいるが、駅まで自家用車で通勤・通学することを前提に駅周辺を整備すれば、不便さも多少解消されるのではないかと思います。

・市内に四つの大学があるが、卒業後、市内に就職するケースが少ないのではないだろうか。経営者としても、自分の

事業所で受け入れられないことが心苦しい。強みは、子育て環境が良く、都会も近くて自然もあるところ。弱みは、雪。バスの運行が止まってしまうのは改善が必要ではないかと思う。除雪を支えている事業者も減っているため、事業者を育てることも大事ではないだろうか。建設や設備に携わる人も減っている。技術職は一度減ると増やしづらく、自然災害時に市内で対応できるようにしておくためにも必要だと思う。また、最近、市内の地価が上がってきている。土地が安いというメリットが弱くなり、近隣の他市に行こうか、という流れが出てきているのではないだろうか。



・強みは、自然がすぐそばにあること。江別大橋から岩見沢市に行く道が好きで、四季折々、季節を感じることができる。弱みは、JR江別駅周辺が寂しいこと。JR江別駅は、川も近くて観光でPRできる要素はある。えべつ観光協会のゆる認定キャラクター「えべチュン（右上のイラスト）」をもう少し推しても良いのではないだろうか。江別河川防災ステーションの敷地内からは鉄道が良く見えるので、撮り鉄の方々にアピールすることも考えられないだろうか。



温泉めぐりも広域で考えれば可能である。いろいろと潜在能力が出し切れていないと思う。また、子育て世代にやさしいまちであることに加えて、障がい者への対応等が更に良くなれば、多様性の観点から、魅力を高めることができるのではないかと思います。

- ・最近まで、製紙会社特有の臭いが気になっていた。風向きによっては、白く煙がかかることもあった。しかし、最近改善されたことで、土地の取得を考える市外の方が増えていると聞いている。臭いの問題が改善されたことは、移住を勧めるPR要素になると思う。また、住んでみて江別市域に奥行きがあることを知った。この奥行きをもっと生かせるような交通網がもう少し整備されると良いと思う。
- ・アンケート調査結果を見ると、回答者の約8割は江別市外からの転入者であった。これだけ市外から来てもらっているにも関わらず、定住する可能性が高くないのではないだろうか。江別市に合った人に定住してもらえるようなまちづくりが必要で、そのためには、今の暮らしがいかに魅力的であるかを伝えることが大事だと思う。江別市の周辺自治体から人を取り合うのではなく、全国から呼び込むことが大事ではないだろうか。災害が少ない利点を生かし、災害が発生した地域から江別市に来てもらうことも考えられる。反対に、江別市で災害が発生したら助けてもらうなど、お互い助け合う自治体の連携も大事だと思う。土地の価格だけでなく、江別市が好きだという人に移ってきてもらうことが重要ではないだろうか。
- ・車でも公共交通機関でも通いやすいことが強みなのだと思う。自社は、お客様も江別市の次に空知管内の方が多い。札幌市に目を向けがちだが、空知管内の方にも宣伝や移住のPRを行ってはどうか。また、江別市内の小中学校の学力テストの成績が良いと聞いている。岩見沢市では、高校を再編成するなど、高校に力を入れる動きがあると聞いているが、江別市内には大学もあるので、江別市になるべくとどまってもらうために、江別市でも、それぞれの高校の特長を生かした取組に重きを置いてみてはどうか。



(2) 近年の人手不足について

- ・求人募集をすると、最近は江別市内だけでなく、札幌市のほか、当別町や岩見沢市、南幌町からも採用面接に来ていただいている。
- ・土日でも仕事があり、早朝からの作業が必要なので、人員の頭数が必要な状況である。江別市内から通勤している従業員は8割ぐらいである。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大と大雪があったことで、札幌市から通っていた従業員が退職し、札幌市に通っていた江別在住者が新たに入社した。市外の方に対しても、どういう会社なのかを伝えられる機会を増やすべきだと思った。



- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、外国人実習生が戻って来ることができないことで人手不足に苦勞していたが、自動化の整備を進めたことで省力化が図られた。この春から徐々に外国人実習生も戻って来ている。
- ・求人募集をしても応募がないという相談を受ける。若い人は給料の額よりも休みなどを重視する傾向にある。働き方の価値観が転換している時期ではないだろうか。積極的に情報を発信し、マッチングしていくことが大事だと思う。
- ・社内の人材の循環が停滞気味で高齢化が進んでいる。若い世代と昔からの世代で働き方の考えが違っていると感じている。
- ・欠員が出たら補充するという状況であるが、道央圏にいろいろな業種が集中してきて

おり、働き手の奪い合いになっている。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・人口減少により成熟社会になってきており、札幌市や東京都と同じものを求める人は江別市には来ないと思う。実利を取り、品のある落ち着いたまちになってほしい。多少雪が多めでも、頑張って除雪するからという世帯に入って来てもらう。そのような世帯が高齢化したら、その都度考える。空いたらまた人が入って来る、循環するまちにしてはどうだろうか。観光については、他のまちで満たされなかったものを満たしてもらうことを考えていけば、江別市にも観光の要素があると思う。
- ・人口減少が進むと札幌市周辺に人が集まる。食を考えると江別市は意外と食べるところが少ない。あそこに食べに行きたいね、というところが市内に増えると良い。EBRI（エブリ）があるが、JR駅から遠い。インターチェンジの周辺には魅力的な観光スポットがなく、もったいないと思う。
- ・江別市には自然があり、野菜も育てられる。食品関連会社に勤める親戚が道外にいますが、将来はもっと広い場所で野菜を育てて、店も開きたいと言うので、江別市を勧めている。住みやすいところで、ゆっくりと生活を送りたいという人は全国にいたので、そのような人たちに江別市を紹介できると良いのではないだろうか。
- ・JR江別駅周辺が寂しい。そのままの状態が続いており、過去の遺産になりつつある。市がお金をかけるものではないと思うが、市の名前がついている駅であり、もったいない。
- ・JR江別駅の駅舎は、昔ながらの造りで、鉄道マニアとしては魅力があるそう。
- ・地域や鉄道を紹介する、影響力のあるユーチューバーもいる。観光については、そのようなユーチューバーとコラボしてPRするのも良いのではないだろうか。
- ・農村の風景を大事にしてほしい。廃屋になった農家などもあり、風景が崩れてきているところもある。観光が体験型に移行している中で、空き家対策などを進めるためにも農村の景観保全に力を入れてほしい。田んぼも人手がないと荒れてしまうので、まちの人が休日に耕しに来るようになると良いのではないだろうか。乱開発で景観的に美しくないところも増えているが、きれいな市民農園を増やすなどしてはどうだろうか。観光や交流から定住につながることもあると思う。



- ・今は人口増・社会増という成果が出ているが、どこかで限界が来る。江別市自体の魅力を高めていくために、総合的に力を入れて、全体的に魅力を高めていくことが大事ではないだろうか。その中で、観光などまだまだ足りない分野を底上げし、えべつ観光協会などが情報発信等で支援していく。いろいろな媒体を使いながら発信力を高め、多くの人の目に触れるようにしていくことが必要。これをやればすべ

て解決する、ということはない。その中で、農業と観光に力を入れていくことが重要ではないだろうか。農業生産者はいろいろな活動をされているが、商工会議所の会員企業などの企業とのつながりがまだあまりないと思う。農業団体と経済団体との結びつきがもっと深まれば良いと思う。

11 市内企業に勤務する若手社員の皆さん

令和4年5月18日（水） 江別市民会館2階23号室
午後2時～午後4時20分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、JRも道路も、札幌市への交通アクセスが良く、子育て環境が整っているところ。保育園も増加しており、産後ケア事業も行われているので、子育て世代が転入してくるのではないかと。弱みは、他の自治体と比べて特色がないこと。札幌市の隣ではあるが、札幌市ありきの部分もある。有名な観光スポットもなく、道の駅もない。JR野幌駅周辺は買物に便利だが、江別地区だと車がないと不便である。



・強みは、江別産、江別ブランドの商品が増えていること。自分が勤めているイオン江別店でも、江別市と連携して、食べ物で江別市を推すことができるようになった。最近、酪農学園大学とコラボして、食肉や牛乳、江別産の豆腐、デザートなどを販売している。弱みは、ワンストップ型の都市ではないこと。札幌方面から国道12号で江別市に入ってきた時に、江別市内で止まって何かをすることは少ない。他の市町村では魅力的な道の駅などがあるが、そのようなものと比較すると、江別市に立ち寄る魅力は少

し乏しいのではないだろうか。イオン江別店にはシネコン（複数の映画を同時に上映できる映画館）があり、江別市外からも多くの客が来ている。企業と連携して市外から来る人に、江別市の魅力をもっと知ってもらえるのではないかと。

- ・トンデンファームでも家族全員で楽しめる場づくりに努めている。子どもの頃に遊んだ思い出は残るようで、20年ぶりに来ましたというお客さんもいる。子どもの頃に江別市で体験した良い印象や思い出がきっかけで、再び江別市に戻って来るようになると良いと思う。
- ・強みを子どもの頃から振り返ると、子どもの頃は、江別市は公園がたくさんあって良かったことを覚えている。学生の際は、野幌地区に何でも揃っていて、学校に通いやすく、不便は感じなかった。今は、札幌市よりも土地が安いことと、ちょうど良い人の混み具合であることが強みと感じる。
- ・転入で再び江別市に戻って来た時、二人の子どもを年度の途中で同じ保育園に通わせることができず、送迎が難しかった。道外では、違う保育園でも1か所に集まれば市がバスで送迎してくれる自治体があった。また、保育士の待遇に力を入れている自治体もある。江別市も、建物だけでなく、人員体制をより充実させると、子育て世代がもっと入って来やすくなるのではないだろうか。観光面では札幌市のついでに来るといった傾向があるので、江別市ならではの観光の魅力をもっと



高まると良いと思う。

- ・子どもの転入が多いということは、子育てがしやすい、住みやすいまちとして支持されているからだと思う。弱みは、アンケート調査結果にも表れているが、観光やイベント、市街地のにぎわいなどの満足度が低くなっているところ。多くの大学生が卒業後に転出している状況だが、市内企業の魅力を伝えることにもっと力を入れたら良いのではないだろうか。
- ・強みは、立地の良さ。市内のＪＲ各駅から２０～３０分でＪＲ札幌駅に行くことができる。また、札幌市に比べて土地が安い。食も、トンデンプアムをはじめ、小麦など、いろいろな美味しいものがたくさんある。弱みは、江別市に立ち寄ることが少ないこと。毎朝ＪＲで札幌市内から江別市に通っているが、札幌から江別方面より、江別から札幌方面の方が、人が多い。江別市に住んでいても、昼の食事、土日の買物など札幌市内にお金を使うことが多いのではないだろうか。江別市内には大きな公園はあるが、大きな遊具のある公園は少ないと思う。
- ・強みは、札幌市の隣であること。札幌市内にある、大きな店や病院に行きやすい。ただ札幌市に近いことは弱みでもあり、大麻地区だと、買物などは、野幌地区ではなく札幌市に行ってしまう。小児科も、札幌市内の小児科のほうが予約システムが便利なので札幌市内に行くことが多い。江別市内は緑が多く、公園もたくさんあるが、小さな子どもが安全に遊べる遊具は少ない。小学生向けだけではなく、小さな子どもも遊べる遊具を増やしてほしい。



(2) 将来にわたって、江別市に暮らしてもらうためには



- ・子育て世代にずっと住んでもらうための取組が必要。５０～６０歳代になると、高齢者にとって住みやすいまちかどうかを考えるようになる。ＪＲ野幌駅周辺は店があるが、その他の地区は自家用車がないと便利とは言い難い。ＪＲ野幌駅周辺から離れた地域からＪＲ野幌駅周辺に直行するバスがあれば便利になるのではないだろうか。介護施設も、空きがあるのは入居費用が高いところ。低価格のところは順番待ちであると聞いている。費用が高くない介護施設を増やすことも、子どもが独立した時に、高齢者へのケアもあるので江別市に住み続けようと思われるのではないだろうか。
- ・江別市で生まれて、江別市以外の複数の自治体で生活していたが、江別市に戻って家を購入した。江別市に魅力を感じるのは、子どもが安心して住むことができると思ったこと。子どもが大きくなって一度離れても、江別市に戻ってきてくれるのではないかと考えている。子どもたちに比較的やさしいまちだと思う。いろいろな用事を近辺で足せて、札幌市にも近い。アンケート調査結果も、高齢者や子どもにやさしくて、災害や犯罪も少ないことが評価されている。唯一、不満なのは除雪。今年の大雪は印象強く残っている。自分が働いている店は、大雪の間、客は来なかったが、従業員も出勤できなかった。子どもの通学が心配であった。災害に強いまちなのかと、今年は思ってしまった。一度転出して江別市に戻ってきたが、とても良いまちだと思うので、もっと江別市の魅力を市外に発信したら良いと思う。
- ・家を買う時、周辺自治体を調べると、家の購入時に補助制度を設けているところがあった。市内には働き口となる大きな企業が多くはないが、企業誘致の補助などをして

はどうだろうか。あと、家を建てる環境としては満足だが、買物の環境がもう少し良くなればと思う。また、市内の企業がインターンシップを行うなど市内の大学生が卒業する前に江別市の魅力をもっと伝えてはどうだろうか。

- ・大学生に市内で就業してもらうことが大事ではないだろうか。市内に勤め先があれば市内に住んでもらえる。企業説明会など江別市内にある仕事を知る機会を作るべきだと思う。また、高齢者が住み続けられるまちにするには、タクシーやバスの情報が伝わるようにすることが大事だと思う。飛行機の予約も、インターネットから予約ができない高齢者は多い。高齢者が簡単に市の情報を手に入れることができる環境が必要だと思う。情報を伝えるには回覧板などのデジタルではない伝達方法を充実させることや自治会活動を活性化させること。そうなれば、高齢者も住みやすくなるのではないだろうか。
- ・大学生が就職できる企業が江別市内に少ないと思う。せっかく江別市にきた大学生に、卒業後も住んでもらうのが理想的。市内の大学がすべて札幌市方面に位置しているので、江別市の魅力に触れる機会が少ないのではないだろうか。入学後、早めの時期に、食や市内の企業を含め、江別市の魅力に触れられる機会を増やすことが大事だと思う。
- ・高齢者の意見として、運転免許を返納した後、買物や通院の際にバスを利用しようとしても不便で、タクシーを利用したいが料金が高いので困っているという声を聞く。高齢者がタクシーを利用しやすいように費用面での補助があればよいのではないかとと思う。ココルクえべつに入居している人が、最初は循環バスが運行していたが、今は希望に応じた送迎になったと話していた。循環バスは利用者が少なくコストもかかると思うので、シャトルバスやデマンド型タクシーなどが今後必要になるのではないだろうか。



(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・江別市内の働き口の確保が最優先だと思う。働きたい人が全員働くことができることがベスト。子育て世代も共働き希望の場合、江別市内で働けるところが増えれば、経済的にも余裕ができて、出生率も高まるのではないかと。また、最近ではテレワークが普及している中、テレワークの環境を市が提供することも良いのではないだろうか。デジタル化の推進により、多様な働き方の拡充も必要だと思う。
- ・人口が減少すると、比例して労働人口も減る。自分の周りでは江別市に残っている同年代の友人が多い。理由を考えた時、小学校の時に江別市内を社会見学したことが印象に残っており、子どもの頃から江別市の魅力について学んでいたことを改めて思い出した。子どもの頃から江別市の魅力を伝え、子どもが江別市の空気に触れることは大事だと痛感している。また、江別市の文化財の補修や活動支援を行っている企業もある。民間と行政が協力し合って、江別市を魅力ある都市にしていくことが大事だと思う。
- ・就職するまで、世の中にどのような仕事があるか知らなかったが、大学のゼミの先生から現在の就職先の分野を教えてもらった。自分の興味のある分野の研修には参加していたが、他の分野を知ることがあまりなかった。大学生に、在学中に市内の企業で働いてもらったり、知ってもらったりすること



で、卒業後に就職を考える際の選択肢が広がるのではないだろうか。

- ・まず、大学生への取組を増やすこと。二つ目は、アンケート結果で、観光、イベント、にぎわいの満足度が低いことが残念なので、野幌中央緑地でファーマーズマーケットを開催するなど、市民に江別市の魅力が簡単に伝わるイベントなどを行ってはどうか。札幌近郊の日帰りバスツアーに、江別蔦屋書店が入っているが、E B R I（エブリ）には地元産の商品や飲食店があるのに入っていないことが残念だと思う。アピール不足ではないか。
- ・札幌市から江別市に転入してもらうことは速効性があると思うが、札幌市内では江別市の情報があまり入って来ないので江別市を知る機会が少ない。家建てる際に、何らかの補助がある自治体もあり、そのような情報が入ってくれば、その自治体に目を向けるきっかけになるのではないだろうか。そのほか、大規模な宅地造成を続けることができれば、もっと多くの人に移り住んでくるのではないだろうか。
- ・子育てと医療が大事だと思う。子育てをしていると、医療費がかかる。中学生まで医療費が無料にならないだろうか。保育料も、働けば働くほど高くなる。また、病児保育や学童保育が少ないと感じている。せっかく子育て世代が入って来ているので、もう少し病児保育や学童保育を充実させたら、さらに多くの子育て世帯が転入してくるかもしれないし、江別市に長く住んでくれるかもしれない。不妊治療費の助成も、周りで不妊治療の話題が増えているので、国の医療保険の対象にならなかった部分を市独自で支援するなどの制度があれば良いと思う。



12 江別市女性団体協議会

令和4年5月20日（金） 江別市民会館2階21号室
午前10時～午後0時

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、柔軟性があること。弱みは、ちょっとつかみどころがないところ。子育てがしやすい、遊び場が充実しているなど、いろいろな良さがあるが、魅力が分散されている。高速道路のインターチェンジが東西にあるので、インターチェンジの近くに魅力をまとめて発信できる場があれば良いのではないかと思います。



- ・交通手段が少ないことが弱み。今後、自動車を運転できなくなると心配である。江別蔦屋書店の近くで停車するバス路線もない。大きな車両のバスが運行しているが、小さなバスにすれば経費を抑えられるのではないだろうか。巡回型でこまめに回るバスが運行されると良いと思う。また、江別市は特徴が乏しいと思う。国道12号、国道275号が通っているので、広い土地を生かして人を呼ぶものをつくってはどうか。大人も子どもも遊べる、アドベンチャー的な遊び場など。角山にある、アースドリームのようなものが、もう少し江別市の中心部にあると良いと思った。強みは、江別蔦屋書店があること。若い人に人気だが、年配者も刺激を受ける場である。河川防災ステーションにあるエベツ百貨店も、江別市内で生産された商品が安く販売されていて良いと思う。
- ・江別生まれ、江別育ちなので、江別市外の方から良さを言われて再認識することがある。自然も含めて、普通の生活ができる環境が実は財産だと知った。緑の多さ、川もあり、視界を遮るものがない景色、子どもたちが元気に過ごせる公園の整備も進んでいる。ただ、公園のトイレや水道は、整備が十分ではないと思う。また、美味しいもの、素敵なお店や魅力をアピールする力が弱いと思っている。



- ・江別市で生まれて、その後しばらく江別市外で生活した後、戻ってきたら、とても発展していてびっくりした。これという特色は乏しいと感じているが、江別市は大好きで、どこかに行くにも、住むにもとても良い環境だと思っている。他の市町村に住んでいる方からも「江別市は良いね」と言われることがある。何が良いのか聞いてみると、行政や福祉、生活環境などが良いと言われる。自分で住んでいるとなかなか気づかない。弱みは、大学生が卒業した後、江別市外に出ていってしまうことが、残念だと思っている。
- ・江別市に引っ越して来る前から、江別市は大中小のお店がたくさんあって良いと聞いていた。女性団体協議会で江別市内の様々な施設を見学させてもらい、いろいろな良い所があることを知った。一方、弱みではないが、今後IT化が進むと、自分はIT分野に弱いので、地域包括支援センターなど、人の声で対応してもらえる場所を残し

てほしいと思っている。10年後どのような時代になるのか。ひとりも取り残されないようになってほしい。

- ・札幌市の方に、「江別市の子どもはゆったりとしているね」と言われたことがある。自然の中で育っているからかもしれない。子どもたちに会うと、「おはよう」と挨拶し合えるところも強みだと思う。孫を連れて公園に行くことがあるが、いろいろな公園があるので、今日はこの公園、次はあの公園といろいろ行くことができる。ただ、今は自家用車で行くことができるが、自家用車がないと連れていくことができなくなる。ご高齢の方からも、バス路線が減ったので、バスでちょっと行って出かけられるところが少なくなったという声を聞く。行けずに我慢しているという人もいた。バス路線のあり方を、何年かおきに見直してほしい。「ふれあいの滝」がある江別駅前公園（三角公園）は立派で、ライトアップもきれいだが、人がいるのをあまり見たことがない。車がないと行くことが難しいからだと思う。市内の立ち寄りスポットをぐるりと回るバスを定期的に運行してはどうだろうか。



- ・強みは道路や鉄道の交通アクセスが良く、札幌市も近いところ。高速道路のインターチェンジも二つあり、多くの車が通る。一方、市内の公共交通手段が十分ではないと思う。その他の強みとしては、札幌市という大都市が隣にありながら、自然環境が良いこと。イオンタウン江別に江別市子育てひろば「ぽこ あ ぽこ」ができ、市外からも遊びに来る人も多いなど、子育て環境も整ってきている。弱みは札幌市に働きに行ってしまうこと。江別市内に企業が増えず、その結果、江別市の税収が増えない状況にある。
- ・地域包括支援センターの数が少ない割には、支援が徹底していると思う。こまめに活動をされており、伺うと、すぐに対応をしてくれる。雇用の部分は、来年、納豆の製造工場が江別市内に建設されると聞いている。企業誘致も取り組んでいると思う。そのほか、森林公園、四季のみちのほか、イチョウ並木や桜並木、ナナカマドなどの樹木がきれいな景色もたくさんある。江別市の良さをもっとアピールしてほしい。

（２）１０年前と現在の、団体の意識と市民の意識の変化について

- ・女性団体協議会が何とか良い方向へ向かうように役員をはじめ、みんなで活動しており、市民にも認知されつつあるように思う。



- ・自治会の女性部になった方が、女性団体協議会に入ってくる人が多い。自治会女性部の任期とともに２年間で女性団体協議会の活動を終える人もいるが、そのまま活動している人もいる。子育ての時期は子どもを通じて人とのつながりがあったが、今は他の自治会の取組も知ることができ、女性団体協議会の活動に生かすことができる。そのような中、自分の意識も変わってきたと思う。自分の自治会の中でどうやって若い人とつながって自治会活動をしていくかが課題である。
- ・ボランティア活動に参加することで、自分の意識が成長できる場であることを自覚している。教育では受けられない学びもある。家族や孫もいる中で、活動に時間を割くことに迷いもあったが、ボランティア活動は自分の趣味であると思えるようになった。

女性団体協議会も、「マンネリ化」が懸念された時期もあったが、みんなからいろいろな提案があり、今は活発に活動している。役員の担い手については、自治会役員に輪番制で参加してもらうようにしたところ、1年で辞める方もいる一方で、そのまま参加する人もおり、参加者の増加や参加意識の変化にもつながったことが良かったと思う。



- ・ 仕事と活動の両立だが、みんなが支えてくれる。知恵を出し合いながら取り組み、取組が成功すると喜び合っている。地道な活動だが、続けることで女性団体協議会も70周年を迎えている。
- ・ 人に迷惑をかけないで静かに過ごそうと思っていたが、自治会役員の輪番制で女性団体協議会に参加して（行動が）180度変わった。参加した当初は内向きな性格のため、積極的には参加できないと思うこともあったが、周りの方に背中を押されて、引っ張ってもらって一緒に行動できるようになった。有難いと思っている。
- ・ 10年前は仲間たちと集うことが楽しく、地域のことを考えたり、ボランティアをする意識はなかった。今は、年代や考え方が違う人と交流することができ、知らないことがあったと知らされて、自らの成長を感じている。一方、近所に住宅が増えたが、自治会に入らない世帯も多く、自治会を退会した世帯もある。加入を勧めると、役員をやりたくないのだと嫌だと言われる。今はいろいろなことに挑戦でき、活動をしていて楽しいので、やってみたら楽しいことを、もっと多くの人に知ってほしいと思う。
- ・ 活動の担い手が不足する中で、個々の意識が変わったことで、団体の意識が変わっていると思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・ 出産できる産婦人科が少なくなった。今は市立病院のみ。出産できる産婦人科が他になくなったことが、若い母親にとっては不安だと思う。何かあった時に市外の病院まで行くことは、大変だと思う。
- ・ 学ぶことが好きなので、生涯学習など、江別市の良いところや、いろいろな施設を知らせるリレー講座などがあれば良いと思う。今もそうだが、目の前の人と安心して接していける、住んでいる人が心のやさしい、穏やかなまちになると良いと思う。
- ・ 人を集めるには、ひきつける力が必要。道の駅など、江別市に行ったら楽しめる、もう一度行きたいというところがあれば良いのではないだろうか。町村牧場や菊水の工場もある。「えべちゅんランド」もつくってほしい。
- ・ 他市に住んでいる時、「江別市は福祉のまちだよね」と言われたことがある。何か一つ、目を引くようなことがあればと思う。羅臼町では、女性団体で石鯛を作るとき、町のマークである魚の形にして販売しているが、江別市も、えべちゅんの形の石鯛にするなど、ちょっとしたことでアピールすることができないだろうかと思う。
- ・ 江別市で育って、一度市外に転出して後でまた戻ってくるということは、長い目でみると素晴らしいことだと思う。市外に転出しても、戻って来たいと思えるような教育が大事なのではないだろうか。





- ・人の力でしかできないことが、「まちづくり」だと思う。子どもを一人で育てるのではなく、みんなを頼って育てて、自分が助けられるようになったら、他の人を助ける、というまちになれば良いのではないだろうか。市役所の窓口も大変だと思うが、いろいろな相談を受け入れてくれるところがあるということは、大きな力になると思う。学校でも、いろいろなことを自分のこととして考える教育をしているが、いつか実を結ぶと思う。ヤングケアラー、児童虐待への対応なども市でされていると思うが、今後もやさしさが伝わる政策にしてほしい。
- ・JR江別駅周辺がにぎやかな時期を知っているので、賛同する人が何人かいたら、テレビ番組でやっているような、かくれんぼなど楽しめるイベントができたらと思う。
- ・自分の子どもは皆、市外に住んでいるが、いつか戻って来れるようなまちになってもらいたいと思う。
- ・子育て世帯の転入も増えているので、活力のある元気な市であるために、転入が継続することを目指すことが大事だと思う。交通の便利さについては、札幌市や北広島市と比べた際のメリットを出していくことが大事であり、産婦人科を増やすことも大事だと思う。住む場所を選ぶ際には、立地だけではなく、地域とのつながりを重要視する人も多いので、江別市が選んでもらえるような市になることが大切だと思う。



13 市内各大学の学生の皆さん

令和4年5月21日（土） 市民交流施設「ぷらっと」
午前10時～午後0時15分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・大学生が多く、大学生が江別市役所の方や地域の方と関わる機会も多いことが魅力だと思う。一方、大学生の多くは、市外に就職してしまう。若いうちは都会へ行きたいと思うかもしれないが、大学卒業後、江別市で住み続ける人が増えると、もっと江別市の活気があふれてくるのではないと思う。



- ・住みやすいことが強みだと思う。アルバイトで地域の人たちと関わると、江別市は住みやすく、マイホームを建てる場所として適しているという声を聞く。また、大学連携の授業もあることも強み。一方、大学生が多い地域では、高齢の方と生活リズムが違うので、もしかしたら、近隣住民に迷惑をかけているかもしれないと不安に思ってしまう。



- ・学生が多いことや、交通アクセスが良いことが強みだと思う。弱みは、排雪がうまくされていないこと。大雪の時、親の運転で車で外出した際、道幅が狭すぎてぶつかるのではないかと心配だった。
- ・大学が集まっていて、相互に交流しやすいことと、野幌森林公園など身近に自然があることが強み。しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により大学相互の交流が少なくなったことは残念だった。ただ、友人の中には、交流することに関心がなかったり、交流の場があっても知らない学生も多く、もったいないと思う。また、新型コ

ロナウイルス感染症の拡大により、これまで積み重ねてきたものが白紙になってしまっていると感じる。

- ・強みは、住み心地が良く、不自由を感じないこと。JR大麻駅の周辺に住んでいるが、スーパーマーケットもあり、普段必要なものが近くにある。弱みは、外から見た時に魅力が少ないこと。EBRI（エブリ）や江別蔦屋書店は、住んでいる者としてはとても魅力のある建物だと思うが、市外の方が立ち寄る場所として選ぶことは少ないのではないと思う。
- ・大学生が多いので、文京台地区は活性化されていて良いと思っている。小学生の時、社会見学でレンガ工場やブロッコリー畑などを見学したことを覚えており、江別市を知る機会があって良かったと感じている。しかし、大学が大麻・野幌地区に集まっているため、大学生にとっては新札幌の方が近く、江別地区まで行くことが少ないことが残念。また、江別蔦屋書店はあるものの、大麻・野幌地区から江別地区につながる



大きな道が限られていて行きづらい。道の駅がないことも残念。国道12号沿線以外は、あまりにぎわいを感じない。また、冬、除雪された後に大きな雪の塊が歩道にあって、通るのが大変だと思った。

- ・普段、自家用車を利用しているが、住みやすいと感じている。国道12号沿線には、店が多くあり、大学生が多いので活気がある。車で市内を回るといろいろな楽しいところがある。弱みは、大学生が卒業後、江別市に住む人が少ないこと。住むまちとしては良いが、観光地と考えると、国道12号沿線以外は印象が薄いのではないだろうか。魅力的な店を知る機会があれば良いと思う。また、除雪体制を改善してほしい。今年の大雪では、国道12号が二車線の広さから一車線の狭さになり、交通渋滞になっていた。街中の道路がデコボコで、外出を諦めて戻ったこともあった。

- ・先日、町村農場に行ったところ、生産した牛乳をチーズやヨーグルトに加工していた。加工や六次産業化に取り組みやすいまちだと知った。また、地域の方と遊びの会に参加した時、江別市を好きな人が多いというイメージを持った。そのような人たちと交流したら、もっと江別市を好きになるのではないかと思います、もっと交流したいと思った。除雪が弱みだという意見が多いが、道外出身で、初めて大雪を体験した自分にとっては、夜にそれほど道路に積もっていた雪が朝にはなくなっていて、すごいと思った。除雪も手伝うことがあれば手伝いたいと思った。JR大麻駅周辺はエレベーターが少なく、近くのスーパーマーケットに行くにも屋根のない歩道橋を渡らなければならないので、雪の時など、住んでいる人は大変だと思った。



- ・バランスが良いまちだと思う。住みやすく、買物も自宅の近くでできる。札幌市にも遊びに行きやすい。子育てをしやすく、保育園も最近増えている。産後ケア体制も整ってきている。弱みは、札幌市ありきになっていることや、自家用車がないと不便な地域があることなどだと思う。

(2) 将来にわたって、江別市に暮らしてもらうためには

- ・就職して間もない時、ひとり暮らしで給料も低い状況の時などは、家賃が低ければ住む場所の選択肢に入るのではないだろうか。もう一つは、知っていれば良さが伝わるまちだが、知られていないので、良さが伝わっていない。大学生が参加できる機会が増えれば、江別市に興味を持ってくれる若者も増えるのではないかと。



- ・若者が多く、にぎわいのあるところには、若者が好きそうなショッピングモールがある。活性化させるためには、カフェやショッピングモールを増やすことも効果があると思うが、増やし過ぎると、江別市が持つ良い雰囲気とのバランスが悪くなるかもしれない。アクセスの良い所に、流行の店も増やしつつ、地域の魅力を生かした、にぎわいの場があると良いと思う。
- ・観光地として選ばれるのではなく、暮らしやすいまちとして選ばれるようにしたら良いと思う。そのためには、まちの知名度を高めたら良いのではないだろうか。暮らしやすさを市外に発信していく。各駅前の盛り上がりには差を感じる。

市全体で均等に発展させ、魅力を高めていけば良いのではないかな。

- ・各駅のにぎわいが足りないと感じる。JR野幌駅はコンパクトなまちづくりをしていて成功していると思うが、他は利便性が良くないと思う。JR江別駅の乗降者数は他



の駅に比べて少ない。また、車で立ち寄れるスポットをインターネットで検索しても、表示されない。道の駅が市内に1か所でもあれば、スタンプラリーを目的として立ち寄る人の数も増えるのではないかな。

- ・魅力は十分あると思う。住みやすいし、ゴミも出しやすい。魅力が気付かれにくいのではないかな。「住みやすさ」はなかなか気付かれにくいと思う。北広島市は新球場ができることになって全国的に知名度が上がった。そのような例もあるので、何かをきっかけに知られるようになったら、知名度も一気に上がるのではないだろうか。

- ・大学が多く、卒業後市外に出ていく人が多いということは、関係人口を増やせる条件があるということではないかな。自分は入学を機に江別市に住むようになり、江別市が第二の“ふるさと”のようになってきていると思うが、在学中、関わる場所が大学だけだと、戻って来る“ふるさと”の場が大学だけとなり、帰りづらくなるのはもったいないと感じている。最近、まちおこしボランティアで屋久島に行った時、関係人口を増やしたいと考えているゲストハウスの方や農家の方と、農作業を手伝いながら関わりを持つことができ、楽しかった。江別市でも、いろいろな世代や業種の方々と関わる機会を増やし、良い関係を築く人が増えたら、江別市の魅力が広まるのではないだろうか。また、江別市は小麦が有名だと思うので、パン屋さんでスタンプラリーをすると良いのではないだろうか。



- ・観光の特化は難しいと感じているので、定住に特化するのはどうだろうか。アンケート調査で8割以上の方が、住み心地が良いと回答しており、住んでいる人は住み良さが分かっている。住み良さを市外に情報発信することが大事だと思う。また、学生が多く、良い人材もいると思うが、市外に出て行くことも多いと思う。良い人材からアイデアをもらえるように、市内の企業を学生にどんどん紹介することが良いのではないだろうか。
- ・選ばれるまちは、いろいろな人が転入したいと思うまちであると考え、最初にホームページを見ると思うが、江別市のホームページは情報が羅列されていて、見やすさに欠けると感じる。子育てのまちと言われる、千葉県松戸市のホームページは色使いも良く、もっと見たいと思えるようなものだった。見やすく調べやすい、魅力的なホームページにすると、興味を持ってもらえるのではないだろうか。
- ・観光地と、住むまちの二つの視点があるが、住みやすさは十分あると思う。除雪も、他の道内の豪雪地域に比べたら、行き届いている方だと思う。住みやすさは知られにくい。住んでみて「ああ、住みやすいな。」と分かる。先日、市内大学の「えべつ未来づくり学生コンペティション」で、情報を一つにまとめた、江別市専用のアプリ製作の提案をした。情報が分散しているイメージがあるので、改善してはどうだろうか。市民が利用しやすいものをつくって、さらに市外に発信すると良いのではないかな。観光地の面で考えると、道外から、江別市を目指して来る人も、車で直接来る人も少ない。駅周辺が発展しているところに行くと思う。そのほか、ドラマのロケ地、漫画の

聖地など何か一つコンテンツがあれば、江別市を目指して来る人が増えるのではないかなと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について



- ・働きたい人が働ける環境をつくる。市が持つ施設をサテライトオフィスとして提供するなど、多様な働き方ができる環境づくりを進めてはどうだろうか。経済的なゆとりができると、出生率も上がるのではないだろうか。
- ・人口を増加させるには、子育てと仕事の両立が大切だと思う。女性が働きやすい、産後、仕事に復帰しやすい、男性も休暇を取りやすいなどの情報が、大学生にも伝わりやすくなれば良いのではないかな。

教育面では、外国語教育に力を入れているなど、特色があると、子育て世代の転入が増えるのではないだろうか。そのほか、バリアフリー化の推進や、障がい児も住みやすいまちづくりなども、さらに進めていくことが大事だと思う。

- ・子育て、教育、都市基盤に力を入れるべきだと思う。人口減少の中でも、子育てしやすい環境だと人口減少を抑制できるのではないだろうか。また、市内の中心部と郊外のアクセスを改善し、まち全体の住み良さを高めていくことが大事だと思う。
- ・パートナーシップ宣誓制度の導入を機に、江別市に引っ越そうという人が増えるかもしれない。また、江別市内で働きたいと思う人が市内で就業できるようにしてほしい。自分も、仕事を江別市内で探しているが、苦戦している。調べやすい市内の就職情報や、市内での就職先がもっと増えたら良いと思う。子どもを産める産婦人科が少ない。増えると、健診に行く人も増えて、産みやすい環境になるのではないだろうか。
- ・教育、文化に力を入れるべきだと思う。子どもに何をさせたいかを考えた時、「それならば江別市だね」、と言われるようになれば良いと思う。将棋やeスポーツなど、子どもにスキルを積ませることができるようにする。その道に進むならば、江別市は力を入れているというものがあれば、江別市に引っ越してくる世帯も増えるのではないだろうか。
- ・就職先も重要だと思うが、子育て、教育、自然環境が良いことなどが大事だと思う。道外から来て、身近に豊かな自然があって、良いと感じている。今、子どもを育てる中で、非認知能力（意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力といった、測定できない個人の特性による能力）が注目されているが、非認知能力を高めるには、自然を使った教育が、効果があると聞いている。教科書を読むだけでなく、自然を生かした子どもの教育に力を入れるべきだと思う。公園は、子どもが体を動かす場としても大事な場所であり、多世代の交流の場でもある。江別市には公園が多くあるので、今ある公園を生かせば良いのではないだろうか。
- ・子育て支援に力を入れる。合計特殊出生率が低いということは、産みにくい環境であることも一つの要因なのではないだろうか。また、子どもを産んだ母親の就業支援などを手厚くしてはどうだろうか。そのほか、若者に支えてもらうだけでなく、高齢者でも元気な方はいるので、市でご高齢の方に仕事を提供していくことも大事



だと思う。



- ・子育て支援、教育に力を入れるとともに、高齢者にも焦点を当てる。生涯学習や生涯スポーツ、生きがい活動の拠点など。スポーツ店でアルバイトをしているが、スポーツをしていて、元気で楽しそうな高齢者を見かける。江別市は自然豊かなスポーツ施設があるので、そのような場も活用しながら拠点をつくっていったらどうだろうか。
- ・人口が減少した時に、一人あたりの仕事の負担が増えて、余裕がなくなって、窮屈になるのではないだろうか。仕事の負担を減らしていくものが、デジタル化だと思う。江別市役所が先駆けとなって、デジタル化を進めることで、江別市の魅

力の発信にもつながり、市外から来る人も増えるのではないかなと思う。大学で生涯学習の重要性を学んでいるが、大人が学校を卒業した後も学べる場がもっとあると、さらに良い市になると思うので、生涯学習にも力を入れてほしい。



14 介護予防サポーターの皆さん

令和4年5月23日（月） 江別市民会館2階23号室
午後2時～午後4時30分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、比較的コンパクトにいろいろなものが集約されていること。石狩川を境に農業、住宅とそれぞれあって、自然と農畜産が盛んで、暮らしやすいと思う。弱みは、江別市のことが知られていないこと。札幌市の友人にも江別市のことがあまり知られていないと感じる。



観光については「江別市に行ったらどこがお勧めですか」と聞かれ、商業施設を勧めても、あまり関心を持ってもらえない。また、大学生が卒業後に市外に就職して転出することも残念である。

- ・住みやすいということが強み。札幌市に近いことが大きい。反面、札幌市に近いので札幌市に働きに行ってしまうので、産業が少ない。大学生が江別市に残らないことや、観光の目玉がないことも弱み。また、野幌原始林や野幌森林公園があるが、観光資源としてうまく生かされていないと感じる。そのほか、全国的な課題でもあるが、高齢化が進んでいるので、健康寿命を延ばすことが課題だと思う。



- ・強みは、土地が広く、交通が便利で、札幌市に近いことなど。大きな企業が少ないことは弱みではあるが、産業の景気の善し悪しに影響されず、まちづくりを考えることができるという強みでもある。
- ・強みは、子育て世代の転入が多いこと。自分は、未就学児の子育て支援の手伝いをするところがあるが、支援活動がもっと広まると良いと思う。また、医療がもう少し充実すると良いと思う。



- ・江別市に転入してきた当初から比べると、とても住みやすくなったが、運転免許を返納して、不便だと感じるようになった。公共交通機関の利便性を高めることが必要だと思う。産業については、大きな会社が来て、働く場ができると良いが、札幌市に通勤している人にとっても住みやすいことも大事だと思う。観光の目玉は分からないが、市で観光ポイントをもっとアピールすることが大事なのではないだろうか。また、札幌市で言えば、狸小路やすすき野のような、にぎわいのある場所ができる仕掛けがあると良いと思う。

- ・強みは、札幌市へのアクセスの良さ。ゆったりと江別市で生活しながら札幌市にも行きやすい。また、札幌市と比べると車が少なく、ストレスが少ないと感じている。弱みは、札幌市のベッドタウンという特性のため、管内の他市に比べて税収が少ないこと。

(2) 高齢者が生き生きと暮らしていくための方法について

- ・地域の方々のサポート、介護予防サポーターのような活動、地域での互助の活動などが大事だと思う。また、健康寿命を延ばすことも重要。加えて、介護サービスも充実すれば、子育て世代だけでなく、高齢者が転入してくることも増えるのではないかなと思う。
- ・ここ何日も会話をしていない人が少なくないことが問題。食事、運動、社会参加のうち、社会参加は人と接しないとできない。社会参加の際も、交通費と会場費の負担が問題になっている。介護予防サポーターの活動についても、市の空いている施設をもっと利用させてほしいと思っている。
- ・地域の仲間とともに健康寿命を延ばすことが大事で、そのためには、集まってしゃべることが重要だと思う。何人でもいいから集まって話をし、引きこもる状況をなくすことが大事。お弁当を一緒に食べるだけでも良いと思う。ただ、場所があるかどうかの問題。自治会の会館があるところは積極的に利用するなど。高齢者が身近な場所で集える環境を整え、自治会の活動に参加する機会を多く提供することが良いのではないだろうか。民生委員の活動も、高齢者を見守るという点では同じであり、連携や情報交換などができると良いと思う。
- ・介護予防の体操である「元気アップ体操」をみんなで続けて行っている。活動の場に参加される方は元気だが、認知症の方も含め、活動の場に出て来られない方に、声を掛けていくことが必要だと思う。



- ・民生委員と連携し、介護予防サポーターとしてどのような支援ができるのかをもっと話し合えたら良いと思う。積極的に話を聞いてくれる民生委員もいる。また、高齢者クラブや自治会と連携し、認知症についての講座を開催したこともある。市でも、高齢者支援に関係する団体が連携して活動することの重要性を理解してほしい。引きこもっている方を探して、地域活動に誘う人が増えることが大事だと思う。フレイル予防についても、定期的に広報することが大事なのではないだろうか。
- ・同じ年齢でも、健康や、社会参加の度合い、ライフスタイルなどは個々で違うので、「生き生きとした生活」の捉え方には差があると思う。その人が、その人らしい生活ができることが大事なので、包括的な支援が必要なのだと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・介護予防が重要だと思う。「フレイル」という言葉もだいぶ浸透してきている。健康寿命を延ばし、介護状態の方は介護度が上がらないようにする。また、高齢化にともない、独居の高齢者が増える中、独居の方は家族と同居の方に比べて、死亡率や要介護認定率が高いというデータを見たこともある。社会参加や地域とのつながりがある独居の高齢者は良いが、地域とのつながりを拒んでいる方にどのような支援をしていくかということも、今後大事になってくる課題だと思う。
- ・江別市を終の棲家にと、江別市に家を買う方と、賃貸住宅に



住む方がいるが、賃貸住宅に住む方も暮らしやすければ、ずっと江別市に住み続ける。ベッドタウンとしての特性を生かし、これからも、転入者を受け入れていくことが大事だと思う。受け入れる環境づくりとして、娯楽、観光、商業施設、会社の支店などを誘致できれば、人口減少は多少抑えられるのではないだろうか。

- ・高齢者が安心して住み続けられるまちづくりが重要。自然が多いので、自然を生かして、外部からも魅力を感じられる取組も必要だと思う。また、学ぶことに関心が高い方も多いので、生涯学習の機会、情報発信をもっと行ったら良いのではないだろうか。
- ・過疎の地域で、子どもを産みやすいように投資したことで、人口が増えただけでなく、地域の方の意識も変化し、その他の相乗効果もあった、という事例を見たことがある。合計特殊出生率が低いままでは人口増加は見込めない。子どもを産みやすいように、また、子どもが生まれた後に育てる不安が減るような取組に力を入れるべきだと思う。



- ・ベッドタウンの機能を充実させて、市外からの転入を促すことが効果的なのではないだろうか。幼稚園や保育園の充実、公共交通機関の充実などを進めることが必要だと思う。また、江別市は家賃が低いので、若い世帯に転入を促すこともできると思う。また、健康寿命を延ばすことで、介護保険料を減らし、若い世代の負担を減らしていくことが重要だと思う。

- ・すべての分野で人口減少への対策に取り組むべきで、どこを重点的にということは難しいが、除排雪を課題と感じている

人が多いことは、アンケート調査結果にも出ている。今年あたりは、大雪を理由に、市外に転出した高齢者もいたのかもしれない。除排雪の対応は喫緊の課題ではないだろうか。社会福祉協議会では福祉除雪を行っているが、もう少し対象を拡大してはどうだろうか。

- ・子育てについては、子育て中の世帯が転入して来ることが多いと思うが、江別市に来て、さらに2人目、3人目を産むことを考えてもらうには、保育所や子どもが産める産婦人科の増加なども進めていくことが必要なのではないかと思う。もう一つは、独居の高齢者のこと。70歳代から独居になる女性が多い。自分も、独居の高齢者にかに社会参加してもらおうか困ったことがある。どのような方が情報が全くなく、自治会でも状況が分からず、本人は「ほっといてほしい」と拒否する。皆さんに迷惑をかけたくない、という気持ちの表れであって、それが、その人にとっては望む状態なのかもしれない、なかなか社会参加を促すことに踏み込めないこともある。いろいろな方がいることを踏まえて、社会参加を促していかなければならないと感じている。



15 社会福祉法人 江別市社会福祉協議会の若手職員の皆さん

令和4年5月24日（火） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後3時55分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは他の自治体に比べて人口減少の減り方が小さいこと。江別市に住みたいという人の割合が比較的高いのではないかと感じる。札幌市に近いことは強みでもあり、弱みでもある。例えば、江別市内には精神科の療養病床数が少なく、札幌市内の病院を使わざるを得ないこともある。
- ・市街地と緑地のバランスが良く、落ち着いて暮らしやすいと思っている。また、道内外の友人と会う時に、鉄道や空港など交通アクセスが良く、カフェなど紹介したい店があることも強みだと感じる。気になるところは、年をとっても暮らしやすいか心配であること。地区で異なるが、移動や買物を自分の力でできるように、公共交通などがもう少し保障されると良いと思う。
- ・市外から転入してきた時、ゴミ袋が1種類しかないことに驚いた。クリーンセンターが立派なこともあるが、多くの袋を用意しなくていいことは良いと思う。市外に住む母子家庭から相談を受けることもあり、江別市に引っ越したい、または引っ越してきたという話を聞く。子育て支援センターの活動も盛んだと思う。弱みは、生活困窮者を支援する中で、就労相談を受けるが、高齢者だと、なかなか就労先が決まらないこと。シルバー人材センターは生計を立てるための収入を得ることが目的ではないので、高齢者の仕事の方がもっとあると良いと思う。
- ・近隣市の友人からは「江別市には映画館があつていいね」と言われる。商業施設も多く、何か買おうとする時、江別市内で完結できることも多い。公園も多く、規模の大きい公園もある。市外に住んでいる時、湯川公園や野幌屯田町公園に遠足で来ていた。また、高齢者に「何かあったら社会福祉協議会へ相談できる」という意識が浸透していて良いことだと思うが、社会福祉協議会でできる範囲や役割をもっと伝えていくことが必要だと思う。弱みは、新栄台に住んでいるが、車がないと不便なこと。今は車があるので便利だが、大学生の頃は車を持っておらず、大麻地区にある大学まで行くのに、冬になると往復3時間ぐらいかかり、苦労した。季節によっては風が強く、高校生の時は自転車通学だったので風が強い時は大変だった。ボランティア活動に関心を持っている大学生が多いが、江別市民よりも市外出身の一人暮らしの方が多いことが、江別市民の自分としては残念である。店については、個人的な思いだが、ユニクロやGUなどの手ごろな洋服店がなく、市外に買いに行かなければならないことが残念。若者が良く買いに行く洋服店があるといいと思う。
- ・強みは知名度が高い札幌市に近いこと。以前、道外に住んでいる時に、江別市を「札幌市の隣」と説明することが多かった。また、札幌市に比べて土地が安いので、購入



しやすい土地を求めて転入して来る人が多いことは強みだと思う。弱みは、大学生が就職を機に転出していくことが多いこと。就職先に選ぶ場所としては、江別市は魅力が少ない。また、江別市と言えばこれ、という知名度が高いものがない。観光によって経済を活性化させることは大事だと思うので、観光振興も進めてほしい。

(2) 地域福祉（相談業務）について



- ・自分はボランティア活動を支援する業務に携わっている。江別市はボランティア活動への参加意欲がある人が年齢問わず多いと感じている。北翔大学に講義に行った際も、講義後、ボランティア登録をしてくれる学生がいた。ボランティアをうまく活用している高齢者施設や障がい者施設は比較的多いのではないだろうか。市外では、施設職員だけで支援を行っているところも多い。一方、コロナ禍になり、ボランティア活動への参加意欲があっても活躍する場が減っていることが課題。ボランティアも高齢の方が多く、この2年間活動ができなかったため、もう活動は難しいという声も聞く。働く期間が長くなる中、ボランティア活動に参加する方も限られてくるだろうし、学生も活動してもらえる期間は限られている。以前のように活動して頂けるようになることを望んでいる。
- ・ICTの活用は、年齢が高いボランティアが多く、なかなか浸透していない状況。連絡手段は電話やファックス、郵送が中心だが、今後は、若者が使いやすいツールも用いて連絡したいと考えている。
- ・ここ数年、市内のヘルパーが減少していることが課題。ボランティアで支援できる部分は限りがある。福祉機器は、本人にあった機器を利用してもらうことが重要で、社会福祉協議会から借りるよりも、介護サービスによる貸与を受ける方が良い場合もあるので、適切な方法で機器を借りてもらえるように周知できたらと思う。
- ・福祉教育については、夏と冬に、高校生を対象としたワークキャンプなどを実施しているが、参加者が少ない。どうしたらもっと参加してもらえるか悩んでいる。
- ・総合相談では、いろいろな相談を受ける。コロナ禍もあり、観光業やタクシー運転手など、これまで相談がなかった方々からも相談も受けるようになった。コロナ禍前から生活が苦しかった方が、コロナ禍で一気に困窮状態になったという方もいる。貸付の制度もあるが、長期に続くものではないので、いかに就労につなげていくかが課題。経済的だけでなく、社会的困窮もある。引きこもっていて、社会とのつながりのない方から相談を受けることがある。江別市には引きこもりの当事者会や家族会がないので、今は札幌市にあるレター・ポスト・フレンド相談ネットワークというNPO団体の主催で、江別市内で集まる機会を設けているが、今後は江別市独自で引きこもり支援の会の立ち上げを考えなければならない。また、社会的困窮者を支援する活動を、当事者にどうやって周知していくかも課題である。
- ・生活支援体制の整備を、四つの地域包括支援センターと連携して進めており、移動支援、買物支援、助け合いの場づくりなどを支援している。また、通いの場づくりとして、人とのつながりをつくるサロンも市内に200箇所あり、サロンの活動が途切れないように努めている。近年、活動を支援しているボランティアが高齢化して、支援



する側から支援される側となり、ボランティアの人数が減っていることが課題。今まで手伝ってくれていた方々をつなぎとめたい。ボランティア活動への経済的な支援はないが、お金だけでなく、やりがいをどう伝えていくかも大事だと考えている。地域で「話を聞いてほしい」という承認欲求を抱えていたり、行動の発散の場を求めている高齢者が増えているが、そのような方も、将来、ボランティア活動に参加してくれるかもしれない。ボランティア活動を手伝ってくれそうな方々と、地域でボランティア活動を求めている方々を、うまくマッチングしていくことが大切だと思う。



- ・成年後見制度の利用は、核家族化も進んでいる中、年々増えている。また、福祉制度全般に関することだが、制度のメリットだけを見て、デメリットを見ていない人が多いと感じるので、十分に理解してもらうことが大事だと思う。関係機関に理解を深めてもらうことも大事で、関係機関を対象に出前講座を開催することなども効果的ではないかと考えている。
- ・国民年金の担当は、どうやって情報を伝えるか、どうやって理解してもらうかに苦慮している。市は発信しているつもりでも、分からないという問い合わせが電話で来ることが多い。

若い世代はホームページである程度自分で調べたうえで問い合わせしてくるが、年代が高いと広報誌を読んでも分からないので、とりあえず電話した、というケースが多い。年代によって、情報収集手段や理解に差が生じている場合があることを、発信する側もよく理解し、情報発信の方法を考えていくことが重要だと感じている。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・空き家対策。札幌市も江別市も、地価が上がっている。収入がある人からも、江別市で土地を探しているが見つからないという声を聞く。空き家を取り壊して住宅地を増やすなど、若い人が住宅地を買える状況をつくるべきだと思う。
- ・人とのつながり合い・お互い様の支え合いと、移動支援の二点。つながりがある人は心身の健康度や幸福度が高いということが科学的に明らかになっている。いつか自分のためになるという気持ちが広がると、人とのつながりや支え合いも増え、関わる皆さんの幸福度が高まるのではないかと考えている。移動支援は、買物や通院などをできるだけ自分の力でできるようにする。公共交通機関の利用促進も大事だが、お互い様と言う気持ちで乗せ合うような地域になると良いと思う。
- ・デマンド型交通については、市街地への移動など距離がある部分は運行されているが、近所で行われているサークルに参加したい時などに利用できるよう、町内の運行が充実することを望む声が多い。最近、簡易郵便局がなくなった地域や、日帰り温泉施設の送迎がなくなった地域、スーパーマーケットがなくなった地域などがあるので、今後、デマンド型交通の需要は高まると思う。
- ・高齢者に限らず、働く場の充実。働き方が多様になっているので、いろいろな働き方ができる職場を増やしたり、多様な働き方への支援ができると良いと思う。障がい者の就労支援も必要。就労継続支援B型事業所は比較的多いが、就労継続支援A型事業所は少ないので、もっと増えると良いと思う。
- ・今も力を入れていると思うが、出産にかかる費用の負担軽減。出産一時金は出産後に受け取るので、出産前にかかる費用に対する助成が増えたらよいと思う。もう一つは、



障がい児支援。自分の子どもが障がいを持って生まれたことで、どう育てていくか不安になっている人も多い。また、高齢になっても誰かが住み続けられるまちづくりも必要だと思う。自分の家で最後を迎えたいという人も増えており、それを支えるボランティア組織もできている。一方で、施設で最後を迎えたいという人もいる。それぞれの希望が叶うように支援できると良いと思う。

- ・地域内交流の支援が必要だと思う。人口が減少すると、バスなどの営利を目的としたサービスの維持が難しくなり、さらに不便さが増すと思う。一方、核家族化とともに孤立する方がますます増え、人口減少も止まらないと思う。人口が減っていく中で、どう快適に暮らしていくかを考えた時、知らない人と協力し合うよりも、知っている人たち同士が協力し合う方が、ハードルが低く、協力しやすいと思うので、交流の場をつくっていくことが大事だと思う。小さい時に地域のイベントで交流があった地域の方々を、そのまま良い印象で覚えていたりもする。普段から楽しい場面で交流する場が、市内に増えたら良いと思う。



16 江別認知症の人の家族を支える会（かけはしの会）

令和4年5月30日（月） いきいきセンターさわまち2階研修室
午後2時～午後4時

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・弱みは、柱になるような産業がないこと。強みは、野幌原始林があるなど自然環境が良いところ。また、自分が住んでいる地域は高台で眺めが良く、「眺めが良くて、西に札幌市のまちが見える…」という詩を作ったこともある。自分の近所に住んでいる家族は市外から引っ越してきた子育て世帯が多く、統計でも子育て世帯が多く転入してきているということで、良いことだと思う。
- ・江別市内には、介護施設が多くあると思うが、施設が多くあるからか、介護保険料が高いのではないかと感じている。また、子どもの医療費助成の対象年齢が他の市に比べて低いと感じる。
- ・強みは、比較的スーパーマーケットが多いので、高齢者も自分で買物に行くことができること。札幌市に近く、土地が安いので、若い人の転入が多いことも強みだと思う。弱みは、市内を運行するバスの便が少ないこと。バスを利用している方には、少し不便なのではないかと思う。
- ・他市から転入してきた時、二番通り、三番通りと、沿道の花がきれいで、とても美しいまちだと思った。その地域の自治会の皆さんがきれいに管理されていたのだなと、今になって思っている。また、国道12号と275号がそれぞれ拡張されて、豊幌地区の方まで、とても車が走りやすく、交通の便利さを感じている。大雪の際も、JRを利用している夫は出勤できない日が一日間あったが、それでも便利だと思っている。弱みは、雪対策。取り組んでいると思うが、さらに良くなるよう、期待している。特に、子どもたちの通学路を確保するための除排雪を充実させてほしい。そうすれば、若い世代も、もっと安心して、子どもと一緒に住めるようになると思う。
- ・元気な高齢者が多い。また、高齢者が集い、活動できる機会や場所が充実していると思う。高齢者が元気に卓球や体操をしている姿を見ると、自分も負けていられないと思う。自分が住んでいる大麻地区は、自然が豊かな地域で、遊歩道が多い。車を心配せずに安全に歩くことができ、鳥のさえずりも聞こえるし、動物をいろいろ見ることできる。自然を楽しめるまちであることが自慢。また、「広報えべつ」の内容が充実しており、毎月楽しみにしている。認知症のことも掲載されており、認知症への理解を深めることが大切であることを分かってくれていると感じた。大雪は自然のことで仕方がないと思うが、除排雪をより充実してもらって、できる限り安全な生活を送りたい。高齢になると除雪も大変なので、地域の助け合いで、少しでも改善できればと思う。
- ・江別市は、認知症を勉強する機会が、全道の市町村の中でも大変多いと思う。市の担当者が頑張っており、自分たちも取り組んでいるが、相談窓口も充実していると思う。





弱みは、大きな病院が少ないので、待ち時間が長いところ。また、これまで市内に宿泊できるホテルが少なく、この間、野幌地区に比較的大きなホテルができたが、宿泊の値段が高いと感じる。市外から来られた方に紹介する宿泊先や食事場所が少ないと感じている。

- ・江別市に転入してきて、自然環境が豊かで、スーパーマーケットが多く、住みやすいと感じた。また、大学が多いことが強みだと思う。自分が学生の時、大学があった市と大学が共同でスイーツを開発し、海外に売り込もうというプロジェクトに参加していたが、そのような取組が、江別市でもできるのではないかと思った。大学生に江別市を知ってもらい、市内で働いてもらうきっかけにもなるのではないかと思う。大学を卒業して市内で働く人が少ないと聞いているが、江別市でこのような取組を行っていますと大学生に伝える情報発信や取組のインパクトが弱いのではないかと思う。

(2) 認知症の方や、その家族に必要な地域での支援について



- ・認知症への理解を深めてもらえるように、小学生を対象とした演劇を計画しており、今、稽古をしている。ゆくゆくは江別市社会福祉協議会の後援を得て、市内の全小学校を回りたいと思っている。

- ・外出ができずに困っている家族の代わりに留守番をして、家族が外出できるように支援したり、一人暮らしの方にお会いして話をするなど、見守りをしている。このよう

な「やすらぎ支援」を利用されている間に、認知症の改善が見られた方でも、その後、病院に入院することになり、さらに施設に入所されたと聞くと、残念に思うことがある。認知症の方と話をする時は、相手の話を否定しないことや、表情が乏しくなってくるので、一日一回は笑わせることなどを心掛けている。

- ・認知症の方は、話をしないと症状が進行する。認知症の方とその家族が通える地域サロンがたくさんあると良いと思う。グループホームで行われているサロンに行くことがあるが、若年性認知症の方と話をすることが楽しい。そういうところがたくさんできたら、安心して自宅に住めると思う。認知症の方には、その方をよく理解し、良かった時期を聞き出して、その時期の話をするようにしている。認知症の方が笑顔で過ごすことができるほか、家族の方が困ったことを話すことができ、解決に結び付けてくれるようなサロンがあると良いと思う。

- ・「認知症ってなあに」という演劇プロジェクトを、昨年一年間考えて、今年は実行に移している。認知症の理解が深まるような内容の劇をつくり、小学校で演じたり、動画で配信したりすることを考えている。これまでは大人を対象としていたが、目線を下げて、小学校から認知症を理解してもらおうという考えで進めている。子どもにも認知症への理解が広がれば、地域で認知症の方が迷子になった時、子どもも声を掛けられるようになるのではないかと考えている。地域サロンは、かけはしの会でも実施しているが、拠点を広げていきたいと思っている。現在、地域サロンを実施しているところは、公共交通機関では行きにくい場所なので、交通の便の良い場所でできないかと思っている。また、江別市立病院に認知症



外来ができたが、そういうところで、外来に合わせて、集いの場が設けられるとありがたい。また、地域サロンを実施する際、送迎の支援があるとっと参加者が増えると思うので、考えてもらえたらと思う。自分も高齢になってきたので、運転免許の返納を考えているが、返納した後はどうやって移動すればよいのだろうかと考えてしまう。他市のような、運転免許の返納後の助成があると良いと思う。



・高齢の認知症の方も多く、その家族も高齢の方が多い。施設に入所される方もいる一方で、自宅で看取る家族もいる。施設に入所したからと言って、介護が終わったわけではなく、施設にいても、在宅以上の心配を抱えている。そういう方々を久しぶりに誘って集いの会を開催したところ、予想以上に集まった。やって良かったと思った。集いの会には、認知症地域支援推進員や地域包括支援センターの方にも来てもらい、家族の方々の相談を聞いてもらい、悩みや不安の解消にもつながっている。また、一年に一回、家族のリフレッシュのためにバスで行く「ミステリーツアー」を開催している。新型コロナウイルス感染症の流行もあったが、今年は久しぶりにツアーを実施しようと思っているが、ソーシャルディスタンスを保つ必要があるため、バス借上料などのコストが今まで以上にかかる。何かしら助成があると良いと思っている。参加されたご家族には、大変喜んでもらっている。そのほか、集いの会では、認知症地域支援推進員の皆さんと一緒に、認知症当事者の方が想いを話されている動画を見ることもあり、認知症当事者に対する理解を深める機会にもなっている。開催場所については、交通の便が良くない場所で開催する時には、タクシーで来られる方もいる。もっと交通の便の良い場所で開催することを考えていかなければならないと思っている。

- ・かけはしの会が誕生して30年経つが、まだまだ知られていない状況。今はホームページがないので、ホームページを作って、より積極的に情報発信をしようと考えている。江別市民に、もっと、かけはしの会の情報が行き届くようにしたい。江別市内に情報が浸透すれば、企業が支援してくれることにもつながるかもしれない。
- ・祖母が認知症になって、コロナ禍の中、両親が祖母のいるところに会いに行っていた。実家に帰ると、祖母の介護のことをいろいろ自分に話す両親を見て、家族は誰かに話を聞いてほしいものだというのを感じ、聞き役に徹した。その頃、認知症についての講座が江別市で開催されており、参加したことによって、正しい知識を持って傾聴することが大事であることを学ぶことができた。認知症について、直接知識を得られる場があることは幸せなことであり、今後も学ぶ機会を提供することを続けてほしいと思う。家族が、もしかしたら認知症かもしれないと思った時、インターネットで調べても何をしたら良いのか分かりづらい。そういうことを、小学生に分かるようにと取り組まれていることは、本当に素晴らしいことだと思う。ぜひ積極的に情報発信をしてほしい。



(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・江別市立病院の収支改善については、江別市民として心配しており、できるだけ江別市立病院を利用しようと、周りの方にも働きかけている。また、江別市役所は老朽化が進んでおり、冬場にはトイレは冷たくて使えない。一市民として、本庁舎を早く建て替えてほしい。江別市民会館も、非常に老朽化していると思う。

- ・みんな、雪の処理に困っている。石狩川の水を使って融雪するなど、時間がかかるかもしれないが、考えてほしい。自然と仲良くしながら自然を克服することを、若い世代で考えてほしい。

- ・サービス付き高齢者向け住宅で暮らしていた母が骨折して入院し、特別養護老人ホームに入所した後再び入院して、医療的ケアが受けられる施設に入所した。その間、家族の希望を伝えることもできず、いろいろと場所が変わっていく状況だった。こういう時に、家族の希望を聞いてくれて、適切に移動場所をつなげていくことを総合的に支援してくれる人や機関があれば良いと思った。



- ・独居の方が多いので、空き家や団地の空き室を利用して、シェアハウスのように、住める場所をつくってはどうか。認知症になって介護サービスを受けながら生活することになっても、シェアハウスのようなところならば、話し相手もいて、独居の場合より不安も解消される。学生も多いまちなので、学生も一緒に住めるようにすることも考えられる。また、地域サロンにもつながるのではと考えている。そういう取組をデイサービスのようには実施しているところもあるので、江別市でも考えてほしい。
- ・ますます長寿社会になる中、認知症の方も増えていく。いかに在宅支援をしていくかを考えると、「やすらぎ支援」は重要だと思う。「やすらぎ支援」の情報を「広報えべつ」に掲載するだけでなく、介護事業所の方にも紹介し、利用を勧めていただきたいと考えている。「やすらぎ支援」によって、家族の方はわずかでも自分の時間を持つことができるので、担う役割は大きいと思う。
- ・高齢者が増える中、高齢者にやさしいまちであってほしい。新型コロナウイルスのワクチン接種の予約方法は、ワクチン接種が一番必要な高齢者にとって、やさしくないと思った。インターネットでの予約もなかなかつながらなかったが、2回目以降はとて改善されていて、江別市の対応は素晴らしかった。自分には孫がいるので、予約を手伝ってもらい助かったが、地域の全てのお年寄りを助けられるようにならないといけないと思う。自分も頑張るが、認知症の方も含め、高齢者にやさしいまちづくりをしてほしい。
- ・一人暮らしの高齢者の火災死が増えている。認知症初期段階の方かもしれない。江別市では増えていないようだが、今後は懸念される。死亡状況や出火先だけではなく、どういう原因で火事になったのかという情報も、もっと詳しく伝えてほしい。予防につながると思う。

- ・人口の社会増を維持していくことが、人口減少の抑制につながると思う。そのためには、今住んでいる人を大切にすることがまず重要で、子育て世帯への支援や高齢者を大切にすることが大事だと思う。そうすれば、今住んでいる人たちから、江別市での暮らしやすさが徐々に広まり、「江別市に住もうかな」と、江別市を選ぶ人が増えるのではないだろうか。若い世代はスマートフォンから情報を得ることが多いと思うので、それを意識した情報発信に力を入れることも大事ではないかと思う。若い人が増えて、認知症への理解も広まり、交流が増えれば、みんなで認知症の人を見守ることもできると思う。



17 J A道央・J A道央青年部

令和4年6月9日（木） 江別市民会館2階23号室
午後6時～午後8時

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、札幌市の近郊に位置して、どこに行くにも整った道路環境があり、交通アクセスが良いこと。自分の住む豊幌地区は、定年退職された高齢の方が多いが、自然の中で犬と散歩している姿を見ると、自然環境の良さを感じる。弱みは、江別市は住み良さが評価されているが、全国的に知名度の高いものが少ないこと。北広島市はボールパーク建設で注目されており、地価も上がっていると聞いている。江別市にも、何か人を呼び込むものがあれば良いと思う。



- ・強みは、札幌市に近いことと、交通アクセスの利便性が高いこと。生活していて、とても便利なまちだと思う。大きな病院があり、スーパーマーケットもある。江別市の特産品を使ったスイーツもあり、「えぞ但馬牛」もある。衣食住のうち、食と住は充実している。弱みは、スイーツや特産品など素晴らしいものがあるが、江別市民だけが知っていて、市外ではあまり知られていないことが多い。北海道の食を紹介するテレビ番組などでも、札幌市や小樽市などは出てくるが、江別市の話は少ない。自分が勤めている農業法人の人材を確保するために、江別市内の大学生をはじめ、市外の大学へ就職説明会に行くことがあるが、江別市の魅力をアピールしづらく、他の地域との差別化が難しいと感じている。また、大学生の雇用の受皿が少ないのではないかと感じる。
- ・強みは、札幌市に近いことと、買物も娯楽も、江別市内である程度完結できること。弱みと感じているものは、特にない。



- ・強みは、札幌市や新千歳空港に近い立地の良さ。弱みは、江別市に住んでいるが、勤め先は札幌市という人が多いこと。江別市内に大きな会社が比較的少ないと思う。また、土日に子どもを連れて出かけようと思った時、子どもを遊ばせることができる大きな公園がないと感じる。
- ・強みは、交通アクセスの良さ。弱みは、江別市内の企業情報が得にくいこと。自分が江別市内の大学生だった時、企業説明会に参加したが、江別市の企業があまりなかった。せっかく江別市内で実施する企業説明会だったので、もっと市内の企業が来てくれれば良いと思ったことがある。
- ・強みは、札幌市に近いほか、スーパーマーケットなど日用品を買うところが多く、小さな公園も多く、身近に自然を感じることができること。大学も四つあるが、狭い範囲に大学が四つある地域は珍しいのではないかと感じる。大学生と関わって感じることは、大学生の発想と行動力は素晴らしく、大学生は江別市の財産だと思う。弱みは、

公共交通機関だけで移動しようとする、江別蔦屋書店や大型ショッピングセンターに行きづらいこと。江別蔦屋書店は観光ポイントとして若い人たちに注目されている場所だが、車がないと行きづらいことが残念である。

(2) 江別市における将来の地域農業の活性化策について



- ・ロボット化、ICT化については、JA道央青年部でもよく話し合いをしている。今使っている農作業用のGPS基地局が江別市から20キロほど離れている長沼町にあるのだが、距離が離れているので通信が途切れることがあると聞いた。江別市にGPS基地局を設置することが、江別市のこれからの農業の発展につながるのではないだろうか。農業就業人口が減って、人手の確保が難しくなっている中、今後はスマート農業の推進で補われていくと思うので、是非GPS基地局を江別市に設置してほしい。
- ・スマート農業による自動運転が導入されると、田に苗を植える時も、きれいに植えることができる。ハンドルが自動で動くので、事故率も下がる。害虫や病気を防ぐ農薬や肥料も、均一に散布されるので、少量で済む。ただ、GPS基地局が長沼町にあるので、通信が途切れて測位がずれることがあり、この状況が今後が続くと、普及が進まず、未来の農業にとって損失になると思う。スマート農業が進めば、就農人口が増えるかもしれないし、アルバイトの方が少なくても営農を継続できるので、江別市にGPS基地局を設置してほしい。農業法人としては、スマート農業が進むと、パートや従業員の減少につながるかもしれないが、その問題は分けて考えるべきだと思う。数年前、JA道央青年部では、地域の大学と連携して、期間雇用や大学生の夏休みを利用したインターンシップで農作業を手伝ってもらったこともあったが、どうしても一組織でできることは限られるので、江別市がJA道央と連携を深めて大学生への働きかけを進めてくれるとありがたい。
- ・離農とともに、一農業経営者当たりの耕地面積が今後も増えていくと思う。米や麦などの穀物は面積が増えても栽培できるが、野菜は収穫に手間がかかるので、生産しても手に負えなくなる。そうすると、野菜より手間がかからない麦に変更しようかと考える農家が増えるのではないだろうか。スマート農業による自動運転が普及すれば、省力化が進むと思う。
- ・今もドローンを使って農薬を散布しているが、とても早く作業ができる。これからも技術は進歩していくと思う。
- ・JA道央では、GPS基地局を利用するためのアプリ利用の受付をしている。昨年、今年と利用者は増えている。費用がある程度かかるので、躊躇している人もいる。スマート農業の普及を一緒に進めていく立場であり、実際に利用している状況を見る機会や詳しい知識をもう少し身につけたい。農業者の高齢化が進み、作付けを辞める人も見られる中、スマート農業の普及に向けて後押ししていくことが必要だと思っている。
- ・JA道央でもパートを募集して農家に斡旋しているが、50～70歳代の方が多い。江別市には大学生が多いので、大学生にもっと手伝ってもらえないだろうかと思っている。JA道央青年部の活動として、江別第一小学校では、食育の授業（グリーンスクール）を行っている。そういう活動を通じて、子どもたちがもっと農業を身近に感



じ取るようになってほしい。

- ・大学連携の立場からも、大学生と一緒に何かできないかと考えている。農作業アルバイトは大変そう、朝が早そうなどのイメージを持たれているかもしれないが、夏休みなどは力を借りられるのではないだろうか。ココルクえべつには交流農園があり、酪農学園大学で農福連携を進めている先生に手伝ってもらっている。江別市にも、障がい福祉に関する事業者でつくる組織があるので、その組織と連携して、新たに農福連携の機会をより多くマッチングして生み出せたら良いのではないかなと思う。食育については、令和2年度の江別市の学校給食では、全体の52%は江別産の野菜を使っている。給食を通じて、江別産の農作物を作っている人たちに触れてもらうことも大事だと思う。



い福祉に関する事業者でつくる組織があるので、その組織と連携して、新たに農福連携の機会をより多くマッチングして生み出せたら良いのではないかなと思う。食育については、令和2年度の江別市の学校給食では、全体の52%は江別産の野菜を使っている。給食を通じて、江別産の農作物を作っている人たちに触れてもらうことも大事だと思う。

- ・野幌地区で農福連携を行っている農家からは、労働力としてしっかりと働いてくれると聞いた。農福連携をしてみたいと思っても、どこでつながれば良いか分からない状況で、農福連携の情報が生産者に届きやすくなれば良いと思う。
- ・以前、農福連携で障がい者の方に手伝ってもらっていたことがある。支援事業所の職員の方も同伴してくれた。除草作業などの単純作業は、一生懸命やってくれるので適性があると思う。ただ、天候が日々変わる中、雨が降って作業ができない時などに、代替りの仕事をやってもらうことが難しい。そういう部分をサポートしてもらえる仕組みがあれば良いと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・人材や後継者の不足は、他の産業でも課題になっている。江別市には元気な高齢者（アクティブシニア）もたくさんいるし、四つの大学の大学生もいる。それらの方々の力を借りながら、産業を盛り上げていくべきだと思う。また、各分野が連携していくことが必要で、農業であれば、グリーンツーリズムなど、観光や教育との連携が考えられる。まちのにぎわいも、店を増やすだけでなく、いろいろな世代が魅力を感じるようにすることが大事で、子育て世代や移住希望者へのアプローチも必要だと思う。
- ・アクティブシニアが活躍できるように政策を進めていくことが大切だと思う。また、江別市でも、若い世代の一人暮らしが増えているので、婚活などの情報があれば、もっと発信してほしい。
- ・国道12号と275号のほか、高速道路も通っており、JRも多くの人が利用しているので、その強みを生かさなければ、もったいない。人が溜まる、集まる、お金を落とすまちになると良いと思う。江別市の魅力を一つでも多く発信したらどうか。
- ・今は、住むだけのまちになっている。ランドマーク的なものができれば、観光などで人の流れが増えるのではないかなと思う。
- ・食と住は充実しており、教育機関も充実している。子育て世代には魅力があるまちではないだろうか。合計特殊出生率は低いかもしれないが、人口は社会増となっている。江別市民にしか分からない魅力があるので、「住ませたら勝ち」だと思う。「仕事は札幌市でも、帰る家は江別市」でも良いのではないだろうか。また、セラミックアートセンターで陶芸教室を実施しているなど、魅力ある生涯学習に取り組んでいると思うが、市外の方は



知らないと思う。隠れた魅力を掘り起こして、生活の場としての魅力を市内外に発信することが重要だと思う。

- ・子どもを産めるところが江別市立病院のみだが、江別市立病院以外にもあると、病院を選ぶことができ、合計特殊出生率も上がるのではないだろうか。第一次産業の農業については、これからも引き続き活性化を進めてほしい。ウクライナ紛争などで肥料・資材も高騰する中、来年度の営農が不安である。ICT化も必要だが、まず、目の前の営農をしっかり維持することが大事だと思う。
- ・JA道央青年部では、食育やSDGsにつながる活動を、今後も引き続き続けていきたいと思う。肥料が高騰する中、循環型農業への転換を考えていくことが大事だと思う。自分が50～60歳代になった時に、自信を持って農業をやっている状態になりたいと思っている。



18 江別市私立幼稚園PTA連合会

令和4年6月13日（月） 江別市民会館2階21号室
午後2時～午後4時10分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、札幌市に近いことと、JRの本数が多いこと。札幌市に近いので病院もあり、教育機関も多いので転入してきた。転入してきた当時は土地が安く、正直なところ、地価の安さ以外で魅力を感じるものがあつたわけではない。観光地として江別市を訪れる人は少ないと思う。宿泊先を尋ねられても分からなかった。子どもを産む際には、陣痛が来て30分以内で到着できる病院があるかどうかで住む場所を探すなどするが、中には、陣痛が来る時間がもっと短い人もいる。江別市で産んでもらって、育ててもらえるような取組を行えば良いのではないだろうか。強みは、小麦が有名で、カフェや喫茶店などの評判が良いこと。若い人だけではなく、年配の方もお店を利用していることが多く、とても良い空間だと思う。



・札幌市との交通アクセスが良いので、江別市に住むことに決めた。札幌市の保育所は園庭が狭いことが多く、育てるなら江別市の保育所のほうが良いと思った。弱みは、大きな買物をする時に、江別市内の店舗だと少し物足りずに札幌市に行ってしまうこと。1000円ショップも、札幌市にある店のほうが品揃えが豊富。他市では、子どものおむつ代の助成があるので、江別市にもそのような助成があると良いと思う。



・強みは、札幌市に近いこと。ただ、その他に強みが思い浮かばない。江別市が力を入れている取組があれば、もっとアピールしてほしい。自分と同じような子育て世代の友人の中には、江別市には子育て支援のメリットを特に感じないので札幌市を選んだという人もいます。もったいないと思う。

・江別市は中途半端だと、よく夫と話す。札幌市に買物に行くには不自由はないが、遊ぶところは少ない。買物が1か所で済むようなショッピングモールも少ない。緑や公園が多くて土地が比較的安いことは魅力だが、市内でも地価に差があり、安いところは公共交通機関が不足していたりする。他市では子どもの医療費無料の対象年齢が江別市よりも高いところがある。江別市も以前より医療費助成は良くなったが、通院費の助成割合は変わっていない。カラオケなど中学生が遊ぶ場所も少ない。公園の遊具は新しくなると小さな子ども用の遊具になっているので、中学生が遊べないものになっている。江別蔦屋書店や大麻地区には喫茶店もあるが、全体として、中高生が集まってゆっくりと話せる場所が少ない。ユニクロやニトリもない。今年は冬にバスが運休となり、高校が休校となったが、バスが運休しないように、また、高校の周りの除雪を充分に行ってほしい。



・強みは、札幌市に近く、緑や公園が多く、山が近くになく海もないので、自然災害が少なく、安心して生活できること。弱みは、市内での移動は、車がないと不便なこと。今後、公共交通機関の便数などがさらに減ると、高齢者にとって非常に不便だと思う。

(2) 将来にわたって、子どもがのびのびと成長していくためには

- ・自分は子どもが少ない地域で育ったので、学校でのクラス替えや、クラブ活動がいろいろあることにびっくりしている。江別市に住んでいると、習い事もいろいろできる。スイミングスクールには、札幌市の子どもも通っている。ただ、遊ぶ場所は少ないと感じており、冬になると一気に遊ぶ場所がなくなる。大雪の時には、雪で遊ぶにも限度があり、遊ばせるのは危険だと感じた。そり滑りができる場所には車で行くしかなく、近所で遊ぶのは難しかった。他の自治体には広い遊び場が屋内にあるが、「ぼこ あ ぼこ」の遊具は、未就学児までぐらいが対象で、中高生が集まったり、遊んだりする場所が少ないと感じている。スポーツの部活動は強いイメージを持っている。自分が学生の頃は大麻高校にスポーツ推薦で行っていた子がいた。遊ぶ場所以外は、江別市は良い環境だと思う。未就学児の療育機関は支援を受けられるところが多く、内容も充実している。その後の、特別支援学級も充実している。特別支援教育が充実しているので、江別市に来て学ばせたいという人もいるのではないだろうか。



- ・自分の子どもが小学1年生になる時、自分はフルタイムで働いているので、仕事をどうしようか悩んでいる。午後7時過ぎまで仕事があるため、子どもが学童保育から独りで歩いて帰ってきて、家で独りになる時間ができてしまう。フルタイムで働く仕事の形態を変えるべきか悩んでいる。自分の子どもを夕方に独りで歩かせるのは怖いと思っている保護者は多いと思うので、学童保育の保育時間を延ばしてもらえると、保護者は心配せずに働けるのではないと思う。
- ・江別地区のとある地域には、園児が100人規模の保育園や幼稚園は多くあるが、公園が一つしかなく、滑り台とブランコが一つしかない。預ける親としては、公園がもっとあれば良いと思う。江別地区の公園の周りには、老朽化している建物が多いことも不安である。保育士は募集してもなかなか集まらず、実習生に江別市内での就職を勧めても、都会で働きたいのか、札幌市に行ってしまう。住宅補助など、若い先生が江別市に転入するような取組を行ってほしい。他の保育園や幼稚園からも同様の声がある。



- ・スポーツ少年団が少ないと思う。部活動費にお金がかかり、また、車で送迎しなければならないので、部活動をさせたくないという親の声をよく聞く。親の負担が少なくて、子どもが部活動を諦めずに打ち込めるような環境を整えてほしい。
- ・自分の子どもが活動する機会や環境に不安を感じたことはない。保育士や先生など、子どもに関わっている大人が疲弊してほしくないと考えている。コロナ禍で名前のつかない雑用が増えたと思う。そのような方々に何か支援があればありがたいのではないと思う。
- ・学童保育の充実に取り組んでいるとのことだが、入りたい子どもが多く、小学2年生になったら、ほぼ退所となってしまふ。受皿が足りないからだと思う。そうすると、子どもが自分で歩いて帰る場合は、何時までに帰りましょうという時間に合わせて帰らなければならない、家に独りでいる時間が長くなる。学童保育の申し込みを忘れた親もいるため、小学1年生などは午前10時30分くらいに帰ってきて、親が帰宅する夕方まで独りになる子どももいる。また、民間と市立の学童保育の料金も違う。
- ・スキー学習は、子どもの成長とともに、2年に一回ぐらい買い替えなければならない、スキー場に行くようになると、バス代もかかる。スキー学習だけで莫大なお金がかか

るので補助してほしい。部活動もお金がかかる。大会があれば送迎の負担もある。部活動を民間に委託する方向にあるという話も聞くが、学校によって指導者の有無などの差が出てくる。学校選択制が導入されているので、環境が良いほうに児童・生徒が集まってしまうのではないだろうか。

- ・教育は比較的充実しているので、引き続き取り組んでほしい。教員のケアも必要だと思う。子どもはタブレット端末を使っているが、インターネット環境を使っている中でトラブルもあるようなので、子どもを守る環境整備も必要。遊べる環境も大切で、遊ばせる地域の安全性も大切だと思う。子どもの遊び場を見守る上で地域の方々との関わりは大切だと思うが、コロナ禍で人とのつながりが希薄になっている中、地域の方々との関わりが深められるように、市としても考えていかなければならないと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・お金がなければ事業ができないことは分かっているが、江別市は、現状として、力を入れているものが、観光でもなく、一次産業でもないように見える中で、市の財源をどうやって増やそうとしているのか、よく分からない。札幌市が近く、J Rが通っており、教育機関や病院もあるので、生まれてから死ぬまでずっと住みやすいまちでいてほしい。子育てしやすく、高齢になっても健康寿命が保てるまちになってほしい。今ある良い部分を伸ばしていけば良いのではないだろうか。
- ・子育て世代が増えている中、子育ての支援を手厚くするのが良いと思う。子育て世代が多い市であり続けることができれば、それが魅力になり、市外からもさらに人を呼び込めると思う。また、他にはないが江別市にはあるという店などがあれば、江別市に来る人も増えて、市内の他の場所に行く人も増えると思うし、江別市内でお金を使ってくれるのではないかなと思う。
- ・人口減少を抑制するには、子どもの数を増やすことが大切だと思う。今は、働きながら子育てをしづらい状況だと感じている。以前、市役所で、どこの保育所でも良いので子どもを預けたいと伝えた際に、50人待ちと言われた時には非常にショックだった。江別市ではフルタイムで働くことは無理だと思い知らされた。フルタイムで働きたいのに働けず、働かなければ納税もされないことになる。保育をもう少しサポートしてくれれば、働きたいお母さんが働くことができ、市の税収も増えることになる。限られた財源の中でも、初期投資だと思って、働きながら子育てができるように、もう少し支援を手厚くしてほしい。
- ・大企業の誘致をしてほしい。子どもが遊べるレジャースポット、IKEAなど。北広島市は、アウトレットモールがあり、ボールパークもできるなど、まちづくりが上手だと思う。消費税で市の財政が少しずつ潤っているという話も聞く。働く場があれば、市の財政が潤い、市外への転出も防ぐことができるのではないだろうか。江別市は、工場は多いが、跡地や空き地の活用がうまくなされていないと思う。子どもの将来を考えると、江別市に働き続けられる場所があれば良いと思う。
- ・企業誘致とDX（デジタルを活用した変革）の推進が必要だと思う。今後の地球環境を考えると、大都市への一極集中よりも地方分散のほうが地球環境を維持し続けられると聞いた。人が増えることは地球にとって良いことばかりではないので、バランスが大切だと思う。市役所でも、働き手が少なくなる中、DXによって効率化を進め、人間にしかできない考える分野にもっと取り組んでいくことで、市民サービスを向上させていくことが大切だと思う。



19 市内各高等学校の生徒の皆さん（１回目）

令和４年６月１４日（火） 江別市民会館３階３７号室
午後４時３０分～午後６時２０分

（１）江別市の「強み」「弱み」は



- ・強みは、スーパーマーケットがいっぱいあるところ。札幌市にもＪＲを使うと約３０分で行けること。弱みは、大きな公園などはあるが、高校生などの若者が遊べるところが少ないことだと思う。
- ・強みは、市内をＪＲが通り、札幌市にも近く、洋服を買いに行く時にも困らないこと。弱みは、大雪で、ＪＲが運休してしまうこと。地下鉄があると良いと思う。

- ・強みは、札幌市にも近いが、それ以外の地域にも行きやすく、都会にも田舎にも行きやすいところ。弱みは、大型アミューズメント施設などが無いこと。
- ・強みは、コンビニエンスストアや飲食店が近所に多くあること。弱みは、大雪が降った時に除雪が来るのが遅いと感じること。今年は、自宅から自動車を出すことができない日があった。



- ・強みは、野幌森林公園などの自然豊かな場所がある一方で、大都市の札幌市にも近く、都市と自然の調和がとれているところ。弱みは、高校の帰りに寄ったり、休日に遊んだりする場がないところ。
- ・強みは、ＪＲの路線が札幌市のように複雑ではないので、利用しやすいこと。弱みは、豊幌地区に住んでいるが、大雪が降ると、車もＪＲも移動が難しくなることがあるところ。

- ・強みは、スーパーマーケットや映画館があって、買物や娯楽に困らず、過ごしやすいこと。弱みは、ＪＲ函館本線が新札幌駅を通っていないことが不便だと感じていること。また、江別市は、札幌市に比べると、外国人にあまり認知されていないと思う。
- ・強みは、スーパーマーケットが多く、江別蔦屋書店のような、行って楽しいお店ができたこと。弱みは、今年の大雪で、自宅の車庫が半壊したが、両親が高齢のため除雪ができずに困ったこと。



(2) 江別市にあったらいいと思うもの

(アンケート調査の設問で尋ねる「今、あなたが江別市にあったらいいと思うもの」の選択肢の中から、参加者の皆さんはどれを選ぶかを尋ねました。)

1. 若者向けの大きなイベント(ロックフェス・食のフェスなど)
2. 地元の若者が自由に集まって交流・活動・学習できる専用施設
3. 若者が日常的に楽しめる大型アミューズメント施設
4. 一日中滞在しても飽きない大型公園
5. 文化・芸術活動やスポーツ活動を自由に行い、交流できる拠点施設
6. 子どもから高齢者が集う地域活動(小イベント、ボランティアなど)の充実
7. 若者が市内を自由に移動できる交通手段(地域循環バスなど)の充実
8. 全国に誇れる魅力的な観光スポット
9. その他

・「8. 全国に誇れる魅力的な観光スポット」：江別市にはこれがあると言えるものがあれば強みになるのではないかと思ったから。

・「4. 一日中滞在しても飽きない大型公園」：大型公園は周辺にあまりないので、周辺からも江別市に行こうという気持ちになるのではないかと思ったから。

・「2. 地元の若者が自由に集まって交流・活動・学習できる専用施設」：市内には大学が四つあり、大学生が多いので、このような施設があれば良いと思ったから。

・「2. 地元の若者が自由に集まって交流・活動・学習できる専用施設」：学校の帰りに寄って、勉強できるところができたなら良いと思ったから。

・「6. 子どもから高齢者が集う地域活動の充実」：いろいろな世代が交流できるのが良いと思う。若者と高齢者だと交流が難しくても、子どもと高齢者ならば和やかに交流できるのではないかと思う。

・「3. 若者が日常的に楽しめる大型アミューズメント施設」：大型ショッピングモールを作って、その一部にアミューズメント施設を作ったら良いと思ったから。

・「4. 一日中滞在しても飽きない大型公園」：アミューズメント施設も魅力的だが、アルバイトをしていない高校生にとっては金銭面で多く利用できないが、公園であればお金がかからずに、体を動かして遊べるので良いと思ったから。

・「3. 若者が日常的に楽しめる大型アミューズメント施設」：ゲームセンターやラウンドワンなどは他地域にもあるので、東京都などにある、撮影用のコスチュームを借りることができるようなプリクラ専門店などがあると良いと思う。

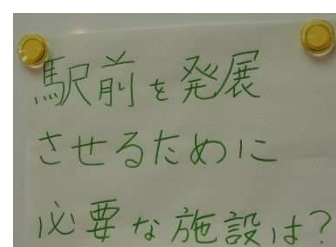
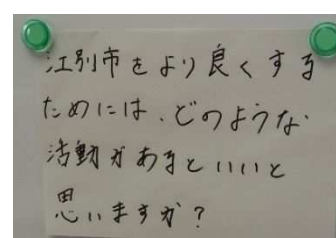
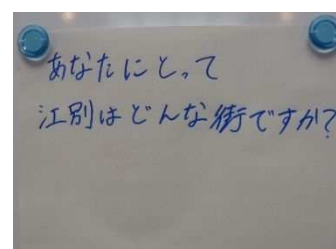
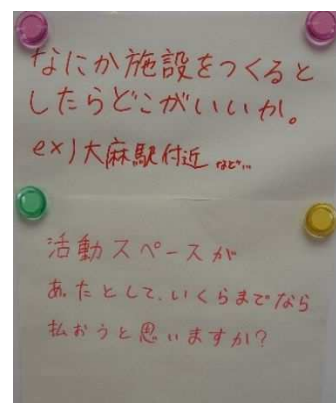


(3) 全校生徒を対象としたアンケート調査で尋ねる内容について

(各校で、アンケート調査で尋ねる設問を考えてもらい、発表してもらいました。)



- ・「何か施設を作るとしたら、どこがいいか」と「活動するスペースがあるとしたら、いくらまで払えるか」の二つ。どこがいいかという施設の場所と、いくら払えるかという料金について尋ねてはどうかと考えた。場所については、交通費を払ってでも行く場所はどこなのかを知りたいと思った。活動するスペースについては、自習できる場所をイメージしている。図書館だと会話ができないので、勉強ができて、話もできる場所があればいくらまで払ってもいいのか、みんなの思う価格設定を知りたい。
- ・「あなたにとって、江別はどんなまちですか」を尋ねてはどうかと考えた。自分で考えた時、ぱっと思いつくものがなかった。他の人はどう思っているのか気になった。
- ・「江別市をより良くするには、どのような活動があるといいと思いますか」を考えた。外国の方や市外の方に、江別市のことをもっと知ってもらいたいと思ったのでこの設問を考えた。江別市に来てもらえるようなイベントや江別市を知ってもらうためのPR活動など、いろいろ考えられると思う。
- ・「駅前を発展させるためには、どのような施設があると良いか」を尋ねてはどうかと思う。JR野幌駅の周りには店があるが、他のJR駅には少ない状況。JR駅の近くに何かあると良いと思った。



20 経験豊富な農業者の皆さん

令和4年6月29日（水） 江別市民会館2階21号室
午後4時～午後6時15分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・大消費地である札幌市に近いことが強み。農作物を早く出荷することができる。港がある苫小牧市や、空港がある千歳市にも近いので、本州にも出荷しやすい。弱みは、水道料金が高いことと、農村部に行く道路が悪いこと。近年は農業機械が大型化しているので、対応できるように改善を考えてほしい。



- ・江別市は麦の里として知られており、自分も麦を作っているが、娘がキッチンカーでハンバーガー店を始め、小麦、レタス、大豆ミートなど、江別産の食材を使っている。原価が高いため、ハンバーガーの値段もそれなりに高いが、リピーターが増えて繁盛している。値段が高くても、おいしくて良い食材を使えば売れることが分かった。六次産業化の事例として、農林水産省の方がインタビューに来た。
- ・食育や農業体験などで、小学生を受け入れている。農業は魅力があるので、もっと情報発信をしたいと思っている。

修学旅行生の受け入れなどもできたら良いと思っている。江別産の小麦は注目されているが、希少価値が高く、価格も非常に高い小麦でもあり、幻の小麦と言われている。小麦を生産している息子が、自分で作った小麦を売りたいと、江別製粉に相談したところ、実現した。日本で消費する小麦は年間600万トンだが、そのうち100万トンは国産で、500万トンは海外からの輸入に頼っている。ウクライナ紛争の件で小麦のことが話題になっているが、小麦だけでなく、大豆なども日本の自給率を高めていかなければならないと思う。

- ・大消費地の札幌市に近いことは、強み。国道275号沿いで直売所を経営しているが、利用者の8割は市外の方。江別市は国道も道道もあり、交通アクセスが良いと思う。一方、雁来の辺りで交通渋滞していることが残念だが、新しい橋ができるような話も聞いているので、それが完成すれば解消されるかもしれない。除排雪について、自分も10年ぐらい前に重機のオペレーターをしていたが、当時は除排雪への苦情などは少なかった。今年は、排雪のダンプカーの数が足りなかったと聞いているため、江別市と江別環境整備事業協同組合が連携して、解決してほしいと思う。
- ・強みは、市内に食料を生産する農地があること。また、東西南北のゴルフ場に30分以内で行くことができ、札幌市が近い。季節によっては風が強いが、そのおかげで空気がきれいである。弱みは、産業が少ないこと。江別市は、昔はなるべく予算をかけないようにしていたが、今は建設的な考え方になったと思う。周りの自治体は、人口



減少対策に必死に取り組んでいるので、このままだと江別市は取り残されてしまわないか心配である。市職員は、もっと海外に行くなどして知見を広めてほしい。また、宅地造成の手続きを市役所で行おうとすると、宅地が増えれば固定資産税が入ってくるにもかかわらず、許可がなかなか出ないと聞く。積極的に宅地造成をして、人が住めるようにしたら良いと思う。

- ・強みは、札幌市へのアクセスが良いこと。公園など自然に触れられるところが近くにある。買物の場もあり、江別蔦屋書店など市外から人が訪れる施設もできている。しかし、駅から離れたところにあるため、車のない人は行きづらい点が弱みだと思う。

(2) 江別市における将来の地域農業の活性化策について

- ・農業者の多くは、自分で作った農産物の値段を決めることができないのが残念。また、直売所で販売しても、見栄えで農産物の良し悪しを判断する消費者も多い。農作物への理解を深めてほしい。
- ・若い世代が関わることが大切。これは他の産業も同じだと思う。また、スマート農業を進める上で、ローカル5G（一般企業や自治体などが、それぞれのニーズや目的に応じて自ら構築・運用・利用できる、自営の移動通信システム）があると良い。農業だけでなく、建設業などでも活用できると聞くので、取り組んでほしい。今年の除排雪は、体制の問題もあるが、中央分離帯や街路樹など、除排雪する際に障害となるものがあることも原因の一つだと思う。
- ・農家はそれぞれ状況が違う。耕作面積、機械の種類、家族構成など、いろいろ違って、同じであるところは、一つもない。目標としているところも違う。自分は、自分が作ったものを買ってもらい、満足していただくことを目標にしている。製粉会社の人に、畑で生育状況を見てもらって、喜んでもらえることも嬉しい。一方で、農家がこれ以上減っていくことは心配。農家は農作物を作っているだけではなく、周りの自然や環境の整備も行っている。農家がいなくなってしまうと、農地ばかりではなく、周りの環境も荒廃する。農家を減らさないようにするために、若い農家に希望を持ってもらえるようにしてほしい。元気づけてあげてほしい。



- ・市内に野菜の加工場があれば良いと思う。
- ・農家一軒当たりの耕作面積が拡大しているが、将来的には、深刻な担い手不足が懸念される。篠津地区にも新規就農者が入ってきているが、農業にはお金がかかるため、自己資金でスタートすることは難しい。農業委員会としても、新規就農者が増えることは良いことだと思っているので、支援策の充実を検討してほしい。また、野菜の生産が増える中でパート人材が不足している。季節や時間が限られるパートなので、来てくれる人が少ない。農業

の短期アルバイトを募集できるアプリもあるとのことだが、人材を確保する体制ができればと思う。パートが増えれば、野菜の品種を増やすこともできると思う。

- ・土壌や作物の研究が大切。海外では農業振興にける予算はとても多い。これからは自国で食料を確保することが大切になってくる。また、ブロッコリーなど新鮮な野菜が生産されているので、市内のショッピングモールなどで、江別産の農作物を売った

ら良いと思う。大麻地区にある大型商業施設を見ていると、たくさんの人が買物に来ているため、新鮮な野菜を売れば、市外からも買いに来てくれると思う。良いものを作って、加工して、売るという取組を行っていくと良いと思う。

- ・後継者不足はどの産業でもある。パートの話があったが、大学生に協力してもらえないだろうかと思った。モノ消費からコト消費への志向が高まる中、江別産食材を用いたキッチンカーの人気があるのは、江別産の食材のストーリーが魅力的であるからだと思う。そのほか、SDGsの観点からも、農業の活性化につなげていけないだろうかと思った。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について



何をするにもお金が必要なので、まずは、産業をつくるのが重要だと思う。また、市内の保育所が増えてきたため、待機児童は解消されているようだが、江別市には、子どもを産むことができる場所は江別市立病院しかないため、子どもを産める環境をつくることも大切だと思う。新規就農者の定着率が100%のところは、営農支援だけではなく、教育の負担軽減など日常生活面でも助成を行っている。江別市でも検討してはどうだろうか。

- ・後継者である息子が、結婚して江別市内に家建てた時、住宅取得支援事業の助成を受けたが、子どもの人数に応じた助成額であるため、満額ではなかった。家建てることは一生に一度のことなので、もう少し助成額を増やしてほしいと思った。また、知人の農家の娘さんが農家の敷地内で喫茶店を始めということで準備しているが、そのような時にも、もっと助成してあげられないだろうかと思う。
- ・行政に対するさまざまな申請をする際、書類の量が多く、とても煩雑なので改善してほしい。
- ・江別市都市と農村の交流センター「えみくる」が話題になっている。江別産の野菜を使って食育も行っているようで、とても良いことだと思う。20年前に子育てをしていた時には、ちょうど学校選択制が導入された時で、地区外の小学校を選択する子どもが増えてしまい、地区の住民は残念がっていた。児童生徒が多い学校で、勉強させたい、部活をさせてあげたいという親の気持ちもあると思うが、結果として地区の人口減少に拍車をかけることになってしまった。
- ・江北地区のデマンド型タクシーが、今年から本格稼働となったが、使う方が多くない。使い勝手や効率の良い方法をもっと考えてほしい。できれば、近所の要所を巡回するデマンド型バスにしてほしい。運転免許を返納した高齢者が、散歩がてらに使えるようなイメージ。直売所にも寄ってもらいたい。デマンド型タクシーよりも使いやすくなるのではないかなと思う。
- ・できるところは宅地造成をして、人口を増やすことが重要だと思う。専門特化した病院が多い札幌市が近いので、市内の病院の患者が少ないのは仕方がないと思う。また、税収を上げることが重要であるため、世界の情報を集めて、施策を考える必要がある。分析が得意な市職員もいると思う。自治体は、生き残りゲームになってきており、マネジメントも大切だが、基本的な研究がなされていなければいけないと思う。



- ・様々な分野が連携することが大切。にぎわいが生まれるような目玉を作ることも大切。目玉は施設だけでなく、子育て支援や観光振興、農業など、ソフト系の取組かもしれない。また、江別市にはアクティブシニアが多いので、まちづくりにもっと協力してもらうことが重要だと思う。



21 野幌地区自治会連絡協議会

令和4年7月6日（水） 江別市民会館2階21号室
午前10時～午後0時15分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・大都市の札幌市に隣接していることは強み。他の地方都市に比べて、人口減少率が低い。また、大学が四つあること、市債残高が近隣都市に比べて少ないこと、森林公園があり、大小含めて公園の数も多い。また、水害に対して強く、一部を除いて心配はないと思う。そのほか、交通事故、特に死亡事故が少ない



ことや、農業が盛んでハルユタカやブロッコリーなどの自慢できる農作物があることなども強み。一方、札幌市に隣接していることは弱みにもなっている。有名な大型店が少なく、札幌市に行けば何でも入手できるため、高価な物などは、札幌市で買えば良いと思っており、これが税収減や雇用に影響している。そのほか、総合病院の数や、第二次産業が少ないため、大学生が卒業後、市外に転出することにつながっていること、また、高齢化が進む中で、買物難民が既に発生していることや、空き家が結構あることなどが弱み。また、観光施設が少なく、地元の農産物を出品できるような道の駅がない。札幌市から客を呼べるような施設を作ってほしい。降雪量についても、雪が多いというイメージがあれば、弱みにつながってしまうと思う。



- ・税収が少なければ、投資も少なくなるが、そのような中でも、市政を着実・堅実に進めてきたと思うし、それは強みだと思う。ただ、無理な投資は避けながら、新庁舎建設や江別市立病院の健全化を進めてほしい。産業面では、基幹産業は農業だと思うが、農業をより一層振興してほしい。協働では、自治会は協働の重要な担い手であると認識しているが、市として、市民活動を補助していくことが必要ではないかと思う。江別市にずっと住んでいる人と、新しく来た方との関係は、結構うまくいっていると感じている。



- ・札幌市の隣であることが逆に弱点でもあり、江別市立病院への要望や、地下鉄を江別市まで延伸してほしいなど、要望内容が札幌市と同様になってきている。また、除排雪について、江別市の降雪量が多いのは、今に始まったことではない。自分は、江別市の除排雪の仕方が悪いとは思わないが、市外から、江別市の冬を知らない転入者が増えているため、隣の札幌市と同じようにしてほしいという要望が増えているように感じる。財源が限られる中で、財政規模の異なる札幌市と同じ要望に対処するのはそもそも難しいと思う。

- ・札幌市内のマンションに住んでいたが、戸建てに住みたいと思い、JRもあるので江別市に転入してきた。強みは、札幌市に近いことだと思うので、札幌市のベッドタウンであるという良さと、まだある土地を生かして、民間任せではなく、宅地造成を進

めてほしい。弱みは、自分も後期高齢者になる中、車の運転免許証を返納した後、公共交通が充実しているかどうか不安である。ＪＲや路線バスのほか、市内循環バスなどを充実させてほしい。病院や江別蔦屋書店などに行きたくても、１時間に１本では困る。今はまだ子育て世代が多く、若い人が多い状況かもしれないが、今後を見据えて対応してほしい。

- ・強み、弱みは、いろいろと変化していくものなので、うまく生かしてほしい。市外から引っ越してきて、最初にびっくりしたことは、三つの地区に分かれていること。子どもにとってはお祭りが３回あるからうれしいと思うし、歴史的な背景や理由があることは分かったが、実際の市民生活とかけ離れた分かれ方をしていると思う。今後、江別市全体でコンパクトになっていく時には、総合的に考えるべき。三つに分けると、無駄も多いと思う。また、江別市に来る方は、ＪＲ江別駅がメインだと思うので、恥ずかしくない風景を作ることが大事だと思う。そのほか、江別市にはドッグランがない。地域を宣伝するため、観光ポイントの一つとして、ドッグランを作してほしい。
- ・以前住んでいた市も市外からの転入者が多かったが、市外からの転入者が多い地域ほど、市民活動の活気を感じた。よそから来た方は、以前住んでいたところと比較するので、良かったら良いと言うし、悪かったら直そうと思うもの。江別市は、大学生や子育て世帯が多いので、市民活動は活発なのではないかと思うし、もっと活発にできる可能性を秘めていると思う。それから、ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）が重要。江別市役所にも、本年４月にデジタル政策の担当部門が設置された。１０年後にはどうなっているのか分からないが、ＤＸを生かして、弱みを強みに変えることができると思う。
- ・強みは、子育て世帯にやさしいこと。保育園の数も増えており、札幌市が近く、子育て支援も手厚い。地価も札幌市に比べて高くない。また、新札幌やボールパークができる北広島市にも近い。そういった華やかなところが近くにあって、その近くに住みたい人が江別市を選んでいる。弱みは、広い土地を生かし切れていないこと。いろいろな人が来る施設が少ないと思う。周辺自治体に住んでいる人が、江別市でお金を使う場所が少ない。そのほか、大学があるのは強みであり、酪農や芸術など、専門的なことを学ぶところが多いが、そのような人たちの就職先が少ないのは、もったいないと思う。



（２）自治会活動の現状と課題について

- ・野幌地区全体では、自治会加入率が年々低下している。令和３年度は６６．７％まで下がった。これは野幌地区には、アパートが多くあることが要因だと思われる。マンションやアパートの家主に、自治会に加入することを入居条件にしてほしいと頼んだが、できないと言われた。また、役員のなり手が不足している。企業の定年延長や、再任用の増加も要因であるが、そもそも自治会に関わりたくないという意識が大きな要因だと思われる。また、住区会館の維持に苦労しているほか、コロナ禍で、自治会の活動や行事が減って、２、３年やらなくても問題なかったのだから、もうやらなくてもいいのではないかという意識が根づく、自治会の衰退につながってしまうことに不安を覚える。どの自治会も、役員の輪番制を導入していると思うが、高齢化の影響で、集金などの業務を行うことが難しくなっている。

- ・自治会の予算増が見込めない中でも、いろいろとかかる支出がある。最近、排雪費が高騰している。そうすると、自治会費を上げなければならないが、自治会の会議で地域住民に説明すると、年金生活者も多い中で、どう思われるのかが心配である。
- ・市は、自助・公助・共助や市民協働と言っているのに、市職員も、補助でもいいので役員になってほしい。



- ・役員のなり手不足は、やはり、参加意識が希薄だからではないだろうか。地域のお祭りがあると、多くの子どもや親子は参加するが、参加意識は全体的に希薄だと思う。

- ・自分の自治会の役員は、全員現役世代。現在、会長から、会計監査までを入れて約20名だが、60代以上は2名しかいない。現役世代でもできる自治会活動にすることが重要。高齢化が進むと、役員と参加する住民の意識が離れてしまう。そのため、現役世代に企画してもらい、口を出さないようにしている。コロナ禍で気付いた大切なことは、

行事の回数ではないということ。行事のために無理すると、役員がいなくなってしまう。そこで出した結論は、生活に必要な自治会に生まれ変わる。無理なく活動できる体制にして、例えば、自治会費は会費ペイ（Web）を通じて振り込んでもらうことなどを考えている。会費も、排雪、ごみ、街灯と、使用目的ごとに分けた。電気代、排雪費、ごみステーションにはこれだけの費用がかかり、それを自治会が集金しているだけで、生活に絶対必要なものが自治会費に含まれているので払ってくださいと言うと、皆さんは大体払ってくれる。また、今、スマートフォンの普及率は約8割なので、支払い方法はスマートフォンを利用できる人に合わせて、スマートフォンが使えない人は、今まで通りの方法で集金することにした。自治会回覧も、スマートフォンが使える人とはLINE WORKSで共有することにして、回覧板は回さない。そのほかの人には、今まで通りの回覧を行っている。今後、2025年問題、(団塊の世代800万人全員が75歳以上になる)、2040年問題(65歳以上の高齢者の人口がピークになる)、2050年問題(日本の人口は約1億人まで減少、労働力人口の減少、インフラの老朽化による地方の消滅など)などの危機が日本に来る前に、自治会の運営体制を整えておいて、このような危機こそ、人材確保の好機と捉えて取り組んでいきたい。

- ・自治会の活動というと、回覧板、お祭り、集金に来るというイメージだと思うが、そのほかに、自治会は何をしているのか分からない若者が多いと思う。自治会は、楽しいことを行っているし、必要なこともやっているが、事務的な内容を効率化して、楽しそうな内容を多く見せることで、若者も集まるのではないかと思った。戸建ての世帯の加入率は高いが、加入率が低いアパートに引っ越して来る方にも、自治会での会費の使われ方を理解してもらえれば、加入世帯は多くなると思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・何をするにもお金がかかるので、市の財政強化が重要だと思う。第二次産業の誘致が重要。例えば、期限付きで市税を優遇するなど。まだ市内には空き地があるので、そこに製造業を呼び込むのはどうだろうか。次に、道路の除排雪の充実。個人的には決して悪くないと思っているが、歩道の交差点の角は、もう少し除雪してほしい。もう一つ、新庁舎の建設。私は、よく市役所に行くが、夏は暑くて辛い。また、狭いし、市職員が気の毒である。仕事の効率も非常に悪くなると思う。あらゆる補助を有効活

用して、早く新庁舎を建設するべきだと思う。そして、アンケート調査で、満足度が低くて重要が高い項目を優先的に取り組むべきだと思う。



- ・市税収入が少ないのは、大学生が多いこともあると思うが、税収を増やすには、企業誘致や雇用の創出が必要だと思う。また、地域医療も重要であり、江別市立病院の経営改善が必要だと思う。産み育てる環境も、引き続き充実させるべきだと思う。子育て支援につながる手当や給付も増やしていくことが必要ではないだろうか。
- ・市の財政は厳しいが、若い世代が多く入ってきて、人口減少が抑制されているので、子どもたちの成長のために取り組むとともに、市民要望の高いものから、順次取り組んでもらえたら良いと思う。
- ・保育園や公園など、子育て環境は充実していると思うが、少子化対策は家族や企業、社会全体で取り組むべき重要な課題であり、合計特殊出生率をさらに上げていかなければならないと思う。
- ・やはり、安全安心が重要。「江別市は、安全安心だよ」と言われることが大切だと思う。市、警察、公安委員会、市の教育機関や学校、大学、自治会連絡協議会などが集まった、安全安心なまちづくりを協議する機関をつくってはどうか。安全安心を売りにしていけるようにしてほしい。
- ・現役時代に、10年間にわたって同じ方法で仕事をしていたら、その会社は潰れると教わった。自治会も同じだと思っている。同じ目的でも、手法が一緒ではダメだと思う。そのような中、これからはDXが重要だと思う。情報通信技術はあくまでも手段であり、目標が重要。江別市をこうするという目標を決めて、DXを進めていくことが重要。地域経済を市内で循環させるために、DXによって、地域通貨を作って、市外にお金を流出させないことも可能である。今はないものでも目標を立てて、DXで作り上げていく必要があると思う。



- ・江別市がベッドタウンである位置づけは変わらないと思っている。住みやすさを追求していくことが大切だと思う。また、札幌市や北広島市の動向に加えて、北海道新幹線が札幌市まで延伸されることなどを意識して、江別市独自のまちづくりを進め、ベッドタウンとしての強さを作っていく必要があると思う。今後、人口は減少していくと思うが、ある程度、転入してくる方もいると思う。その方々が、高齢化していくことを見据えて、公共交通など、今後の高齢化に向けた都市基盤づくりの準備を行っていく必要があると思う。



22 子育て支援センターすくすく利用者

令和4年7月8日（金） 子育て支援センターすくすく
午前10時～午前11時15分

（1）江別市の「強み」「弱み」は

・強みは、買物や子育て支援センター、図書館などに車で行く時、駐車場に停めやすいなど、ゆとりがあるところ。イオン江別店は、映画館のほか、洋服、化粧品、食品、雑貨などが揃っていて、子どもが迷子になっても探しやすいので安心だと札幌市に住む友人が話していた。江別市子育てひろば「ぽこ あ ぽこ」も便利だという声を聞いたことがある。



- ・強みは、公園が多いこと。最近は、小学生の意見を取り入れながら遊具を更新しており、遊びやすい公園が増えていると感じている。
- ・弱みは、幹線道路は広いが、少し中に入ると、狭かったり、途中で狭くなる道路があったりすること。また、JR江別駅周辺に買物をするところがないので、スーパーマーケットがあれば良いと思う。



- ・江別市生まれで、札幌市に住んでいたこともあるが、住みやすいので江別市に戻って来た。きれいになっていく公園がある一方で、自分が住んでいる近所の公園は老朽化が進んでいる。江別市出身なので、自分は江別市の特産品を知っているが、あまり出回っていないため知られていないことが残念。もう少しPRしてほしい。
- ・水遊びをさせることができる公園でも、タイルがはがれていることがあるので、遊ばせるには危険ではないかと思ってしまう。湯川公園も、昔は水辺にいろいろな生物がいたが、今は水が汚れてきていると感じる。きれいな水が流れる公園にしてほしい。
- ・遊具は更新されているが、乳幼児が遊べる遊具が少ないと思う。保育士として幼児を連れて市内の公園に行くことがあるが、小学生には登れるが、未就学児には登れない遊具もある。小さな子どもが利用することも想定して設置してほしい。
- ・強みは、札幌市が近くて、すぐ行くことができること。生活の便利さと、ほどよい自然が両立している。弱みは、大企業が少ないので税収が少ないこと。勤めるところがあることによって人が集まると思うので、もっと企業誘致をするべきだと思う。
- ・乳幼児を遊ばせる際に、公園に柵がないことが不安。子どもは急に車道に飛び出してしまうので、注意しながら遊ばせている。
- ・札幌市のベッドタウンだが、交通アクセスが非常に弱いと昔から思っている。自分が



学生時代に、江別市から札幌市内の高校に通学していた時も、ＪＲ駅に接続するバスの便数が少なく、自家用車で送迎してもらっていた子が多かった。自分は自転車で通っていたが、風が強くて大変だった。その状況は今も変わらないので、将来、子どもが通学することを考えると、不便さを感じている。

- ・自分の夫が、ＪＲで札幌市内の会社に通勤する時、行きのバスの便はあるが本数が少なく、帰りが遅い時に間に合うバスの便はない。ＪＲ駅の周辺に住んでいる人は札幌市まで通いやすいかもしれないが、ＪＲ駅から離れている人は不便だと思う。通勤・通学の時間帯に、ＪＲ駅に接続するバスの便がもう少し増えたらよいと思う。ハルユタカや町村農場、レンガなど、江別市の魅力はいろいろあるので、もっと推していけば良いのではないだろうか。ハルユタカは道外でも人気で、なかなか手に入らず貴重とされている。
- ・企業が少なければ、税収は増えないので、弱みだと思う。今は新しい宅地とともに人口が増加しているが、いつかは行き詰まると思う。



- ・草地の上に遊具がある公園で、草が伸び過ぎているところがある。アダプトプログラムにより管理されているという看板が立てられている公園もあり、とても良い取組だと思うが、民間や自治会などの力を借りながら、もう少し細やかに管理をすることができないかを感じる。
- ・強みは、高速道路が近く、インターチェンジも二つあるので、子どもを連れて市外の遊び場に行く時のアクセスが良いこと。小樽水族館や岩見沢市内の公園に行く時も、高速道路に入るまでの距離が短く、便利だと思っている。弱みは、市内に大学が四つあり、多くの大学生が市内にいますが、卒業すると、その多くが市外に転出してしまうこと。卒業するまでの間に、江別市の魅力を感じてもらうことが大事だと思う。

(2) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・大学生が卒業後、市外に転居することは、ある程度仕方がないことだと思うが、結婚や出産、家を建てる時など、人生の節目に、江別市に戻って来たいと思わせることが大事だと思う。出産・子育て世代など戻って来た人たちを支援していけば、人口減少を緩和させる対策になるのではないだろうか。また、市外の職場へのアクセスの良さ、通勤のしやすさを、端的な言葉で、見たり聞いたりした人の印象に残るようにアピールしてはどうか。
- ・以前、大阪市のベッドタウンとなっている吹田市に住んでいたが、そこには大きな企業もあり、企業が自治体やスーパーマーケット、病院などと連携して、まちづくりに関する取組を行っていた。企業イメージが高まり、自治体も予算面で助かるという、ウィンウィン（win-win）の状況であった。
- ・市外から宅地を求めて、転入する人が多い。その時、江別市のほかに、恵庭市や北広島市も選択肢に入ると思うが、子育てのしやすさは選ぶポイントとなると思う。他の自治体ではやっていないような取組を、江別市が行うべきだと思う。例えば、子育て支援センターのような場所を、土日や祝日も利用できるようになれば、共働き世代にとっての魅力となり、他の自治体に差をつけることができると思う。また、他自治体の例で、医療費の助成や障がい児の受入れなどを充実させることによって、隣の市か



ら人口が流れてきているところもあった。住みよさを求めて、住む場所を探している方々を、いかに江別市で受け止められるか、他の自治体との差別化が重要だと思う。

- ・ 仕事があって生活費を得ることができて、子育て支援が充実していれば、子どもが増えて、結果として人口も増える。仕事については、隣接する札幌市内の就労環境を生かすことも考えられる。仕事は札幌市で、住む場所として江別市を選んでもらえるように、アクセスを充実させる方法でも良いのではないだろうか。千葉県流山市は、都心のベッドタウンとして、子育てしやすさや住みよさで選ばれて人口が増加していることで有名だが、そのような考え方は江別市にも通ずるのではないかと思った。共働きの世帯が多いと思うので、共働き世帯が住みやすいと感じるまちになってほしい。
- ・ 子育て事業は、比較的充実していると思うが、それは、江別市に住んだことがあったり、学生時代を過ごしたりしたから分かる良さであり、他の人には伝わりづらい。自分も子どもを産むまで、江別市の子育て支援や環境が充実していることを知らなかった。もう少し強くアピールしてはどうだろうか。
- ・ 市内の大学に通っていた学生には、卒業後に転出した後、再び戻ってきてもらうよりも、できれば、引き続き市内にとどまってもらう方が良いと思うので、そのためには、産業の振興が必要だと思う。
- ・ 自分は、江別市の広報広聴課の Twitter をフォローしているが、今どきのお母さんたちは、YouTube、Instagram、TikTok で情報を得ている。子育て支援の情報発信は、若い親世代が使っている SNS も使った方が良いと思う。ハルユタカもだいぶん前に芸能人がテレビで紹介していた。江別市も、もっといろいろな方向にアンテナを張って情報を収集し、流行っている SNS を使って情報発信をすべきだと思う。遊具が遊びやすいことや、江別市子育てひろば「ぽこ あ ぽこ」が便利なことなどを、SNS で発信すれば、SNS をよく見ている働く世代や子育て世代の目に止まり、江別市に住みたいという人が増えるかもしれない。
- ・ スマート農業（ロボットや AI など先端技術を活用する農業）が進んでいるので、江別市内の複数の大学をつなげて、スマート農業を推進し、これから増えることが心配されている休耕地を市内大学の卒業生に引き継ぐことができないだろうか。
- ・ 保育園で預かってもらえる時間が午後 7 時までだと、他市で働くフルタイムの方は、仕事が終わって、JR で江別市に帰ってきてからでは、迎えの時間に間に合わない。朝もギリギリになる。自分が昔住んでいた兵庫県芦屋市では、市が保育時間を 1 時間補助して午後 8 時まで延長していた。保育園で預けられる時間が長くなれば、遅れずに迎えに行かなければならないという親の心理的なプレッシャーが軽減されるのではないだろうか。保育時間が 1 時間延長されると、正社員でも江別市に住んでいれば働き続けられると考えたお母さんたちが転入してくてくれるのではないかと思う。
- ・ 母子モ（子育て支援アプリ）や、そのほかのサイトでも良いが、江別市内の各子育て支援センターで行われているイベントをまとめて見ることができる仕組みがあれば良いと思う。



23 江別地区自治会連絡協議会

令和4年7月12日（火） 江別市コミュニティセンター1階会議室
午後6時～午後8時10分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・道外から江別市に転入してきた時、最初は「ずい分田舎だなあ」と思った。特にＪＲ江別駅の周辺がさびれていて、空き家があり、そう感じた。しかし、住んでみると、自家用車に乗れば１０分位行くと、スーパーマーケットが１０か所ぐらいあり、パン屋が多く、乳製品も豊富だと感じている。札幌市にも隣接していて交通アクセスが便利だと思う。一方で、ＪＲ江別駅周辺の建物が老朽化している。再開発を検討すべきではないだろうか。



- ・強みは、札幌市に近いこと。その割に、家が建てやすい。適度に田舎で、ちょっと行けば田畑や牧場もある。ただ、弱点は、自家用車の利用が前提であること。バスを利用することを考えると、住む条件が悪くなると感じており、取り残される高齢者を危惧している。公共交通について、もっと考えないと、ＪＲ駅から離れたところに家を建てる子育て世代が一気に増えている中、この世代が定着すると、今よりもっとＪＲ駅から離れたところが高齢化し、３０～４０年後に交通弱者が増えるという状況が来ると思う。



- ・全国に友人や親戚がいるが、結構、南海トラフによる地震の発生を恐れている人が多い。北海道も日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で津波が来ると予測されているが、本州の知人の中には、できれば住んでいる土地を売って、津波被害が少ない地域に移りたいと思っている人も少なくない。そんな中、江別市は、大雪の被害はあるものの、災害の発生があまりない土地であることが強みではないだろうか。もっとアピールしても良いと思う。また、江別市は麦の里であり、東京都心のパン屋さんでも「北海道江別産」と書いてあるらしい。ただ、小麦（グルテン）が健康によくないというイメージが広がっていることが、将来的には心配である。除排雪については、除排雪事業者の高齢化が進んでおり、除排雪の技術を高めることは難しいと思う。雪は同じ時期に降るし、建設業の人口も減っているので、除排雪の担い手を増やすことも難しいと



思う。発想を変えて「そこまで除排雪はできません」という考え方にして、そのことを理解してもらうことに、力を入れた方が良いのではないだろうか。昔に比べると、きれいに除雪していると思う。

- ・強みは、札幌市に近いこと。市域が細長い市なので、近い所と遠い所があるが、総じて、札幌市は通勤圏であり、ベッドタウンとして支持されている。緑が多く、大雨が来ても水害の心配が少ない地域になりつつある。緑や田畑が多く、新鮮な野菜が収穫されるので、子育て世代に評価され

ている。公共交通機関については、バスやJRを利用しようとする、バスは各社1時間に1便の場合もあり、不便を感じる。いずれ、運転免許証を返納したら、どうやって生活すれば良いのかと考えてしまう。それから、雪の問題。今は各自、個人的に排雪したり、事業者に排雪を依頼しているが、高齢者や生活が苦しい方もいるので、ワンシーズンに何回か、排雪をしてもらえると有難い。

- ・弱みは、高齢化が進んで、年少人口が減っていること。税収が少ないので、できる事業が減っていくことになる。公共交通機関については、自宅からJR駅まで徒歩で20分かかるので、学生の頃はJR駅までバスを利用していたが、日中や夕方は便数が少なく不便だった。また、観光入込客数が少ないことも、歳入を考えると、弱みだと思う。強みは、大学の数が多いことや、子育て世代の転入が多いこと。ただ、大学生が卒業後に市外に転出することが多いので、転出を防ぐことができれば、強みになるのではないと思う。生活はしやすいと感じている。JR野幌駅周辺は店も多く、映画館もあり、適度に娯楽も楽しめる。観光地ではないことが、住みやすさの要素になっているかもしれない。

(2) 自治会活動の現状と課題について

- ・自治会会員の不足はないが、活動の後継者を考えると、どう継承していくかが課題。活動のバトタッチのタイミングを見計らっている。上手くバトタッチできれば、後継者ができる。あくまでもボランティアなので、自分もそうだが、人のため、地域のために何かしてあげたい、そしてその結果、自分も幸せになる、というマインドが必要。会員が自治会活動への理解を持ち、お互いに関心を持ってやっていくことが大事だと思う。
- ・自治会の組織率は高いが、高齢化が進んでいる。地域には若い人が転入してきているが、自治会活動を維持できるのか課題。任意参加なので、役員になることを強いることはできない。最近は就業年齢も高くなっており、役員をやってくれそうだなと思う人ほど、再雇用で働いている。各事業部長は1年持ち回り制だが、1回持ち回った後、どうするのが問題になっている。民生児童委員も同じである。



- ・高齢化が課題。若い世代も自治会に入ってきているが、仕事をしているので、役員のなり手が不足している。そこで、規約を改め、道路交通部を廃部して私道の除排雪を軽減するなど、役員の仕事を軽減化することにした。総会の回数を減らす工夫なども行っている。
- ・非加入者が多く、アパートが多い。最近できたアパートは、オートロックで、勧誘したくても難しい。不動産業者については、自治会活動に協力的な事業者と、そうでない事業者がある。アパートが今後も増えていくと思われる中、市も不動産業者に働きかけた方が良いのではないだろうか。
- ・自治会役員の担い手が不足している。高齢化に加えて、住民の関心の低さが課題。市役所にも自治会に入るメリット、デメリットを尋ねてくる人が多い。任意加入ではあるが、非加入の人も、防犯灯の下を通るだろうし、自治会で除排雪された道を通るので、自治会活動に関心を持ってもらいたい。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・自分は、親やきょうだいの家族とも一緒に住んでおり、多世代・多子の環境だが、世の中はそうではない。産んでいる世帯は産んでいるが、2人目を産むことをやめてしまう世帯にとって、その原因、考えは何なのか。経済的な支援だけではなく、何か必要なのか。そこを分析することが必要なのではないだろうか。
- ・若い世代が多いが、学生は税金を納めていない場合が多い。納める歳になると卒業して転出してしまう。また、産業がないので、固定資産税も少ない。若い世帯が納める税より、子育て支援にかけている予算の方が多いと思う。年齢構成のバランスを考えて、三世代ともに暮らしやすいまちづくりを進めてほしい。また、自分が江別市を選んだ理由は、自然が多いこと。緑や自然を壊さないでほしい。
- ・日本の人口が減ると、今後10年間で、15兆円規模の損失になると聞いている。経済規模が縮小すると、全てに影響するので、子育てや教育に力を入れて、10年、20年、30年の長い視点でまちづくりのあり方を考えてほしい。人口減少社会は、江別市だけ頑張っても好転することではないが、江別市だけでも頑張してほしいという気持ちがある。
- ・若い人は、野幌地区の市街地周辺に行ってしまう。空洞化した江別地区の市街地中心を、どう活性化していくかが問題。自分の子どもが育った後も、そのまま江別市内に定住するまちであってほしい。
- ・安全安心が一番大事だと思う。次に自然環境。今、心配しているのは、自治会内で、結婚しないまま実家で同居している40～50代が多く、このまま高齢化するのではと思っている。未婚対策が必要なのではないだろうか。
- ・市民アンケート調査結果で、公共交通や除排雪へのニーズが高いので、今住んでいる人の望むこととして、取り組むべきだと思う。また、今ある江別市の強みを生かしながら、子育て支援、教育、福祉などの推進により、住み良さを伸ばしていくことで、他自治体への流出を防ぎ定住につなげていくとともに、江別市への移住にもつなげていくことが大事だと思う。



24 江別視覚障害者福祉協会

令和4年7月19日（火） 江別市総合社会福祉センター
午前10時10分～午前11時35分

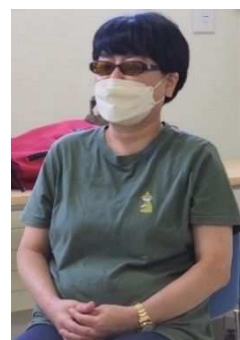
（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、四つの大学があって、学生が多いこと。弱みは、少子化で子どもの数が減ってきていること。
- ・強みは、札幌市に近く、便利なこと。弱みは、札幌市に近いために、お金が札幌市に流れてしまうことや、地価が上がってしまっていること。自分の息子も江別市に家を建てようとしたが、高くて諦めて、市外に家を建てた。若い人が家を買おうとしても難しくなっているのではないかな。また、「江別市と言えばこれ」というものがない。あらゆる支援も、札幌市にならって、江別市も同じように行うということが多いと思う。
- ・強みは、野幌森林公園もあり環境が良く、住みやすいこと。高齢者施設など福祉関係の施設が多数あることも良いと思う。弱みは、市内に大企業が少なく、就職先が少ないこと。もう少し、若い人が働けるような場所があって、活気があると良いと思う。また、江別市内の農業者が頑張っていて、江別産の農産物が有名になっていることは良いことだと思うが、農業や市内の事業者の後継者が不足していることが弱みだと思う。後継者の確保や育成に向けた支援が必要だと思う。
- ・北海道立野幌総合運動公園があるが、地元には強いスポーツチームがないことが残念。また、障がい者が参加できるスポーツに、もう少し力を入れてほしいと思う。老朽化したスポーツ施設も改修してほしい。



（２）身近な生活で不便に思うこと

- ・除排雪と道路の舗装。歩行しづらいので、除雪や舗装に力を入れてほしい。自転車の運転マナーが悪いのではないかなと思う。自転車専用道路を整備するなどしてもらえると安心して歩くことができる。バス路線もルートの変更があって、不便になった。江別市総合社会福祉センターに来るにも遠回りしなければならない。
- ・いつも盲導犬と歩いている歩道があるが、そこに、停止ブロックをつけてほしい。停止ブロックさえあれば、自分の足の裏で分かる。停止ブロックがないと、どこで歩道が終わるのか分からず、車道に出てしまうことがある。盲導犬も、かなり手前で停まることがあり、車の音がないと、道路を渡り切ったかどうか判断できないことがある。信号機がない道では、車は停まって横断するように合図をしてくれているようだが、自分も盲導犬も、合図が分からない。信号機がないと音で判断することもできない。札幌市などが取り入れている、信号が変わるとスマートフォンが知らせくれる仕組みを取り入れてほしい。
- ・市内でも、点字ブロックがしっかりと整備されているところと、整備されていないところがある。点字ブロックがあるところは、健康のためにも歩くようにしているが、交通量が少なく、信号機がない交差点を渡る時、車の音がしないと、判断がつかない時がある。音が鳴らない信号機でも、ボタンを押すと信号の色を教えてくれるものもあるので整備を検討してほしい。また、街路樹が点字ブロックの上に覆いかぶさって



いるところがあり、歩道を確認できず、危ない場所がある。



- ・除雪をしっかりとしてほしい。歩道が雪で埋もれていたり、歩道が細くなっている時は、転んだりする。人に誘導してもらっても、足の裏から得られる情報がなさすぎる。江別市は大好きなので、ずっと住みたいと思っているが、冬になると、除雪のことを考えてしまい、嫌だなと思ってしまう。また、店をやっている人は、歩道に排雪する場合は結構あるように感じる。歩く人のことも考えて、もう少し親切にしてくれたらと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・せっかくある北海道立野幌総合運動公園を生かし、スポーツでまちを活性化してはどうだろうか。プロスポーツ選手になりたい子どものために、まずはスポーツチームをつくるなど始めてみてはどうか。
- ・お年寄りが増えているので、お年寄りにも働いてもらうことが必要になると思う。労働だけではなく、生きがいづくりや雰囲気づくりなどで活躍してほしい。また、お年寄りだけでなく、障がい者も子どもも交わって、江別市のためにみんなで何かできること、みんなが一つになれるような社会参加を企画してはどうだろうか。若い親たちは子育てを抱え込んで大変なので、地域で子どもを見守る仕組みなど。障がい者が歩いていたら声かけや支援が自然に行われているような、弱者への呼びかけ、声かけが、日常、みんなできているまちになってほしい。共生社会や障がい者への理解を深める企画がコロナ禍により中止されていることが残念である。みんな閉じこもらず、もっとまちに出るようになれば、孤独死なども防げるのではないだろうか。また、デジタル化が進み、どんどん便利になっていくと思う。デジタルを活用して、「こういうことができるんだよ」ということを伝えて、「私はできないから無理」という人をなくしていくことが大事だと思う。デジタルが使えずに損をしている人がいる。スマートフォンの操作など、デジタルについて教えてもらえるところがあれば、やろうかなと思う人も増えると思う。



- ・助け合う輪を住民みんなで育てて広げていってほしい。相手の気持ちになって行動する精神をみんなで持てるようになってほしい。
- ・ボールパークのような、とても大きな企業ではなくても、みんなが働けるような、少し大きめの会社を誘致できたらと思う。
- ・コロナ禍で、視覚障がい者への理解を深める出前講座が中止になっている。参加した子どもたちは盲導犬や白杖のことを学んでくれているが、参加していない子どもたちは知る機会がない。大事な学習機会だと思うので、再開してほしい。

- ・未来は、遠い先だけでなく、明日も「未来」である。いろいろな障がいがあるが、目から入る情報はとても多く、それを失った私たちは、明るく過ごすために、怪我や火傷をしないように、また、病気にならないように、日々、一生懸命、努力をしている。明日も未来であり、まずは今、明日をより良くしていくことが大事であることを忘れないでほしい。



25 市内各高等学校の生徒の皆さん（2回目）

令和4年7月19日（火） 大森公民館2階研修室2号
午後4時35分～午後6時40分

1 若者の遊び場について(高校生アンケート調査結果に基づくテーマ)



- ・ J R札幌駅周辺で遊ぶことが多いが、頻繁には行けないので、江別市内にカラオケや複合アミューズメント施設のように、体を動かし、声も出せるような、大人数で楽しめる施設があれば良いと思う。
- ・ J R札幌駅や J R新札幌駅付近に遊びに行くことが多い。江別市内に、みんなで盛り上げられるような施設があると良いと思う。

- ・ 寮で生活している生徒は門限が厳しく、イオン江別店ぐらいしか遊びに行くことができない。また、通学している生徒は、札幌市民が多いので、帰りに J R札幌駅に寄っているようだ。



- ・ 江別市内にもイオンがあり、利用している高校生も多いと思うが、江別市にないものとして、砂川市にある北海道子どもの国のような、屋内と屋外に遊具がある広い場所や、複合アミューズメント施設のような、食べる場所と体を動かせる場所が一体になった施設があると良い。
- ・ 江別市内でも公園や体育館で体を動かすことはできるが、複合アミューズメント施設のような、みんなで楽しめる施設があると良い。
- ・ 公園は雨が降ると利用できないので、屋内施設で、雑談するスペースと体を動かして交流できるスペースがあると良い。場所は、J R駅の周辺が良い。

2 各学校における授業スタイルの変化について



- ・ 新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言後、リモート授業を行っていた。今は、1年生のみタブレット端末を使用した授業を行っている。校内でも Wi-Fi が使えるようになった。
- ・ マスクをして夏服を着て登校していたが、今はジャージで登校してもよくなった。
- ・ 授業中でもスマートフォンで調べることができるように、効率的になったと感じている。

- ・ 朝学習や朝テストを行う際、紙ではなく、スマートフォンを使って行うようになった。
- ・ 去年はオンラインでの授業が多かったが、今年是对面での授業に戻りつつある。オンライン授業は、黒板が見えなかったり、先生とのやり取りがあまりできなかったりしたので、自分是对面授業の方が良いと思う。現在でも、教室の中央付近にタブレット

端末が設置されていて、休んでいる生徒に授業を配信している。Webを使ったテストも行われている。

- ・緊急事態宣言中、授業は全部オンラインになった時期もあったが、自宅の通信環境によって画質に差があるので、対面授業の方が良いと感じる。



- ・緊急事態宣言後は、オンラインでの授業となった。対面授業でも、授業中に分からないことがあればタブレット端末を使って調べても良いことになったほか、課題の提出や先生からの連絡もオンラインで行うことが多くなった。また、オンラインで、先生から教えてもらうこともできるようになったことで、先生との距離が近くなり、勉強しやすくなったと感じている。

- ・休んだ生徒にLINEで板書の写真を送ることができるようにするため、LINEの使用を認めてもらえるように、生徒会から高校に申請をしている。

3 将来の自分について

- ・部活で怪我をした際に、柔道整復師の方にお世話になったことをきっかけに、病院で働く理学療法士になりたいと思っている。
- ・3年生になって進路を考えた時、自分は小中高と学校の保健の先生と仲が良かったが、児童・生徒と交流ができて楽しそうだったと思ったので、養護教諭になりたい。
- ・ジムのインストラクターを目指しているが、将来的にはジムの経営者になりたい。体を動かすことが好きで、若者にも、高齢者にも、筋肉のつけ方を教えていきたいと思っている。
- ・救急救命士になりたい。その後、救急救命士を育てる先生になりたいとも思っている。
- ・今は夢を探している状態で、これから、えべつ未来づくりミーティングのようないろいろなイベントに参加するなどして、やりたい仕事を見つけていきたい。
- ・幼いころからゲームが好きなので、ゲームに関わる仕事がしたい。ゲームプランナーになりたい。



- ・中学生の時に海外に留学した際、英語を話すことができれば、自分の知らない文化をもっと知ることができることに魅力を感じた。また、接客も好きなので、キャビンアテンダントになりたい。
- ・鹿やイノシシが農業環境に及ぼす悪影響が問題になっている。また、森林を守るためにも、猟師になりたい。

- ・今は、明確になりたい職業はないが、海外と日本の文化をつなげる職に就きたい。海

外に留学したことがあり、また、来日している留学生から様々な文化を知ることができて、世界の文化に興味を持った。

- ・映画製作会社で働きたい。幼いころから映画を観ることが好きで、自分も製作する側に回りたい。

4 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・イベントを企画・実施してほしい。やきもの市には、若い人はなかなか行かない。肉フェスなど、若い人が行くようなイベントを開催してほしい。ビアガーデンの時の出店のような店がたくさんあるイメージ。それから、江別市内のバス路線の充実。これからますますバス路線の充実が必要になってくると思う。



- ・江別市に限らず北海道全体の除排雪にかかる費用が少ないと聞いたが、充実させてほしい。
- ・医療費の助成。他の自治体から来ている寮生の中には、医療費が無料の生徒がいる。江別市でも、もう少し医療費の負担軽減をしてほしい。子どもは怪我をしやすく、病気にも結構かかると聞くので、市が負担をしてあげると子育てをしやすくなると思う。
- ・子育てと教育。江別市内には、保育園や幼稚園が意外に少ないと思ったので、増えれば、仕事と子育てが両立しやすくなるのではないかなと思う。
- ・江別市の中心を通る地下鉄があると良いと思う。JRやバスは雪の影響で遅延したりするが、地下鉄はそういうことはなく、札幌市に通勤しやすくなり、人口が増えるのではないかなと思った。
- ・安全安心なまち。最近、ニュースを見ると亡くなる人が多いと感じた。一人ひとりの命の大切さを見直してほしい。
- ・高齢者が増える中、高齢者が自動車を運転する機会が多いと、事故も増える。バスやJRの本数を増やし、高齢者がもっと利用するようになれば、交通事故が減るのではないかなと思った。
- ・環境に力を入れてほしい。江別市は人口の多い東京などと違って、自然があり、土地があり、公園が多くあるので、施設を作って人を呼び込んではどうだろうか。
- ・江別市は自然が多い。最近、えべつ花火が開催されたが、祭りはみんな好きなので、自然を生かした、大きなイベントを開催し、集客してはどうだろうか。



26 市内各中学校の生徒の皆さん

令和4年7月21日（木） 江別市民会館2階21号室
午後4時30分～午後6時10分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、学校の教育で、ALT（外国語指導助手）の授業が頻繁にあること。弱みは、除排雪の状況。アンケート結果でも、どうにかしてほしいと思っている人も多いので、改善が必要だと思う。
- ・強みは、小さい子どもがいる家族が転入してきていること。保育園や幼稚園、学校など教育環境が充実していると思う。
弱みは、除排雪。高齢者が増えてくる中で、道路や歩道の除排雪ができていないと、ひとり暮らしの高齢者が大変だと思う。
- ・強みは、子育て世代の方が転入してきていることで、子育てしやすい環境であること。
弱みは、大きな道路の沿線やＪＲ野幌駅の周辺だけが賑わっていること。自然を大事しながら、江別市全体で賑わっていった方が良い。
- ・強みは、札幌市に近くて、ベッドタウンに最適であること。札幌市に近いけれど、緑が多く、高い建物があまりないので視界が開けていて、静かで住みやすい。服の店や病院など必要な施設は全部揃っている。また、教育にお金をかけていると思うし、公共交通に関しても、自分は満足している。農業が学べる酪農学園大学をはじめ大学が多くあり、高齢者向けの施設も多く、高齢者にもやさしいと思う。弱みは、学校で良く話題になる、不審者が多いこと。また、除雪のことと、子どもを産める産婦人科が一つなので、江別市で子どもを産むとなると考えてしまうこと。最近は、北海道百年記念塔を解体するか否かが話題になっていて、解体にお金がかかると、他のことにお金が使えなくなるのではと心配している。



- ・強みは、子育て環境が整っていること。配付資料を読んでもそう感じた。昨年の学校祭で、「江別市は住みやすいのか」を、いろいろな観点から調べた。独自に行ったアンケートでも、住みやすいという回答が多かった。待機児童がゼロということも、すごいことだと思う。札幌市に近くて賑わっているけれど、自然もあって、良い環境だと思う。弱みは、除排雪にもう少し工夫が必要なところだと思う。中学校の前の歩道が、雑草や雪で埋まってしまうことがある。また、不審者が多い。公園にあるトイレをきれいにすることで、不審者を減らすことにつながるのではないかなと思う。
- ・強みは、北海道の中心である札幌市に隣接していること。転出者数より転入者数が上回っているため、農業や商業施設を中心に、市民の活動が盛り上がっていくと思う。弱みは、観光客数が少ないこと。観光スポットが増えると、もっと江別市が活性化していくと思う。

- ・強みは、都市部へのアクセスがとても良いことと、静かで住みやすいこと。弱みは、除排雪が遅いこと。また、学校でのオンライン授業が、もう少しやりやすくなるように環境を整えてほしい。例えば、黒板が見づらかったりしたが、不登校の人も、オンラインならば授業を受けやすくなるので、改善してほしい。



- ・強みは、教育に力が入っていること。他市の学校に通っていた人から「江別市は修学旅行に良いところに行っていて、うらやましい」と言われる。弱みは、除雪。特に今年は除雪が進まず、学校が休みになったりしたので、もう少し力を入れてほしい。また、自分はバスで通学しているが、バスの便がやや少なく、やっと来たと思っても満員で座れなかったり、揺れると転んだりする人がいるので、もう少し便数を増やしてほしい。

(2) 将来の自分について



- ・10年後は、皮膚科医になりたい。20年後は、結婚して子どもと楽しく暮らしていきたい。
- ・10年後は、江別市で人を助けるような仕事、人の話を聞くことが好きなので精神科医などになりたい。20年後は、想像が付きづらいが、自由に過ごせたら良いと思う。
- ・10年後は、視能訓練士になりたい。自分も視力が悪く悩んでおり、学生でも視力が悪い人が増加しているので、そういう人に寄り合い携わっていきたい。20年後は、今好きなことを20年後もずっと続けていけたら良いと思う。
- ・まだ明確な夢は決まっていないが、英語を使った仕事をしたいと思っているので、10年後は、大学を卒業して、英語を使った仕事に就きたい。最終的には海外で働きたいと思っているので、20年後は、海外で働いていたい。
- ・車や機械の開発設計をしたいが、需要が少ないので、AIやバーチャル関係の仕事の方が、需要があるのかなとも思っている。10年後は、高校卒業後、道外の大学でひとり暮らしをして、将来の仕事に向けて取り組んでいたい。20年後は、自分の就きたい職業に就いて、できれば、外国に住んでみたいと思っている。結婚はしていないかもしれない。その後、江別市が高齢者でも住みやすいまちだったら、退職後に江別市に戻って来て老後を暮らしたい。
- ・超お金持ちになることが夢なので、10年後は、同じ夢を持っている人と一緒に、超お金持ちになりたい。20年後は、子どもがいたらいいと思う。



- ・今はこういう仕事に就きたいという夢はまだないが、10年後は、大学を卒業して、将来就きたい職のために、一生懸命お金を稼いでいると思う。20年後は、家庭を築いていたい。今、自分も親にとっても良くしてもらっている所以、同じように、親がしてくれたことを自分も家庭でしてあげたい。
- ・このままとりあえず高校に行って、大学に行って、10

年後は、就職をしていたらと思っている。20年後は、家庭があればいいなと思う。親にも喜んでもらいたいと思っている。

(3) 今後、江別市が力を入れるべき分野について

- ・パキスタンから転校生が来たが、その子は日本語も英語も話せず、Google翻訳を使って日常会話を行っている。Google翻訳を使わなくても、その子と会話ができる先生がいれば良いと思う。江別市がそういう子たちにうまく対応していけるようになれば良いと思う。もう一つは、除雪。
- ・観光名所があまりないので、観光名所を増やしたら良いと思う。施設をつくるには費用もかかるが、見に来る人が多くなり収入が増えて、アンケート結果でも求められている賑わいも出ると思う。あとは、除雪。
- ・IT化を進めていくべきだと思う。働く世代が札幌市に働きに行くので、江別市内のお店は働き手の確保が難しくなると思う。アルバイトや退職後の高齢者でも運営していけるような職場にしていっての方が良いと思う。あとは、除雪。
- ・北海道内で観光名所がたくさんある中、江別市を観光で活性化するのは難しいのではないかとと思っている。住みやすい環境を整えることが重要だと思う。除雪をしっかりとするとともに、国道12号以外の道路で狭い箇所があるので、道路を含めた交通の見直しが必要だと思う。北海道百年記念塔も観光で活性化させないならば残さなくても良いのではと思う。また、江別市の市民性として、優しく、いい人が多いと思うが、除雪の遅れは人手不足が原因でもあると聞いたので、江別市内でやらないといけないことを、(有料)ボランティア活動で担えたら、面白いのではないかとと思う。また、江別市で力を入れていくことが決まったら、外部に発信することが必要だと思う。江別市がどういうまちか、あまり知られていないと思うので、福祉・保健・医療などを進めて、江別市のことをもっと発信したら良いと思う。
- ・観光よりは今あるものを伸ばしていったら良いと思う。程良い田舎具合を住みやすいと思っている人もいたので、観光を伸ばして賑わうまちになったら、環境が変わってしまうかもしれない。子育て環境の良さが江別市の特長だと思うので、子育てや教育環境をもっと充実してほしい。また、人口減少になる中、海外の人を受け入れる支援が充実すれば良いと思う。



- ・江別市では観光客は少ない状況で、隣に札幌市があり、観光都市になるのは難しいかなと思うが、江別市の良さや住みやすさをもっと伝えたいと思っている。江別市の魅力が伝わると、人口増加につながるのではないかとと思うので、江別市の魅力をもっと多くの人に伝えてほしい。
- ・これからの時代はAIなど、デジタル化がとても進むと思うので、学校も含め市全体でICT化やICT産業に力を入れてほしい。また、この未来づくりミーティングのように、江別市民が江別市について意見を交換できる場をつくったり、江別市でやっていることをもっと発信したりすることが大事だと思う。
- ・観光地で賑わうまちより、住みやすいまちをつくってほしい。高齢者のほか、子育て世代も多いと思うが、観光地化して人が増えると、犯罪が増えて、子どもたちが安全

に通学できなくなってしまう。高齢者や障がい者が住みやすいまちづくりを進めてほしい。また、活気を生み出すために、イベントをしたら良いと思う。アンケート結果では、イベントに面白味がないという意見があったが、自分は江別市でどのようなイベントが開催されているか知らない。ポスターやちらしを学校に配ったりするなど、イベントの開催をもっとPRしたら良いと思う。

- ・最近、学校に、小中学校連携を意識した何かをしてほしいという話がある。また、大学も市内に四つあるので良いと思うが、江別市内の高校については、学校で友達と話をしていても、札幌市内の高校の名前しか出てこない。江別市内の中学と高校の交流や連携も、深めていくべきではないだろうか。



27 地域の医療・介護に携わる方

令和4年7月21日（木） 江別市民会館3階37号室
午後6時30分～午後8時40分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・江別市に最初来た時、臭いと思ったことと、薬の配達の際、アパートの人でも表札を出していない市民が多いと思った。強みは、大型スーパーマーケットや店舗が多いこと。弱みは、札幌市に近いので、患者が札幌市に流れてしまうこと。また、去年の大雪で建物がつぶれたこともあるが、ＪＲ江別駅周辺に空き地が多く、再開発が必要なのではないかと思う。



- ・強みは、介護保険内・保険外ともに、支援サービスがそれなりに整っていること。地域活動が盛んな印象がある。社会福祉協議会が実施している愛のふれあい交流事業も各地区で実施率が高い。サロンやサークルも多くの団体が参加している。コロナ禍でも、マンションで女子会を開催したり、ウォーキングをする会を立ち上げたりしている。大麻地区は、カーリンコン（床で行うカーリングのようなスポーツ）が盛んで、サークルがいっぱいあり、大会が開催されているなど、コロナ禍でも活動の火が消えないところが強みだと思う。弱みとして、現場の本音を言わせてもらおうと、ケアマネジャーのなり手がいない、または続かないことや、ヘルパーが少なく、要支援の利用者宅に入ってもらえないことがある。障がい者の高齢化が進む中、在宅での生活が厳しくなった高齢者が入所できる施設が少ないことも課題。また、生活支援スタッフや介護予防サポーター、認知症サポーターなどを市で養成しているが、その人たちを活躍させる仕組みが十分ではないと感じている。みなさんのやる気はあるのに、有効に活用されていない。その人たちにも、メリットやモチベーションを感じてもらえるようになったら良いと思う。



- ・強みは、札幌市に近いこと。一方、医療機関は札幌に行けばある、という考えになるので、弱みとしても捉えられる。江別市は札幌市より人口が少ないが、まとまりやすい規模だと思う。江別市のコロナ対策は、非常にスピーディに対応していて最高だった。大学生が多く、こども食堂などを研究の一環としてやっていることも強みだと思う。自然が多く、農業が活発だが、高齢化が進んでいて、後継者不足が弱みになっていると思う。それから、大泉洋の出身地であることは強み。また、日本の福祉制度が整う前に、江別市にあるレンガ工場では、福祉的な助け合いが行われていたことなど、江別市にはＰＲしきれていない良さがまだ多くあるので、もっとＰＲした方が良い。災害については、子どもの頃は水害に苦しめられていたが、津波が来ないことは強みだと思う。雪については、雪が多いので除雪はもっと対応してほしい。また、空きアパートが多くあるので、住めるのであれば、活用を検討してほしい。高齢者や障がい者が入居できるように空きアパートを活用することもできるのではないだろうか。
- ・強みは、札幌市がとても近いが、土地が安くて家が建てやすかったこと。区画も広が

った。住んでみて思うのは、自家用車があれば、大きなショッピングセンターがあるので便利だと思う。弱みは、雪。除雪が問題と言うより、雪の量が多い。そして風が強く、物干し台が倒れたり、車庫がひっくり返ったりしたことがある。ただ、比較的平らなまちなので住みやすいと思う。医療の立場から見ると、いろんな医療機関がまんべんなく揃っていることが強みだが、人材を集めるのに苦労することは弱み。若い人たちはどうしても札幌志向なので、江別市で働いてもらえず悔しい思いもしている。

- ・江別市のブランディングとして、何をを目指しているのかが見えにくいので、売り出したいものを決めておいた方が良いのではないかなと思う。小麦であれば六次産業化を進め、風が強いのであれば風力発電、川を使った水力発電を進めて、食料やエネルギーの自給率を上げて長期的な住み良さをアピールするなど。ふるさと納税にも、小麦が出てこないことが残念。



- ・江別市に住んでいて、困ることがないことが強みだと思う。自分の夫や子どもは、昼間は江別市にはいない。やはり、ベッドタウンで売り出したらよいのではと思う。土地が安いほか、JR江別駅周辺の土地も空いているので、マイナスイメージである空き地を生かして、転入を促進してはどうか。スキー場にも30分程で行くことができるし、江別市周辺に温泉がたくさんあって、温泉も楽しめる。弱みは、雪もそうだが、観光客が少ないことだと思う。札幌市でコンサートがあって、札幌市内に泊まれない人は、岩見沢市に泊まる。北海道立野幌総合運動公園で大きなスポーツ大会があっても、札幌市などに宿泊する。町村にはよく、おしゃれな民泊があるが、江別市にはない。誰もが一度は泊まってみたいと思うような、おしゃれな宿泊施設があれば、レンガ工場ツアーなどもできるのではないかな。急性期医療については、江別市内では完結できないが、急性期医療を終えた後、江別市に戻って来られるような医療環境を整えば良いと思う。



- ・強みは、札幌市に近いところ。JRを利用すれば15分～30分で札幌市に行くことができるし、江別市内には国道も通っている。ベッドタウンとしてのメリットはかなりあるのではないかな。札幌市に近く、宅地造成が進んだことで、子育て世代の転入が増えたことも強みだと思う。また、市内に四つの大学があり、卒業後出て行ってしまう状況も見られるが、他の市町村では、そもそも出て行くばかりのところも多いので、江別市は、一旦ではあるが市外から学生を集めることができることは強みだと思う。弱みは、勤務先が札幌市の人が多く、江別市内に働く場所が少ないこと。そのため、法人税が近隣の他

市に比べて少なく、江別市が独自に事業を行いづらい状況ではある。

(2) 10年後の地域医療・介護の在り方について

- ・近い将来の話として、インフルエンザと新型コロナが同時に流行すると思うので、市民が困らない体制をつくってほしい。秋には混在して流行すると思う。発熱外来などに力を入れてほしい。三次医療になると市外の医療機関に頼らざるを得ない状況だが、江別市立病院に是非もっと活躍してほしい。江別市内には他の医療機関もあるが、江別市立病院に頑張ってもらいたい。また、若い薬剤師がなかなか増えないの

で、関係機関と連携して増えるようにしていきたい。

- ・ 少子高齢化が進み、介護保険制度も厳しくなってくるので、インフォーマルなサービスを充実させれば、高齢者も住みやすいまちになるのではないかと思います。インフォーマルなサービスならば、使いやすく、サービス提供者もモチベーションを持って活動しやすい。市も団体に任せるのではなく、側面的にサポートするなど、利用者・支援団体・サポートする側、三者にとって良い状態となる仕組みをつくってほしい。外来の患者数が減少しているが、江別市立病院もブランディングして、良さを前面に押し出してアピールできたら良いのではないかと思います。江別市立病院で認知症疾患医療センターを立ち上げてくれたことは、今後認知症の方が増えていく中、良いことだと思うので、もっとPRすべきだと思う。また、今後は、施設医療だけでなく、在宅でのケアが大事になってくるので、在宅医療に力を入れてほしい。



- ・ 子どもたちや若い保護者への支援をしていて、子育て世代の転入が増えている状況を見ると、小児科の充実が大事だと思っている。在宅医療の10年後を考えると、今の先生方も高齢化しているのではないだろうか。制度が変わって、長期入院が難しくなり、施設にも限りがあり、コロナ禍で高齢者が施設に閉じ込められている状況を見ると、やはり在宅で生活できることが大事であり、インフォーマルな支援や空き家の活用を考えていくのが良いのではないかと思います。障がい者の方たちも高齢化し

ていて、行く末が心配。健常者と同じように、地域で過ごせるようなまちづくりを進めてほしい。

- ・ 江別市で、地域医療と介護の連携の場を設けていることは重要であり、連携による効果が生まれ、より良くなることを願っている。市外から若い人たちが転入してきているが、転入してきた世代の方々が高齢化してくるので、在宅医療の需要はますます高まると思う。高齢者の方々の住まいについて、江別市としてももっと取り組んでほしい。

- ・ どの分野も人材が不足するので、どう対応していくかを考えると、選択と集中が必要なのではないかと思う。デイサービスが減ると通う場所が減るので、今ある場所を大規模化していかなければならないが、基準をクリアしないと大規模化できない。基準緩和を市独自に行うことを考えておくことが必要なのではないだろうか。また、訪問介護ステーションの数は増えておらず、職員数が減っている。このままでは、サービスが受けられないのに保険料を払うのかという苦情が出かねないので、人を増やすこと以外の準備が必要なのではないか。医療については札幌市と同じ医療圏なので、高度医療を札幌市と同じように頑張ろうというのは現実的ではないと思う。高度医療を受けた後のリハビリ機能を整えていくことが必要だと思う。また、これから災害時要援護者に関する避難支援計画を江別市が策定すると思うが、福祉施設に避難所の依頼をしても、自分の施設の利用者を、停電が起きているかもしれない中で介護する状況の中、一般の要援護者を受け入れてほしいと言われても、抵抗感があると思う。ヘルパーを避難所に派遣できるルールをつくるなど、災害時対応の準備を進めることも考えられる。移



動支援については、JRやバスもあるが、もう少し小回りの利く交通施策を考えても良いのではと思う。介助を必要とする方にとっては、介護タクシーのようなものになるので、バス・タクシー事業者との調整が難しいかもしれないが、共同体として運営することも検討してほしい。

- ・医療介護の連携の会議については、もう少し現場レベルに近い会議があると良いと思う。介護側は、医療側に対してものが言いづらいのかと感ずることがあり、それではなかなか連携が進まないのではと思う。看護師、ケアマネージャー、ヘルパーなど現場の方々と意見交換ができると、連携できる部分が増えるのではないと思う。また、在宅医療が増えるという見込みだが、人によっては病院で最期を迎えたいという人もいる。人生会議（アドバンス・ケア・プランニング）の場を家庭で持つてほしいと思うので、会議が普及するように働きかけてほしい。また、医療的ケア児を受け入れることができる訪問看護が江別市にはなく、札幌市から来てもらっていた。高齢者だけでなく、医療的ケア児が在宅で暮らせる、また、地域で見ているような10年後になったら良いと思っている。

（３）人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・職場がJR江別駅周辺だが、学生をほとんど見ない。江別地区では、やきもの市や地域の祭りがコロナ禍で中止になり、過疎化が進んでいる。表札を出さない世帯が多いということは、地域に馴染んでいない人が多いのではないと思う。大学生と一緒に地域おこしをするなど、何かイベントがあれば地域の人も参加できて良いのではと思う。また、風が強いので、風力発電に取り組めないだろうか。
- ・認知症対策に力を入れてほしい。認知症になっても住み続けられる、弱者にやさしいまちになってほしい。弱者にやさしいまちは、誰もが住みやすいまちにもなる。江別市はいろいろなものがバランスよく揃っており、子どもから学生、お年寄りまで各世代が多くいるので、協働によって、支えたり支えられたりできたら良いのではと思う。
- ・お金がないと何もできないので、企業誘致が必要。江別市の魅力をどうアピールしていくか。江別地区に住んでいるが、昔に比べて、とても寂しくなっている。地域の活性化は地域でなければならぬと思い、認知症サポーター養成講座をお寺で開催しようと思っている。そのような地域活動の後押しを江別市にも手伝ってほしい。



- ・人が増えてくれると有難い。企業が来るのはなかなか難しいと思うので、札幌市のベッドタウンとしての機能を高めていくべきではないかと思う。観光も難しいと思うが、トンデンファームや町村農場、江別蔦屋書店など、地味でも人気のある観光スポットもある。ただ、観光スポットが増えすぎると、治安も悪くなると思うので、ベッドタウンの方が地の利に合っているのではないかと思う。公園も多く、子どもも育てやすいと思う。ベッドタウンとしての良さを売りにして、新しく家を建ててくれる人が増えたら良いと思う。

若い世代が増えれば高齢化率も抑制され、別の分野も伸びていくのではないか。

- ・大学が四つあり、専門分野がそれぞれ違うことが特色だと思う。江別市は、やはり農業で勝負するまちだと思うので、企業誘致が難しくても、起業を支援し事業を起こしやすくするなど酪農学園大学とコラボした何かできないだろうか。北翔大学ならば介護予防、北海道情報大学とはICTのリテラシーの普及をコラボで取り組む。民生委員にスマホを貸与して、地元をまわってスマホの使い方を教え、大学生がそれを支援

するなど。また、身寄りのない高齢者が亡き後の相続について意識を高めるようにすることも重要だと思う。今後出てくる課題を整理して、前もって対処や準備を進めていくことが大事だと思う。

- ・福祉・保健・医療を進めるために協働を進める。ヘルパーが入りやすいように基準や条件を緩和させるなど。そこに医療が入っていけるように連携を進めることが大事だと思う。
- ・江別市は、北海道の中でも、人口減少を遅らせることができるポテンシャルを持った、数少ないまちだと思う。都市基盤の整備を進め、若い人が選んでくれるまちになることで、働き手が市内に多くいることで企業誘致が進み、税収が増え、さまざまな世代の方や、障がいを持つ方への支援につなぐことができたらと思う。



28 保育園の利用者

令和4年7月24日（日） 江別市民会館2階21号室
午前10時～午前11時05分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・子どもが大きくなってきて、不安だというのが医療費。他の自治体では無料のところもある。ひとり親には給付金や就学援助などがあるが、その他の世帯は収入で制限される。もう少し、収入の程度によって支援を充実させてほしい。また、学童保育（放課後児童クラブ）



に入れる枠が少なく、保育園への入園よりも難しいと感じる。「小一の壁（子どもが小学校に上がると保育園時代に比べて、仕事と子育ての両立が困難になる）」がある。強みについては、現在、住んでいて困ったことはないので住みやすいと感じている。

- ・強みは、札幌市が近いこと。また、道内のいろいろなところに行きやすい。弱みは、雪の量が以前住んでいたところと比べて多く、自然なので仕方がないが、嫌ではある。
- ・強みは、札幌市に近くて、ＪＲ駅やバス停が近くにあれば札幌市に行きやすく、通勤もしやすいこと。弱みは、子ども医療費の無料化が、他の自治体に比べて進んでいないこと。江別市内の住宅地にも限界があるので、住宅地が増やせなくなり、人口が増やせなくなった時、江別市の魅力をどう発信していくのかが見えない。住んでいる方は、みな優しくて温かいと感じている。札幌市の方にも「江別市、良いですよ」と勧めている。



- ・強みは、いろいろな意味で程よいと思うこと。人も多すぎず、心地よく住んでいる。公園は古かった遊具が新しくなっており、子どもたちと外で遊びやすい。弱みは、除雪。今年の大雪の際には、除雪の事業者には依頼をしても、来てもらえなかった。また、休職後、職場復帰の予定が確定している際に、仕事や家の近くの保育園や、きょうだいが入園している場合は同じ保育園など、希望する保育園への入園を希望しても、枠を空けておいてもらうことができない。他の自治体では、枠を確保してくれるところもある。復帰の予定が決まっ

ている時には、その人の子どもの枠が確保できるように柔軟に対応してほしい。

- ・札幌市とのアクセスの良さが強み。公園が充実していて、身近に自然を感じることもできる。パン屋やお菓子屋さんが増えていて、話題になっている。弱みは、江別蔦屋書店などがあるが、自家用車をもっていない人には行きづらいこと。市内の公共交通の使いやすさが充分ではないと感じている。



(2) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・公園はあるが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、コミュニティセンターなどでやっていたお祭りなどイベントがなくなった。子どもたちが楽しめるイベントをもっと増やしてほしい。また、1歳児健診や3歳児健診の際に、子供の発育や発達に不安を抱えて健診に来ている親がいる。不安に対する温かい言葉はかけてもらっているが、健診で何も指摘されなかったものの、その後、小学校で遅れなどを指摘されることもある。スクリーニングの場でもあるので、市も一緒になってスクリーニングを推進するなど、早めの支援をしてほしい。



- ・人口減少を食い止める、あるいは増加に転じさせるには、子どもを産んでもらうか、子育て世帯に転入してもらうか、いずれかしかないと思う。子育て世帯専用の市営住宅をつくり、転入してもらうのはどうだろうか。一か所にまとまっているので、支援や子育て世帯向けのイベント開催もしやすくなるのではないだろうか。また、大学が多くあることは強みだと思うので、学生の中に結婚する方たちに、お祝い金を多く出してあげるなどの取組を検討してみてもどうか。そのほか、子ども医療費助成を他の自治体並みに軽減するなど。保育所も3歳以上は無料のようだが、3歳未満も無料にしたり、高校生まで教育費を無料にしたりするなど検討してほしい。

- ・実家に帰る際に、一度保育園を退園して、再び江別市に戻ってきた際に、希望通りの保育園に入ることができなかったので、希望の保育園に入園できるようにしてほしい。また、保育料がもう少し安いと良いと思う。
- ・コロナ禍により、世帯主の収入が減った場合は支援があるが、妻の収入が減った場合も支援を検討してほしい。子どもの数が多いので、これから高校、大学と子どもが進学していくことを考えると、経済的に不安。3人目以上への支援などがあると良いと思う。発達障がい児の支援については、早めにスクリーニングで発見してもらえるなど、支援を充実してほしい。
- ・共働きをしている中で、子どもを育てられるかという、漠然とした不安がある。男女ともに育児休業をとりやすいように、市が企業をバックアップするなどしてほしい。また、初めて子育てをする方にとって、地域で子育てしやすいまちであってほしい。気軽に立ち寄れる場所に、子育てについて相談できるところがあると良いと思う。



29 大麻地区自治会連絡協議会

令和4年7月25日（月） 大麻東地区センター大会議室
午後1時～午後3時10分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・在職中は大麻地区から札幌市に通勤し、買物も札幌市で済ませていたため、退職するまでは野幌地区や江別地区に目は向かなかった。札幌市に近いことが強みでもあるが、札幌市に通勤している人は、江別市への関心が低いと思うので、退職後だけではなく、現職中にも、住んでいる江別市に関心を持ってもらえるようなPRをもっとした方が良いと思う。江別市の歴史や特徴も、市民に浸透していないのではないかなと思う。
- ・退職後、江別市に目が向くようになって、「江別市もなかなかいいじゃないか」と思うようになった。自然が豊かで、観光するところもある。恵庭市は「花のまち」と広くPRしているが、江別市はPRが足りないと思う。
- ・生まれは函館市で、道内の各地に転勤して住んでいたが、江別市は住みやすいなと思い、家を建てた。JRが便利で、札幌市に行きやすい。また、比較的落ち着いて過ごせる環境でもあることが強み。弱みについては、アンケート調査結果では除排雪への指摘が多かったが、アンケート調査の実施時期が昨年10月では無く、今年1月の災害級の大雪の後だったら、もっとマイナスの評価になっていたと思う。除排雪体制をしっかりと整備して、除排雪の良さが強みになるようにしてはどうか。俱知安町から転入して来た人が、除雪の仕方が俱知安町と違うと言っていた。また、若い世代はSNS世代なので、子育て世代は、家を建てて一年経って、住み心地が良ければ、口コミで良さを広げと思う。そのほか、共働きの子育て世帯が増えているが、病児・病後児保育を実施しているところが2か所しかないので、病児・病後児保育を充実させれば、口コミで良さが広がると思う。
- ・強みは、高速道路のインターチェンジが二つあること。アクセスの利便性が良い。弱みは、札幌市のベッドタウンであるため「札幌市江別区」という感じがあり、いろいろなイベントはあるが、市外から多くの人を呼んでお金を使ってもらえるようなイベントはない。また、特産品がレンガと言われるが、堅苦しいイメージだと思う。ただ、私は、江別市が大好きである。
- ・強みは、大自然が残されていること。野幌森林公園は素晴らしいと思うが、子どもを連れて行っても、道立自然公園であるため、動植物を採ることができない。狭い範囲でも構わないので、入口付近を子どもたちに開放して、動植物の採取やオリエンテーリングができるようにしてもらえないだろうかと思っている。また、散策コースの一番短いコースが3キロだが、お年寄りだと歩ききれない。入口付近に短めの散策コースができれば、お年寄りにも利用しやすくなるのではないだろうか。弱み



は、江別市は財政が厳しいこと。

生活を支えるような企業はあるが、世界に向かっていくような、お金を稼ぐような企業がない。これからの産業は、多様化していくことに目を向けて、これから発展するであろう産業を優遇して誘致してはどうだろうか。また、江別市は、メルヘンやロマンというイメージづくりがしやすいまちだと思う。



- ・インターチェンジが二つあることは強みだが、降りたところが寂しい。もっと活用できないだろうか。
- ・J R 大麻駅の乗降客は多いので、駅前の整備を進めてほしい。発展性はあると思う。
- ・文京台地区と大麻地区がJ Rの線路で分断されている。高架化するなどして、一体化を図れないか。

(2) 自治会活動の現状と課題について

- ・役員の担い手がなく、高齢化している。役員は輪番制をとる自治会が増え、役員の意識が低くなり、義務的な感じになった。協力体制が乏しくなっている実態がある。女性にも役員に入ってもらおうと働きかけているが、なかなか難しい状況にある。若い人に入ってもらって、意識を変えていかないと成り立たないと感じている。住民の自治会離れも進んでしまっており、自治会に入らなくてもいいと考える人が増えている。その一方で、新しい団地では、若い世帯が活発に活動している自治会もあるので、情報をもらって、参考にしながら活動していこうと思う。コロナ禍で事業ができず、役員の意識も希薄になってきた。コロナ禍も3年目となり、これからは少しずつ事業をやっていこうと話していたが、感染の再拡大で出鼻をくじかれた。事業が中止になると「自治会は何もやっていないならば、いらないのではないか」と考えられてしまうので、そうならないようにしていきたい。
- ・地域の半分が集合住宅で、古い団地は築50年で、高齢化が進んでおり、ひとり暮らしの高齢女性が多い。以前、市の花植えの活動に参加する際、花を植えるのが大変なので花壇は要らないという自治会が出てきて、説得するのが大変だった。若い人が入ってきて、高齢者はフォローするという形が良いとは思っている。



- ・これまでどおりの自治会活動が続けるのは難しい。市からの連絡を、自治会を通じて行っていることが多く、例えば、大雪の時に、自治会で単身高齢世帯の見守りをしてほしいという連絡が市からあったが、難しかった。共働き世帯が増え、退職する年齢が高まっており、自治会活動をやりたくてもできない人もいる。核家族化も進み、小さな子どもがいる世帯は子守役がいないので、参加が難しくなっている。また、地区ごとに同じ年代が固まっているので、世代交代がしづらくなっている。自治会が何をやっているかを伝えていかなければならないと思い、自治会の会議で話し合ったことを「自治会便り」にして、

全戸配布している。自治会で何をやっているかが見えなければいけないと思う。

- ・私がいる地域には、三つの自治会があるが、各自治会で温度差がある。役員がイベントを計画して、子どもたちのイベントや地域の高齢者の交流会（バスツアー）などを行っている。今、女性の役員が3割ほどいるが、女性がやると、子どもも含め、人が集まりやすいと感じている。自分より年齢が高い役員もいるが、年齢が高くなると、若い人の考えや行動についていけなくなることがネックだと思う。文京台地区には大学が多いが、札幌学院大学の一部が新札幌地区へ移転したことで学生が少なくなり、寂しいと感じている。大学生は集合住宅に住んでいることが多いが、不在であることが多く、自治会に入ってもらえないことが多い。文京台地区でも、最近は子育て世帯の転入が増えており、新しい世帯が来ると、雰囲気も違ってくると感じている。野幌地区にある自治会では、北海道情報大学の大学生を役員に迎えたという話を聞いたので、うちもチャレンジしようという意見は出たが、大学生は20歳から役員になってくれたとしても、2年経つといなくなり、学業や就職活動もあるので参加することが難しいということで、実現できなかった。
- ・私がいる地域では、以前は高齢化率が45%になったこともあったが、若い人が入ってきて住み替えが進み、人口も増え、高齢化率が低下した。若い人たちと考え方や意思疎通の仕方も違うと感じている。公園の清掃や花植えには、動員をかけると、若い人も含め60%以上の方が参加する。このように、動員する活動には若い人も参加するが、イベントの実行や回覧板を回すことなど、昔からの活動には疑問を感じているようだ。若い人が役員に入るようにはなったが、自治会の活動が軽くなってきていると感じている。
- ・大麻地区では、古い住宅が解体されて、そこに戸建て住宅が二棟建ち、若い世代が入って来て、世代交代が進んでいる。近年は、家の前で遊んでいる子どもも増えている。今の若い人たちは、SNSなどで友人とのつながりが発達していて、情報が早く伝わるようだ。自分の娘も友人からの情報で、若い世代が多く住む地域に家を建てたが、その地域には自治会がないらしい。それでも困らないそうだ。そういう地域も現実にあるので、江別市も対応を変えていくことが必要なのではないか。

（3）人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・産業については、世界に通用する企業を誘致することが重要ではないか。小麦とその加工品を手掛かりにして、国際的に通用する産業をつくるなど。また、三世代で住めることは素晴らしいと思うので、三世代が一緒に住めるまちづくりを進めるべき。江別市は埋蔵文化財や歴史、北海道遺産のレンガなどがあるので、そういうものを生かして、ロマンをかきたてるようなイメージづくりをしてはどうかと思う。まずは、国道沿いやバス停から着手してはどうか。
- ・世界に類のない、野幌森林公園があるので、市民が集えるような空間を入口近くにつくり、その奥に森林が広がっているという、野幌森林公園を生かしたまちづくりと産業の誘致などを進めれば、未来がひらけるのではないだろうか考える。
- ・優れた地場産業があるのに、市民にあまり知られていない。もっと市がPRした方が良いと思う。また、若い人が流出するのは、江別市内に求めているものがないからだと思う。札幌市や東京などに行ってしまう若い人を引き止めるには、



江別市内に魅力的な就職先がなければいけない。産業をもっと盛んにして、江別市からは出て行きたくないと思われるようなまちになってほしい。

- ・市の職員が生き生きと働けるような環境の整備が重要だと思う。限られた財源の中で、いかに市民を導いていくかが大切で、そのような環境になるような改善をしてほしい。また、人口減少が進む中で、江別市が頑張ることと、他の自治体をお願いすることと、もう少しメリハリをつけた方が良いと思う。江別市の強みは、政令指定都市ではないが北海道の施設が多いことだと思う。北海道の施設は北海道に任せて、江別市が頑張らなければならない部分に力を入れていくべきだと思う。それから、地下鉄を何とか江別市まで延伸してもらうことと、インターチェンジ周辺の活用も考えるべきだと思う。
- ・江別市のイメージ戦略が必要だと思う。是非良いキャッチフレーズをつくってほしい。大都市・札幌市に近いことは、弱みではなく強みだと思う。例えば、「田園都市」などのイメージが良いのではないかと考えている。広い住宅地が得やすく、家庭菜園もできる。子育て環境が良く、高齢者福祉が充実している。文化の香り高い施設がいろいろあり、災害に強いまちであることやCCRCを推進していることなど、アピールポイントは多くあると思う。また、スポーツ振興をしてほしい。江別市を代表するスポーツを定めて、強化を進めてほしい。
- ・新しい視点として、観光開発をしてはどうか。人を呼んで、お金を稼ぐ。イベントの開催も取り入れて、市を挙げて開発観光に取り組んでほしい。冬場の対策として、大きな温室を作って、人を呼んではどうか。江別は地味で、どちらかと言えばPRが下手だと思う。もっと前向きに、活性化を図っていくことが大事ではないか。個々では、若い人が个性的なお店を開いている。もう少しPRしてあげて、育てていくことも大事だと思う。身近で小さな器の中で、人口を取り合うのではなく、外から広く、多くの人を呼び込むことが重要であり、それがまちの活性化につながると思う。



30 江別身体障害者福祉協会

令和4年7月27日（水） 江別市民会館2階21号室
午前10時～午後0時

（1）江別市の「強み」「弱み」は

- ・強みは、札幌市に近いベッドタウンであること。それ以外で何があるのかと考えると、なかなか思い浮かばない。観光も、江別市はレンガのまちと言われているが、レンガを展示している施設などの観光スポットは、公共交通機関で行ける場所がない。札幌市に住んでいる時に結婚し、子どもが産まれて、一軒家が欲しくて江別市に引っ越して来た。大麻地区と豊幌地区とどちらにするか迷って、子どもを育てる環境の良さとして豊幌地区を選んだ。小学校があったが、将来は中学校もできますよ、ショッピングセンターもできますよと聞いていたが、実際はそうになっていない。箱（施設）ができると人は増えると思うので、予算はかかると思うが、理想的なのは、江別市全体を見ながら開発していくことだと思う。豊幌地区にはデマンド型交通があるが、年会費がかかる。市営バスのような気軽に利用できる交通手段があれば、もっと住みやすくなり、強みになるのではないだろうか。
- ・野幌の原始林、石狩川、農業と住宅地のバランスなど、環境が良いことが強み。野菜が買える大規模な直売所も三つある。また、大学が多く、産学連携が行われており、町村農場や小林牧場のように、自分たちでいろいろな加工品をつくっているところもある。弱みは、移動手段。歩行困難者にとっては、デマンド型交通を利用しても、降車地点から目的地までの移動や乗り換えが難しい。雪については、降るのが当たり前なので仕方がないと思って、覚悟して住んでいる。以前、除雪の仕事をしていた経験から言わせてもらくと、歩道にある植樹帯は景観は良いが、除雪の際には支障になる。
- ・強みは、ブロッコリーや小麦が有名なことだが、もっとPRすれば良いと思う。また、大学があることも強み。弱みは、観光地があまりないことや、バスの便数が少ないこと。雪が多いことも弱み。自分が住んでいる地域は高齢者が多く、バスの本数が少ないので、タクシーで病院に行っている人が多い。



・札幌市に隣接していることは強みだが、江別市の独自性を発揮するには、弱みになっている。観光地は少ないが住みやすく、住んでもらえば良さが分かる。住みやすい理由を考えると、石狩平野の中央の平地で、気候もある程度安定しており、人口規模の割には保育園や学校、公民館などが多い。ただ、この人口12万人弱のまちの中でも、きめ細やかな交通網や道路網の整備が弱いと思っている。除排雪は予算もかかることなので、市民の考えを伺いながら、対処していくしかない。また、江別市についての発信が遠慮がちだと思う。も

っと発信力を高めてほしい。

- ・強みは、住みやすいまちであること。大麻地区に転入してきたが、同世代でも江別市に家を建てようとしている人が多く、「江別市って、住んでみてどう？」と聞かれることがある。まちがコンパクトで、ある程度のものが揃っていて、比較的大きな規模の公園もあり、子どもを育てるには良い環境だと感じている。ただ、自家用車ありきのところがあるので、年代や地域によっては、住みづらいと感じている人もいると思う。移動面の支援が必要だと思う。
- ・最近、Y o u T u b e に江別市の映像が出ているのでよく見ているが、にぎわいを失った J R 江別駅周辺の映像が出てくる。イメージが悪いと思うので、J R 江別駅周辺に活気を取り戻してほしい。
- ・生活しやすいまちという観点からすると、市の財政を豊かにしていくには、観光ではなく、市民が働ける場所が江別市内にたくさんあることが大事だと思う。大きな資本を持つ企業が江別市内に入ってくることを望ましい。

(2) 身近な生活で不便に思うこと

- ・豊幌地区も今年の大雪はすごかった。J R 豊幌駅まで歩くことも大変だった。夜中から明け方にドカ雪が降り、除雪車も来ることができず、高齢になった身体障がい者としては、間口の除雪が大変だった。車庫の屋根の雪下ろしも、今回は自分たちでできず、業者に頼んだので費用がかかった。若い時は自分で対処したが、今は難しい。ひとり暮らしの高齢者に対しては、自治会と連携して除排雪の支援をすることが必要なのではないだろうか。



- ・大きな道路の除雪は、業者によって除排雪のやり方が変わるので違いが出るが、特別困ったことはない。市街地で行われている福祉除雪（間口除雪）が、農村地区でも適用されたら良いと思う。
- ・公共交通機関や店などが、野幌地区に集中している。江別地区にある自宅からは、野菜の産直所も離れており、病院もない。バスの便数が増えたら良いと思う。南大通にできた橋を通るバスがあると良い。
- ・当協会の行事などに参加する時、福祉バスがなくなったことが大きい。視覚障がい者や、車椅子を利用している方は、福祉バスで移動する方が安全だと思う。大雪の時だけではなく、日常生活でも、声を掛け合える関係ができていない人は多いが、そうではない人は大変だと思う。声を掛け合えて、安心して生活できる環境をつくっていくことが大事だと思う。
- ・介護施設利用者の送迎の仕事をしているが、除雪されていない家に行くと、車を家の前に停めることができず、まず自分たちで除雪をして、車椅子の方を迎え入れることになり、時間がかかることがある。このような状況は今後増えていくと思う。道路も、自分が住み始めた当初はきれいだったが、今では陥没していたり、マンホールのふたが上がったり下がったりしているところがあり、雨水が流れずに溜まることもある。自治会からも修理の要望はしているが、車椅子の方の移動にも配慮しなければならないので、早急な補修が必要だと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・産業分野で考えると、大学に在学中に起業する人もいますので、起業しやすい仕組みや場所があれば、人口減少の抑制や産業振興が進み、高齢化率も下がるのではないだろうか。また、豊幌地区には病院がないが、保育園もない。保育園ができれば、子育て世帯も増えるのではないかと思う。生涯学習については、大学がたくさんあるので、高齢者が学べる機会が増えるといいと思う。オンラインも普及しているので、デジタル化も力を入れたらどうだろうか。小学校もプログラミングの授業があるようなので、プログラミングの教室を開催するなど。また、観光スポットを巡回するバスがあれば、観光客も増えるのではないだろうか。あと、JR江別駅周辺を活気づけることが必要だと思う。JR駅が近いので、福祉に力を入れた地域のような位置づけにしてはどうだろうか。
- ・学校選択制は反対。なぜかという、農村地区では、学校が地域の中心的な位置づけであったが、学校選択制の導入以降、地元の小学校に通う児童が減り、小学校がなくなって、農村地区の過疎化が進むきっかけとなっている。学校選択制を無くすことは難しいと思うが、考えてほしい。
- ・産業分野では、企業誘致が最も効果的だと思う。
- ・元気なお年寄りが再就職という形で、子育てや介護の関係職にもっと参加できるようになったら良いと思う。無償のボランティアばかりでは続かない。サポートが必要な人が増えていく中、今の介護保険制度の形を変えないでやっていくことは難しいと思う。まず、介護保険制度を研究して、地域の力で支えるため、元気なお年寄りが参加できる体制ができれば良いと思う。小中学校から、水泳、スキー、裁縫などを学校で教える際に、地域の方に協力してもらえないかという案内が来る。同じように、子育てについても、経験のある高齢者が関わられるようになっていけば良いと思う。
- ・人口減少を抑えるために、他市から転入してくる状況を、なるべく長く続けていくことが大事だと思う。江別市内の子どもたちが、江別市で生活していきたいと思える魅力を増やすことが必要で、大学を卒業した後に、江別市内で働きたいと思えるような、魅力ある職場をもっと増やすことが必要だと思う。
- ・コロナ禍となり、在宅ワークが増えているが、VRやアバターで仕事をしたり、打ち合わせをしたり、コミュニケーションをとることが普及すると、障がい者も参加しやすくなり、仕事に結びつくこともあると思う。あと、マイナンバーカードの普及も、高齢者に対してもっとサポートしてあげた方が良いと思う。



31 江別市PTA連合会

令和4年7月29日（金） 江別市民会館2階21号室
午後6時～午後8時5分

（１）江別市の「強み」「弱み」は

- ・札幌市に近いことが、強みであり弱みでもある。札幌市に通勤・通学している人が多いと思う。反対に、札幌市からは、江別市のことを遠いと思っている人が多い気がする。札幌市に住む人が、北海道立図書館に来るときに遠く感じるらしい。札幌市から江別市への人の動きが少ないので、その動きがもっとつくれたら、江別市が活性化するのではないだろうか。



- ・強みは、農業や工業がかなり充実していて、基幹産業がしっかりしているところだと思っている。弱みは、基幹産業がしっかりしていることを、江別市民が知らないこと。良いことをいろいろやっているが、それを市民が知らない。広報戦略が必要で、もっと上手にPRしたほうが良いと思う。学校でも、江別市民ではない先生も多く、江別市の良さを知らないのも、もっと先生に江別市の良さが伝わると、子どもたちにも伝わると思う。市内には、大学もあるので、子どもたちに、このまま江別市に残って仕事がしたいと思わせるような未来を見せる戦略が必要なのではないだろうか。みんな札幌市の方ばかり見ているが、札幌市より良いことをたくさんやっている。それが見えていないことが残念。



- ・小中学校の教育はとても良いと思う。学校の規模がそれほど大きくなく、ちょうど良い。その中で、子どもたちも自由に、積極的に学校生活を送っている印象を持っている。中学校の先生からは、中学生の学力レベルも高いと聞いている。弱みは、医療資源が少し乏しいと感じている。病院は多いが、救急搬送を受け入れるところが、人口規模の割に少なく感じる。また、若者向けの魅力がもっとあると思う。大麻地区に札幌市からも食べに来る店があるなど、隠れた魅力があるがメジャーではない。遊ぶところに関しては、スケボーを楽しめる場所などがあると良いのではないかなと思う。
- ・札幌市から江別市に転入して感じたことは、公共交通の不便さ。地下鉄がないことも不便さを感じる要因になっている。札幌市に食事に行って、夜に江別市に帰ることを繰り返していると、遠さを感じる。乗り換えが発生することも、遠さを感じる一因になっていると思う。医療については、子どもを産める病院が一つしかなく、江別市で生まれる子どもも少ないのではないかな。江別市立病院が産科をやめたら、もっと減ると思う。ここ数年で思うのは、江別市内にカフェが増えたこと。野幌小学校の近くにできた「くまいちご」や、パンケーキの「totonocafe（トトノカフェ）」には、札幌

市からもお客さんが来ている。隠れ家的な要素を生みやすい環境なのではないかと思う。ただ、このようなカフェなど、たまり場になりそうなところは、郊外に点在しているので、交通手段が自転車である中高生には行きづらい。移動にはお金をかけたくないと思うので、自転車で行ける範囲に集まれる場所があると良い。

(2) 子どもの進学や就職について

- ・高校は江別市内に5校あるが、札幌市内の高校にも通えるので、選ばれない場合も多いと思う。大麻地区にある中学校の卒業生も、市外への進学者が多いと聞いている。自分の子どもも、市外に進学した。ただ、通える範囲に、多くの高校や大学があることは魅力になっていると思う。反対に、江別市内の高校や大学に、市外から進学している人も多い。
- ・就職については、江別市内にはいろいろな産業があり、魅力的な職場も多いので、それらの企業と、高校や大学が連携して仕事の魅力を伝えていくことが必要だと思う。学校の先生は、進路指導をする際に、少しでも良いといわれている大学に行かせることが使命になっていて、将来子どもたちがどんな仕事をするかはあまり考えないし、先生以外の仕事を知らない。そういう先生方に、地域が一体となって、地元の産業や仕事の魅力を伝えて、高校生や大学生にも伝わるようにしていかなければならないと思う。そうなれば、卒業後、一度は江別市を離れても、「江別市でこういう仕事をやりたい」という思いを持って戻ってくる子どもを育てられるのではないかと考えている。
- ・札幌学院大学を中心に、市内の大学や企業と連携して、江別市について学べる講座（江別学）を開催している。このような講座に参加して、江別市で働きたいと思う人には何らかのポイントを付けることや、企業説明会をセットで行うなど、学びと仕事との連携を進めたら良いのではないかと考える。小中学校でも、江別市の良さを伝えてほしい。教育の中身まで一歩踏み込めるような作戦を立てたら良いのではないだろうか。学校は、地域と連携した教育をやらなければならなくなっているのだから、運営委員会で協議するだけではなく、地域の想いを学校教育に反映させられる作戦を立てられたら良いと思う。
- ・今住んでいる地域には、親子で同じ小学校を卒業した人が多いと思う。地元に住っていることは、個人的には良いことだと思う。高校の進学になると、選択肢が多く、市外に進学する子も多いと思う。自分としては、子どもが最終的に、何らかの形で江別市に戻ってきて、江別市で生活をしてくれると親は嬉しいと思う。就職については、江別市内で就職できればベストだが、札幌市に通勤しても良いと思う。江別市の会社に勤めたら、江別市に住むことになると思うが、札幌市の会社に勤めて、江別市に住むことを選んでもらうには、生活拠点としてのプラスアルファの魅力が必要なのではないかと思う。
- ・札幌市出身で、高校は近さで、大学は学費重視で選んだ。大学卒業後、食品関係の研究開発部門に就職したが、今思えば、小学生の時に市内の企業見学に行ったことが記憶に残っており、それが就職先選びに影響したと思う。学生時代の経験は頭の片隅に残っていると思う。最近の学生は、就職サイトで就職情報を探すので、そのようなサイトで企業名が検索されるようにしないと、認知されない。そのような部分を意識し



た情報発信をするとともに、小中学校で記憶に残るような体験をしてもらおうと良いのではないかと思う。

- ・他の町に住んでいた時、町に高校がないために、多くの親が早い時間に子どもを送迎していた。そういう意味では江別市は恵まれている。ただ、進学よりも病院が重要だと思う。1時間以上かけて病院に通院していたこともある。子育てで重要なのは、安心して行ける病院が近くにあるかということ。進学については、子どもが自分で通えるかどうかが重要。学校と家とその周辺の環境は良いか、店が近くにあるか、治安は悪くないかなどが重要。そのような情報も含めて、学校の評判も今は口コミで広がる。江別市は、小学校から高校まで、また、大学も含めて、子どもが自分で通えることをアピールしたら良いと思うし、足りない部分は整備していけば良いと思う。

(3) 人口減少が進む中で、江別市が力を入れるべき分野について

- ・今住んでいる地区は戸建てが多いが、高齢者のひとり暮らしや、所有権はあるが住んでいない空き家が増えてきた。ずっと暮らしている世帯の方も、年配の方は分かるが、その子や孫の世代の住民は知らない。今後の地域の状況や住民相互の関係性を考えると、目に見える地域活動を行っていることは良いことだと思う。地域で人間関係を持ちながら暮らしていける環境が重要であり、地域コミュニティの活性化を図るための方策が必要だと思う。近所の商店街では、空いていた店舗で、学童保育ができたり、プログラミングやブックシェアリングの活動が行われていたり、従来の商店街とは違う形で活性化している。そのような活性化は大事だと思うし、プログラミング教室や家具屋など挑戦的な活動は若者には良いが、高齢者にはあまり縁がないと思うので、できれば、若者も高齢の方も一緒に関わられるような地域の活性化ができると良いと思う。
- ・人口減少は、子どもが少なくなっていくことが要因の一つとなっているが、諦めてはいけない。子どもが産める病院があることと、生まれた子どもが安心して暮らせる環境が重要だと思う。それに加えて、土地の使い方をもっと考えてはどうかと思う。江別市は公園が多くあって良いが、とても小さくて無駄になっている公園や、公園以外の使い方が良いのではないかと思う公園も多い。子どもたちが歩いて行ける、あるいは自転車が集まれる、基幹になる公園の整備を進める一方、そうでない公園は転用が必要ではないか。コルクえべつは一つの良い例だと思う。また、JR沿線から離れると不便なので、小型でも良いので、市として循環バスを運行して、高齢者に限らず、みんなが活用できるようになると、市内の商業施設やJR駅に行きやすくなるのではないだろうか。少しJR駅から離れたところでも住みやすくなると思う。
- ・若者に目を向けて、若者の意見を取り入れるべきだと思う。私の子どもが政治家に対して、「コロナ禍になって、おじさんたちが決めたことで、子どもが犠牲になっている」と言っていた。その話が心に響いた。考えてみると、子育てや教育の話をしているが、大人が決めており、当事者の子どもの話を聞いているかということ、あまりそうではないと思っている。子育てや教育にも、子どもの意見を取り入れていくべきだと思う。中高生からアンケートで意見を聞くことはとても大事なことであり、その結果を取り入れていくことが、若者にとって、魅力のあるまちづくりにつながると思う。就職の部分では、ベンチャー支援なども行ってほしい。大きな土地を必要としない企業も増えており、誘致するチャンスだと思う。そのような取組で働く場の拡大をめざ



してほしい。

- ・心と体の健康管理が大切であり、人の増減を問わず、地域医療の安定は重要だと思う。それと、コミュニティの構築。家族でも交流の度合いはいろいろだと思うが、コミュニティも家族と同じで、交流の積み重ねが大事だと思う。つながりの強さは、接している時間とも関係すると考えている。普段から地域内での交流がないと、急にコミュニティを築くことは難しい。それは、市が与えるものではなく、地域で築いてもらわなければならないと思う。市は、コミュニティを築く、きっかけづくりはできると思う。公園については、安全面が重視され、自由に遊んだり使ったりできない公園が多い。子ども目線で、どんな公園が必要なのかを考えるべきで、大人から与えられた公園ではなく、子どもが欲しい公園をつくることが大事だと思う。親がどう遊ばせたいかは大事だが、子どもがどう遊びたいかも大事だと思う。例えば、子どもや学生が徒歩や自転車で行ける範囲に、「食」や「職」が体験できる遊び場ができるといいなと思った。そこで高校生がアルバイトをすることができたり、子どもが直接、企業の人たちに質問する機会ができたりすると良いと思った。
- ・若者の発想を取り入れた、子ども参加型のまちづくりを進める意見は、とても良いと思う。夢もあり、面白い。江別市の公園は、札幌に比べれば使い勝手が良いと思う。ボール遊びもできるし、届出をすれば、手持ち花火やガスコンロでのバーベキューもできる。そのことはあまり知られていないので「江別市の公園でボール遊びしましょう」と、売りにしてはどうだろうか。

